

令和6年度 第3回 朝霞市緑化推進会議

次 第

日時 令和6年12月19日（木）
午前14時から16時（予定）
場所 市役所5階501会議室

1 開 会

2 議 題

- （1）市民アンケート調査の結果について
- （2）現行計画の事業の実績について
- （3）グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価（経過報告）について

3 伝達事項

- ・ワークショップ開催の予定

4 閉 会

【配布資料】

- 〔資料1〕 市民アンケート調査の結果
- 〔資料2〕 現行計画の実績の整理
- 〔資料3-1〕 グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価
- 〔資料3-2〕 グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価（当日資料）
- 〔資料4〕 朝霞市みどりの基本計画策定支援業務 工程表
- 〔参考資料1〕 第2回朝霞市緑化推進会議の主な意見と対応方針
- 〔参考資料2〕 第1回 生物多様性市民懇談会 議事録 要点記録
- 〔参考資料3〕 第2回 生物多様性市民懇談会 要点記録（当日資料）
- 〔参考資料4〕 朝霞市みどりの基本計画策定に向けたワークショップ開催のおしらせ（当日資料）

市民アンケート調査の結果について

1 アンケート調査の概要

1-1 目的

現行の「朝霞市みどりの基本計画」の改定にあたり、本市のみどりに対する市民意識を把握するとともに、今後のみどりのまちづくりに対する意向を把握し、計画改定の方角性を検討するため、市民アンケート調査を実施しました。

1-2 配布回収方法

- ・ 市内に在住する13歳以上の市民3000人(住民基本台帳より地域人口を勘案して無作為抽出)
- ・ 配布 → 無作為抽出による市民に、依頼状、アンケート用紙、返信用封筒を郵送
- ・ 回収 → 返信用封筒(返信先は朝霞市役所みどり公園課)、及び、またはWEB回答
- ・ 調査期間 → 配布:令和6年9月27日郵送、
回収:令和6年10月15日投函締切・WEB入力締切

1-3 回収数

- ・ 郵送法 737人
- ・ WEB回答 208人
- ・ 合計 945人 …回答率31.5%

1-4 設問項目

属性	年齢、職業、居住歴、世帯構成、居住地
問1	朝霞市のみどりに対する満足度
問2	豊か・魅力的と感じるみどり
問3	将来に残していきたいと思うみどり
問4	市内の公園の利用頻度
問5	お住いの近くの公園について
問6	みどり豊かなまちづくりを推進するための重要な施策
問7	緑化活動・緑地保全活動への参加経験
問8	市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験
問9	自然環境が有する多様な機能の認知度
問10	みどりを守るための仮定の支払い意思
意見・要望	みどりのまちづくりについてのご意見・ご要望

2 アンケート結果の要約

アンケート結果を要約すると以下の通りです。

1) みどりの満足度について(9ページ)

- 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」が最も高い評価を受けました(0.29)。
- 次いで、「お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」が高い評価を受けました(0.19)。
- 一方で、「公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」が最も低い評価を受けました(-0.03)。
- また、「災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」も低い評価を受けました(0.02)。

○年代別(10～13ページ)

- 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に最も満足しているのは40歳代(0.43)で、80歳代は最も低い評価(0.1)となっています。
- お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に最も満足しているのは20歳代(0.33)で、80歳代は最も低い評価(-0.01)となっています。

○地域別(14～16ページ)

- 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に最も満足しているのは南部地域(0.49)で、西部地域(0.03)が最も低い評価となっています。
- お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に最も満足しているのは南部地域(0.41)で、西部地域(-0.1)が最も低い評価となっています。

○居住年数別(17～19ページ)

- 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に最も満足しているのは5年以上10年未満(0.29)ですが、他の居住年数の評価との差は小さいです。
- お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に最も満足しているのは5年以上10年未満(0.37)で、30年以上(0.12)が最も低い評価となっています。

○世帯構成別(20～22ページ)

- 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に最も満足しているのは、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学生・中学生(0.29)ですが、他の世帯構成の評価との差は小さいです。
- お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に最も満足しているのは、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学生・中学生(0.29)で、その他(0.12)が最も低い評価となっています。
- 全体を通して、南部地域が全ての項目で最も高い評価を得ており、北部地域と西部地域で低い評価が多く見られます。また、5年未満、5年以上10年未満の居住者が全ての項目で高い評価をしており、長い居住年数の20年以上30年未満、30年以上の居住者で低い評価が多く見られます。

2) 豊か・魅力的と感じるみどり(23ページ)

- 市民が最も豊かで魅力的と感じるみどりの場所として、黒目川が最も多くの票を集めました(331人)。次いで、青葉台公園(116人)、シンボルロード(115人)、朝霞の森(106人)などが上位に挙げられています。また、新河岸川や越戸川も10人以上が魅力的と回答しています。
- 公園では、青葉台公園(116人)、城山公園(70人)、朝霞中央公園(43人)が上位に挙げられ、滝の根公園(35人)などの大きい公園も多くの人に魅力的とされています。

3) 将来に残していきたいと思うみどり(24ページ)

- 最も多く記載されたのは朝霞の森(158人)であり、次いで黒目川(154人)が多く挙げられました。また、地区公園の城山公園(85人)、青葉台公園(55人)、朝霞中央公園(13人)や近隣公園の滝の根公園(27人)といった広い公園も多くの人が記入しています。さらに、国有地である朝霞の森(158人)、シンボルロード(42人)、米軍基地跡地(34人)についても多くの人が残しておきたいと思うみどりに挙げています。

4) 公園の利用頻度(25ページ)

- 市内公園の平均利用回数は30.9回/年となりました。

○地域別

- 南部地域が35.9回と平均利用回数が最も多く、一方内間木地域(13.5回)が最も少ない回数となりました。

○年代別

- 30歳代が51.1回と平均利用回数が最も多く、10歳代(8.5回)が最も少ない回数となりました。

○世帯構成別

- 18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学校入学前である世帯の平均利用回数が73.8回と最も多く、単身者である世帯(19回)が最も少ない回数となっています。
- 全体を通してみると、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学校入学前である世帯が、73.8回と際立って多い利用回数となっています。

5) お住いの近くの公園について(26～29ページ)

○公園の評価

- ベンチなどの休憩施設が充実しているか:シンボルロードが最も高評価(0.75)、宮戸立出児童遊園地が最も低評価(-0.67)。
- 安全に遊べる遊具が充実しているか:あかね公園が最も高評価(0.5)、まぼりみなみ公園が最も低評価(-0.94)。
- 公園の植物がよい景観をつくっているか:シンボルロードが最も高評価(0.75)、まぼりみなみ公園が最も低評価(-0.89)。
- 夏の日よけになる木陰が十分あるか:シンボルロードが最も高評価(0.81)、まぼりみなみ公園が最も低評価(-0.89)。
- 樹木が成長しすぎて見通しが良くないか:星の森児童遊園地が最も見通しが良くない評価(-

0.38)。

- 雑草が生い茂っているため利用しにくい：宮戸立出児童遊園地が最も利用しにくい評価(-0.58)。
- 防犯上心配で利用しにくい：根岸児童遊園地が最も防犯上心配で利用しにくい評価(-0.40)。
- 近くの住民によく利用されているか：南の風公園が最も高評価(0.81)、近くに公園がないと回答した人が最も低評価。
- 特定の利用者が占有して利用しにくい：の森児童遊園地が最も利用しにくい評価(-0.38)。
- 全体的な評価では、シンボルロードが最も高評価(0.60)、根岸児童遊園地が最も低評価(-0.18)となっています10。

○地域別の評価

- ベンチなどの休憩施設が充実しているかでは、北部地域と西部地域ではマイナス評価となっています。
- 安全に遊べる遊具が充実していると評価されたのは、南部地域(0.16)ですが、その他の地域では全てマイナス評価となっています。
- 公園の植物がよい景観をつくっていると評価されたのは、南部地域(0.37)です。
- 夏の日よけになる木陰が十分あると評価されたのは、南部地域(0.36)です。
- 全体を通してみると、南部地域が高い評価を得ている一方で、内間木地域が低い評価を受けていることがわかります。

6) みどり豊かなまちづくりを推進するための重要な施策(31～32ページ)

- 最も多くの市民が支持した施策は、「道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する。」で、351件の回答がありました。
- 次いで、「だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる。」が292件、「健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの遊歩道を充実させる。」が242件の回答を集めました。
- 年代別では、80歳以上、20歳代、70歳代、10歳代が「だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる。」を支持する傾向が強く、世帯構成別では「18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学校入学前」、「その他」、「18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが中学を卒業している」、「単身者」が多く支持しています。また、地域別では、内間木地域が34.4%と最も多くの回答を集めました。
- 子育て世代では、レクリエーション空間を望む傾向があり、世代が上がるにつれ安全な歩行環境や自然とのふれあいを望む傾向にあります。

7) 緑化活動・緑地保全活動における参加経験、今後参加したい活動について(33～35ページ)

○参加経験

- 最も多くの市民が参加した経験がある活動は、「生け垣や花壇など自宅の庭の緑化」(22.9%)で、次いで「道路などの清掃活動」(21.2%)となっています。
- 高齢者は「道路などの清掃活動」や「生け垣や花壇など自宅の庭の緑化」への参加経験が高く、若い世代では低くなる傾向があります。
- 子育て世代では、「プレーパークなど子どもに自然との遊び方を教える」や「身近な生き物観察やみどりの調査」への参加経験が多い傾向にあります。
- 80歳以上や70歳代では、「全てに参加したことがない」が他の世代と比べて高くなっています。

○今後参加したい活動

- 最も多くの市民が今後参加したいと考えている活動は、「市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産」(9.3%)で、次いで「緑化のための募金活動」(6.9%)、「公園愛護会など公園の花植えや清掃活動への参加」(6.2%)、「地域の団体で木や花を育てる」(6.2%)となっています。
- 「里山の保全活動」、「地域の団体で木や花を育てる」、「緑化に関する講習会に参加する」、「公園の計画づくりや管理運営を考えるワークショップへの参加」は、今後取り組みたい活動とする回答が参加経験のある活動とする回答を大きく超える結果となりました。

○参加しない理由

- 市民が緑化活動や緑地保全活動に参加しない理由として最も多いのは、「参加する時間がない」(20.5%)という回答でした。

8) 市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験について(36～38ページ)

- 最も多くの市民が参加したイベントは「彩夏祭」で、64.8%の市民が参加経験があります。次いで「黒目川花まつり」(46.3%)、「身近な公園で開催される納涼祭やイベント」(27.3%)、「あさか冬のあかりテラス」(25.6%)、「ASAKA STREET TERRACE」(23.3%)となっています。
- また、子育て世代では、「朝霞の森プレーパーク」や「じゃがいも堀り等の農業収穫体験」、「移動式プレーパーク」などの体験型イベントへの参加が全体に比べて多い傾向にあります。

9) 自然環境が有する多様な機能の認知度について(39ページ)

- 最も多くの市民が認知している機能は、「CO2の吸収源となり地球温暖化を緩和する機能」(59.5%)で、次いで「日射の緩和、蒸散作用により都市の気温の上昇を緩和する機能」(47.8%)、「生き物の生息空間となり身近な生き物や地域固有の生き物を守る機能」(42.0%)、「水害の軽減など自然災害による被害を軽減する機能」(40.8%)の順となっています。
- 年代別では、30歳代の認知度が最も高く、60歳代、40歳代、20歳代と続きます。

10) みどりを守るための仮定の支払い意思について(40ページ)

- 市民が最も高く支払う意思を示したのは、「CO2の吸収源となり地球温暖化を緩和するみどり」で、支払い額は¥158.-でした。次いで、「水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり」(¥135.-)、「日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり」(¥125.-)、「子どもの遊び場や散策の場となるみどり」(¥121.-)の順となっています。
- 世帯構成別における子育て世代や地域別における内間木地域では、「子どもの遊び場や散策の場となるみどり」への支払額が最も高くなっています。

11) ご意見ご要望について(41～45ページ)

- 緑化管理については、公園や遊歩道、河川敷の景観や草刈りの管理、通学路の樹木や雑草の管理に関する意見が述べられています。具体的な場所として、朝霞三中の前の河川敷や黒目川の土手などが挙げられています。
- 朝霞市の良い所として、大きな公園や木々の並んだ通りが評価されており、現状の管理状況に満足しているという意見が多いです。黒目川と青葉台などの自然豊かな景色も残してほしいとのことです。
- 自然の保護に関しては、大規模な緑地の保全やマンション開発におけるみどりの量を増やす基準の提案が含まれています。
- 学校教育と緑化については、小中学校の緑化や学校教育での緑の大切さを学ぶ時間の増加が提案されています。
- 公園の整備に関しては、公園の木陰の増加や遊具の増設、水遊びができる公園の増加などの意見が述べられています。
- イベントについては、黒目川沿いのウォーキングイベントや川まつりの充実、ベンチの設置などの提案が含まれています。
- 市民参加に関しては、市民を巻き込んだ施策や個々人が育てられるグリーンの推奨などが提案されています。

3 集計結果

3-1 回答者の属性

- 回答者の年代は、50代(18.2%)が最も多く、次いで60代(17.9%)、40代(15.6%)となっています。
- 職業は、会社員・団体職員(30.3%)が最も多く、次いで無職(17.8%)、専業主婦・主夫(14.5%)となっています。
- 市内での居住年数は、30年以上(36.6%)が最も多く、次いで20年以上30年未満(20.0%)となっています。
- 世帯構成は、その他(24.7%)が最も多く、次いで単身者(22.6%)、配偶者がいて子どもがいない(21.3%)となっています。また、18歳未満の子どもがいる世帯は30.6%であり、そのうち一番上の子が小学校入学前の世帯は7.2%、一番上の子が小学生・中学生である世帯は11.0%となっています。

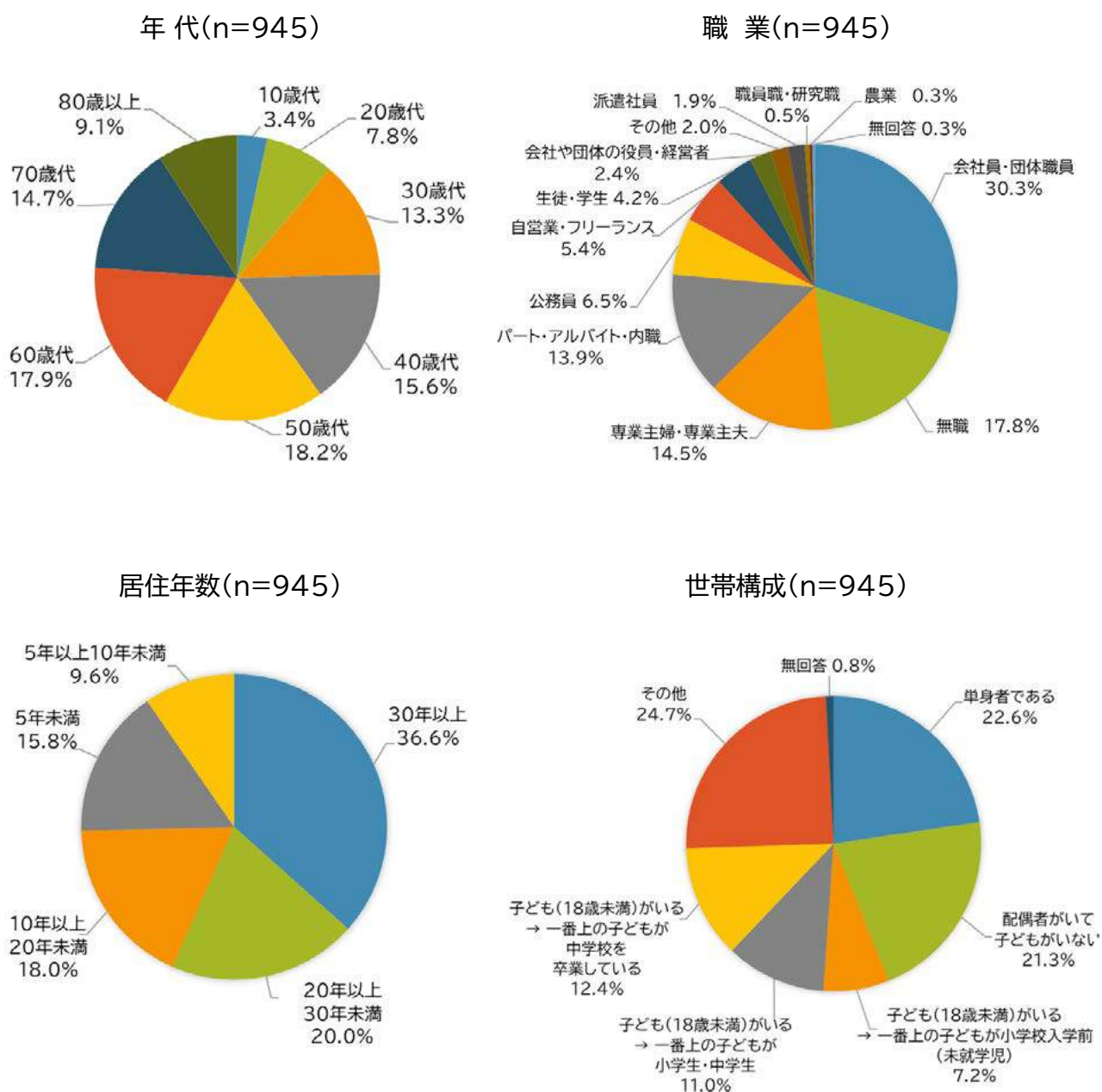


図 1 回答者の属性

- 回答者の居住地を地域別にみると、南部地域(38.2%)が最も多く、次いで東部地域(20.8%)、北部地域(19.8%)となっています。
- 町丁目別の回答者数は、本町1丁目(47人)が最も多く、次いで本町2丁目(40人)、根岸台7丁目(32人)、三原1丁目(26人)となっています。

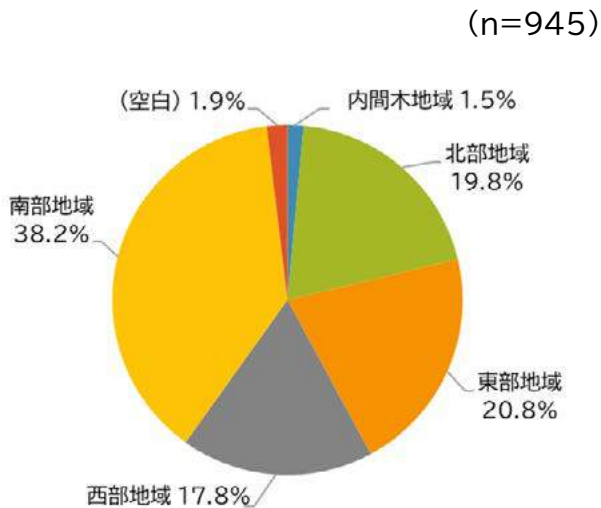


図 3 居住地《地域別》

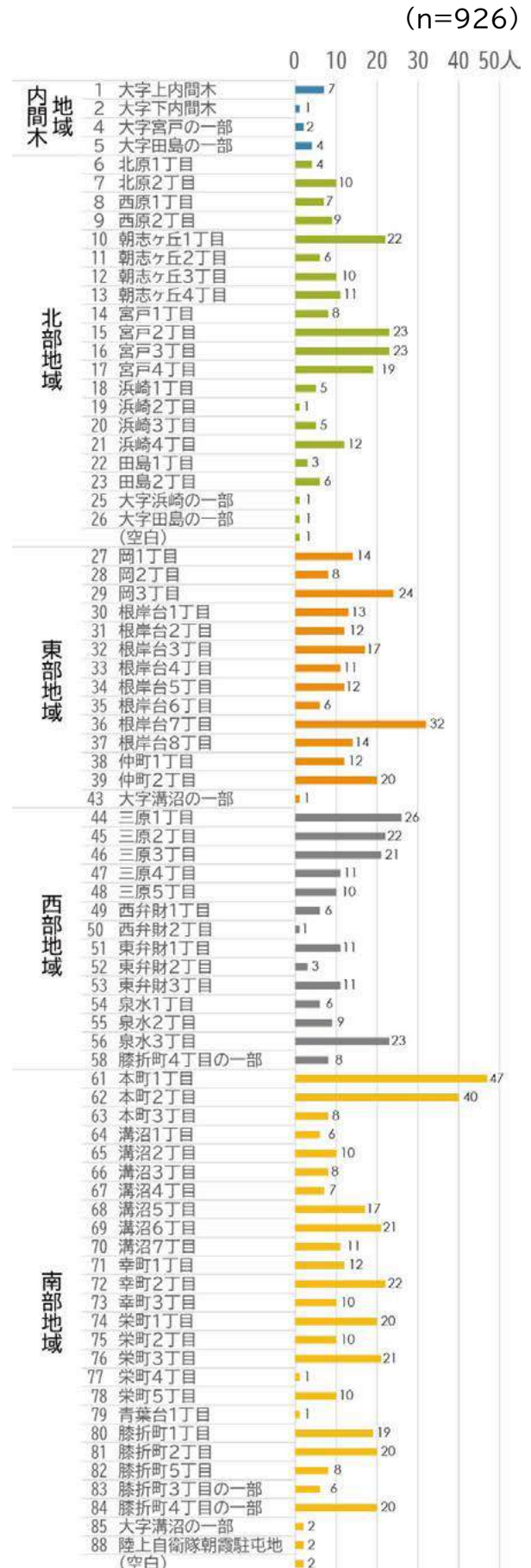


図 2 居住地《町丁目別》

3-2 朝霞市のみどりに対する満足度

問1	朝霞市の「みどり」に対するあなたの満足度についてお答えください。以下の項目について、“そう思う”から“そう思わない”まで5段階で評価して、番号に○をつけてください。
----	--

3-2-1 単純集計

- 朝霞市のみどりに対する満足度の評価の平均をみると、「a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」が一番高く(0.29)、次いで「b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」が2番目に高い値(0.19)となりました。
- 一方、「e. 公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」が、-0.03でマイナスの値となり、最も低い値となっています。また「g. 災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」も0.02で、2番目に低い値となりました。

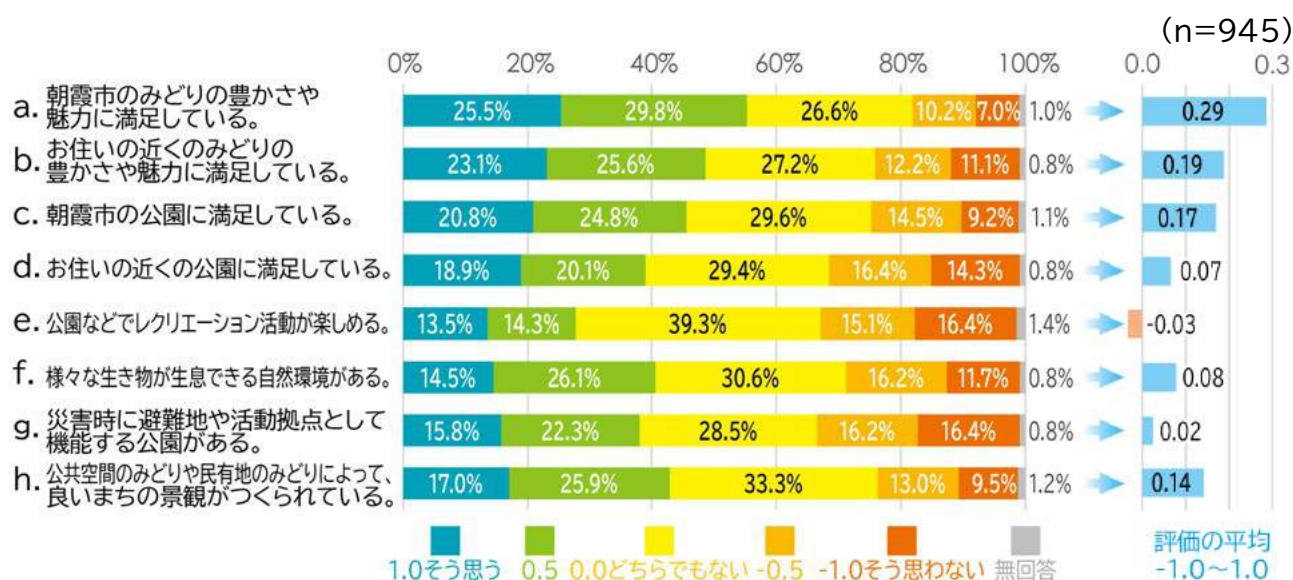


図4 朝霞市のみどりに対する満足度

3-2-2 回答者の属性によるクロス集計

1) 年代別

- 「a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」で最も評価が高いのは、40歳代(0.43)です。一方、80歳代は、0.1と低い評価となっています。
- 「b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」において最も評価が高いのは、20歳代(0.33)です。一方、80歳代の評価が-0.01と低い値となっています。
- 「a.の朝霞市のみどり」と「b.のお住いの近くのみどり」の評価を比較すると、全ての年代で、「a.の朝霞市のみどり」の方が高い評価となり、「b.のお住いの近くのみどり」が低くなっています。
- 「c. 朝霞市の公園に満足している。」で最も評価が高いのは20歳代(0.33)であるが、ついで70歳代(0.3)が高い評価となっています。一方、80歳代(0.06)が最も評価が低く、ついで60歳代(0.09)、50歳代(0.11)と同じように低い評価となっています。
- 「d. お住いの近くの公園に満足している。」で最も評価が高いのは、20歳代(0.22)です。一方、30歳代から50歳代の子育て世代や80歳代の値が低く、50歳代ではマイナスの評価(-0.02)となっています。
- 「c.朝霞市の公園」と「d.お住いの近くの公園」の評価を比較すると、全ての年代で、「c.朝霞市の公園」の方が高い評価となり、「d.お住いの近くの公園」が低くなっています。
- 「e. 公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」で最も評価が高いのは、10歳代(0.13)であり、他の年代の値との差が大きい。一方、60歳代から80歳代まではマイナスの評価となっており、80歳代(-0.17)が、最も低い評価となっています。
- 「f. 様々な生き物が生息できる自然環境がある。」で最も評価が高いのは、40歳代(0.23)であり、次いで20歳代、30歳代が高い評価となっています。一方で60歳代と80歳代がマイナス評価となっており、80歳代(-0.15)が最も低い評価となっています。
- 「g. 災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」で最も評価が高いのは、20歳代(0.24)であり、次いで40歳代が高い評価となっています。一方、50歳代、60歳代、80歳代でマイナスの評価となっています。
- 「h.公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつけられている。」で最も評価が高いのは、20歳代(0.38)ですが、10歳代から40歳代までは相対的に高い評価となっています。一方、80歳代(-0.01)は、マイナスの評価であり、最も低い評価となっています。

a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。

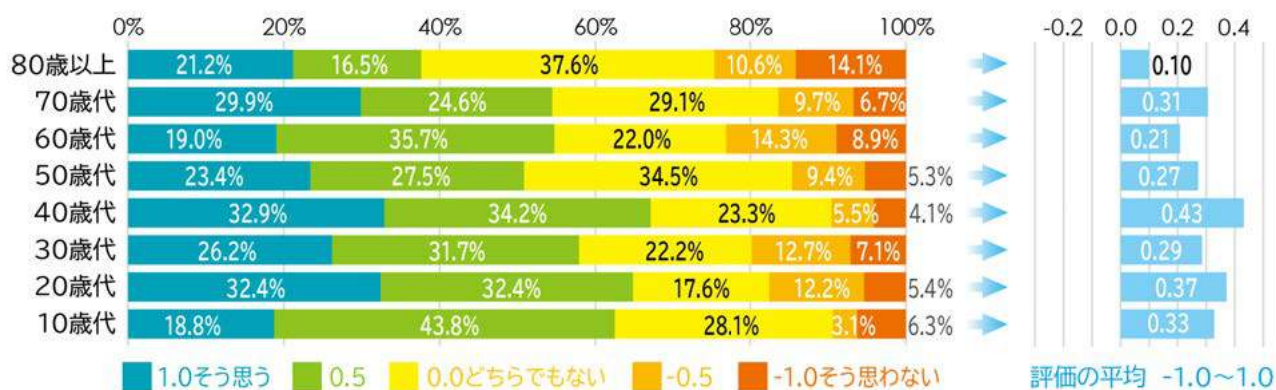


図 5 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。《年代別》

b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。

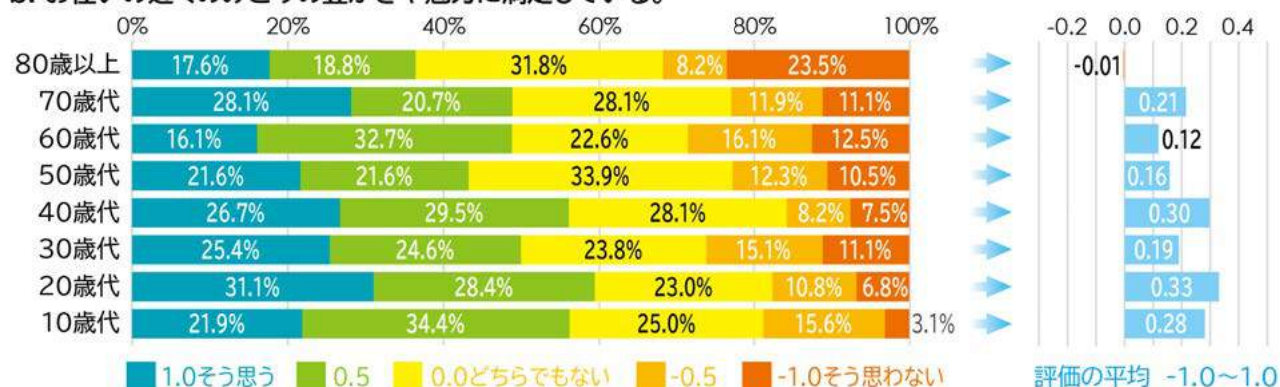


図 6 「お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」《年代別》

c. 朝霞市の公園に満足している。

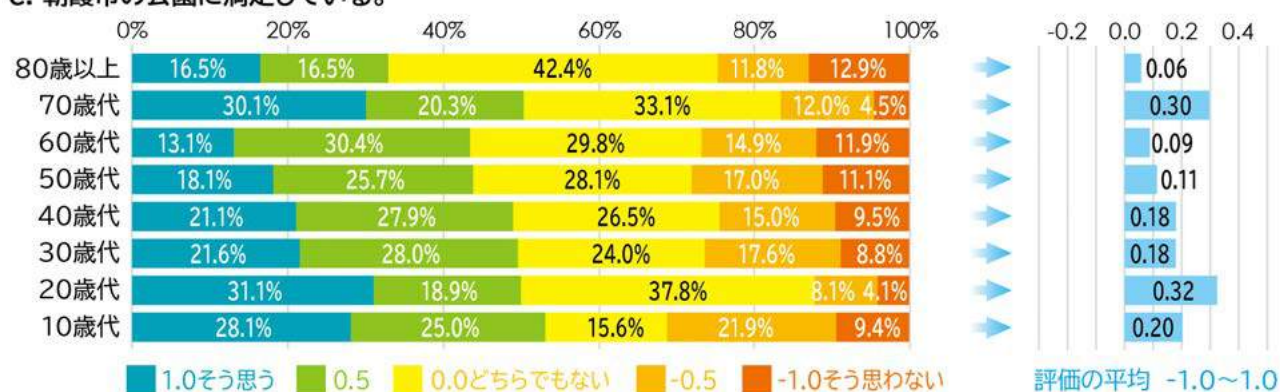


図 7 「朝霞市の公園に満足している。」《年代別》

d. お住いの近くの公園に満足している。

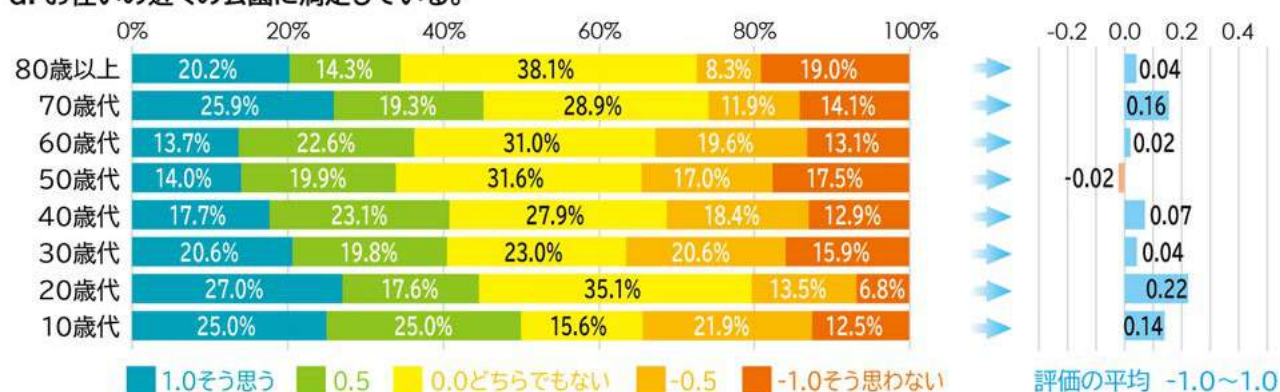


図 8 「お住いの近くの公園に満足している。」《年代別》

e. 公園などでレクリエーション活動が楽しめる。

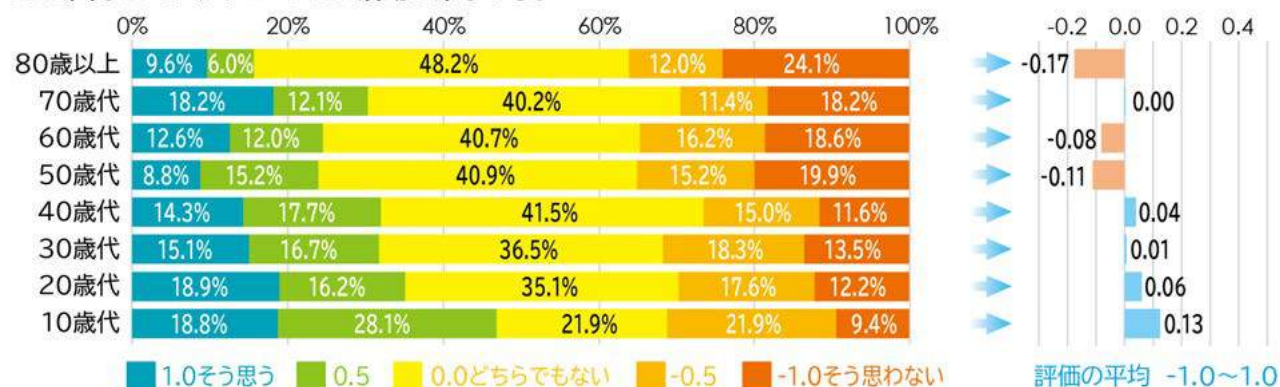


図 9 「公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」《年代別》

f. 様々な生き物が生息できる自然環境がある。

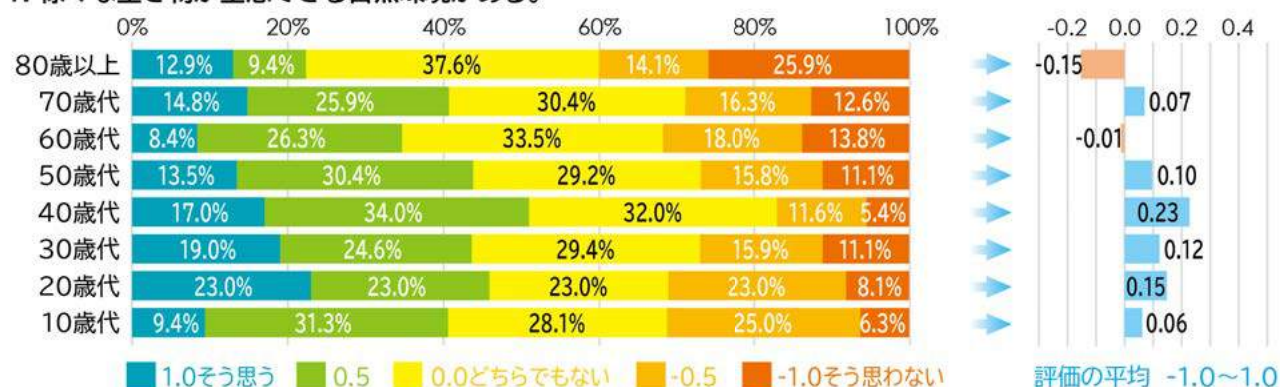


図 10 「様々な生き物が生息できる自然環境がある。」《年代別》

g. 災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。

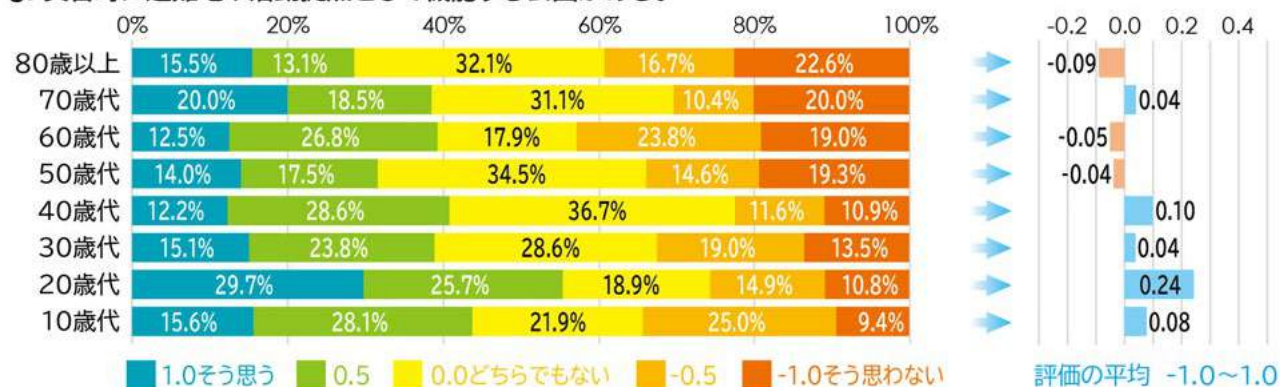


図 11 「災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」《年代別》

h.公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。

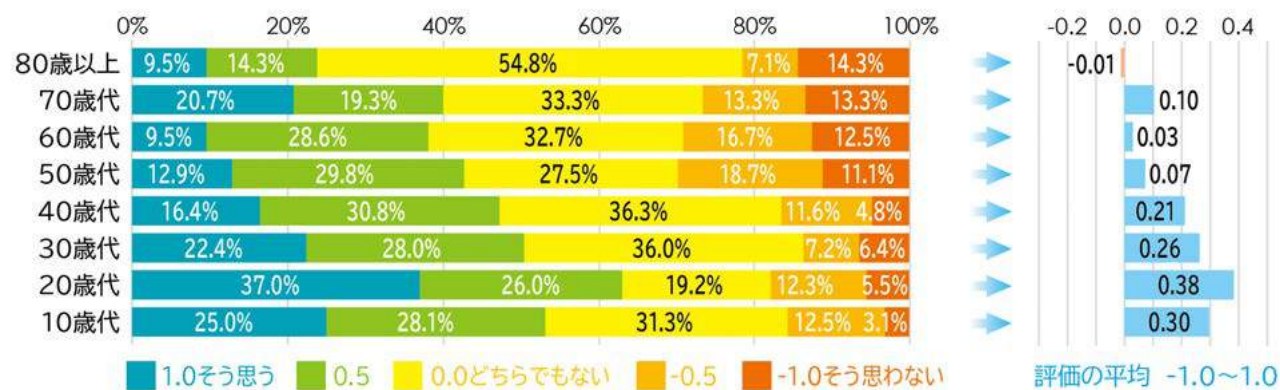


図 12 「公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。」《年代別》

2) 地域別

- 「a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」で最も評価が高いのは、南部地域(0.49)であり、次いで、東部地域、内間木地域と高い評価になっています。一方、北部地域と西部地域は、低い評価となっており、西部地域(0.03)が最も低い評価となっています。
- 「b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」において最も評価が高いのは、南部地域(0.41)であり、次いで東部地域、内間木地域と高い評価になっています。一方、北部地域と西部地域は、マイナス評価となっており、西部地域(-0.1)が最も低い評価となっています。
- 「a.の朝霞市のみどり」と「b.のお住いの近くのみどり」の評価を比較すると、内間木地区のみ「b.のお住いの近くのみどり」の方が高い評価であり、その他の地域では、「a.の朝霞市のみどり」の方が高い評価となっています。
- 「c. 朝霞市の公園に満足している。」で最も評価が高いのは、南部地域(0.39)であり、他の地域との評価の差が大きい結果となりました。一方、北部地域と西部地域は、マイナス評価となっており、西部地域(-0.03)が最も低い評価となっています。
- 「d. お住いの近くの公園に満足している。」で最も評価が高いのは、南部地域(0.29)であり、他の地域との評価の差が大きい結果となりました。一方、北部地域と東部地域、西部地域は、マイナス評価となっており、北部地域(-0.12)が最も低い評価となっています。
- 「c.朝霞市の公園」と「d.お住いの近くの公園」の評価を比較すると、全ての年代で、「c.朝霞市の公園」の方が高い評価となっています。
- 「e. 公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」で最も評価が高いのは、南部地域(0.18)であり、唯一プラスの評価となっています。一方、その他の地域は、マイナス評価となっており、北部地域(-0.26)が最も低い評価となっています。
- 「f. 様々な生き物が生息できる自然環境がある。」で最も評価が高いのは、東部地域(0.18)と南部地域(0.18)であり、次いで内間木地区が高い評価となっています。一方で北部地域と西部地域がマイナス評価となっており、西部地域が(-0.12)が最も低い評価となっています。
- 「g. 災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」で最も評価が高いのは、南部地域(0.22)であり、他の地域との差が大きい結果となりました。一方、北部地域と西部地域は、マイナス評価となっており、北部地域(-0.18)が最も低い評価となっています。
- 「h.公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。」で最も評価が高いのは、南部地域(0.34)であり、次いで東部地域(0.16)が高い値となっています。一方、北部地域と西部地域は、マイナス評価となっており、西部地域(-0.1)が最も低い評価となっています。
- 全体を通してみると、南部地域が全ての項目で最も高い値となっています。また、北部地域と西部地域で低い評価となっている項目が多い結果となりました。

a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。

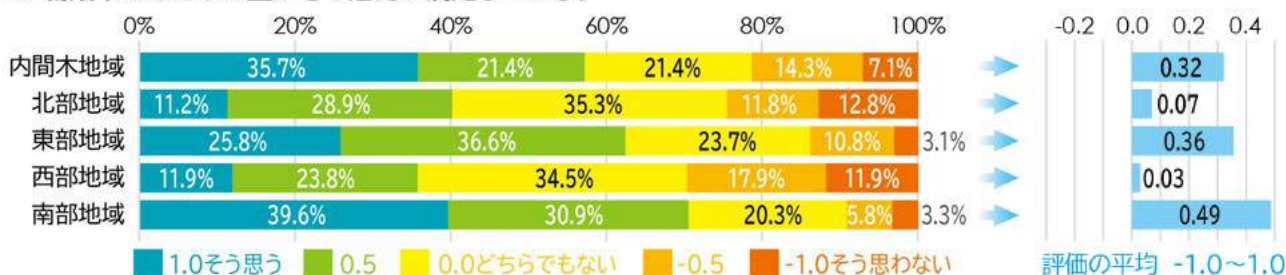


図 13 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」《地域別》

b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。

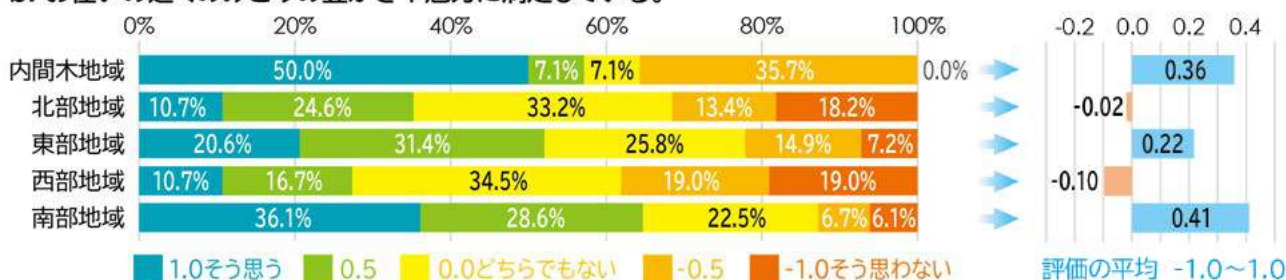


図 14 「お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」《地域別》

c. 朝霞市の公園に満足している。



図 15 「朝霞市の公園に満足している。」《地域別》

d. お住いの近くの公園に満足している。



図 16 「お住いの近くの公園に満足している。」《地域別》

e. 公園などでレクリエーション活動が楽しめる。



図 17 「公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」《地域別》

f. 様々な生き物が息できる自然環境がある。



図 18 「様々な生き物が生息できる自然環境がある。」《地域別》

g. 災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。

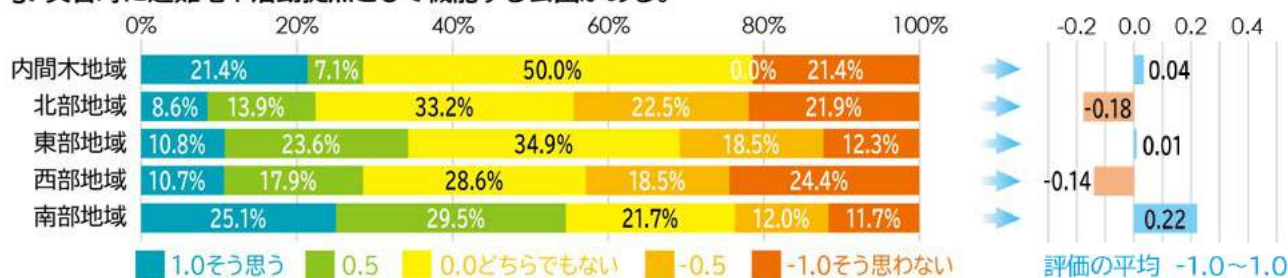


図 19 「災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」《地域別》

h. 公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。

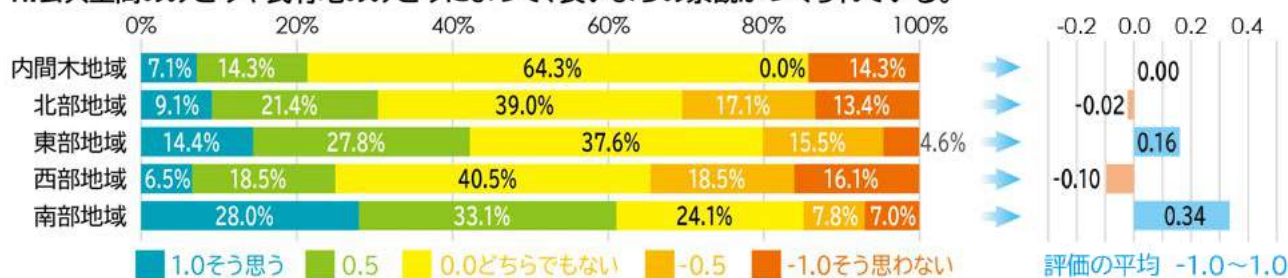


図 20 「公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。」《地域別》

3) 居住年数別

- 「a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」で最も評価が高いのは、5年以上10年未満(0.29)ですが、他の居住年数の評価との差は小さいものとなりました。
- 「b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」で最も評価が高いのは、5年以上10年未満(0.37)です。一方、30年以上(0.12)が最も低い評価となっています。
- 「a.の朝霞市のみどり」と「b.のお住いの近くのみどり」の評価を比較すると、全ての居住年数で、「a.の朝霞市のみどり」の方が高い評価となっています。
- 「c. 朝霞市の公園に満足している。」で最も評価が高いのは、5年未満(0.26)であり、次いで5年以上10年未満が高い評価となっています。一方、20年以上30年未満(0.11)が最も低い評価となっています。
- 「d. お住いの近くの公園に満足している。」で最も評価が高いのは、5年未満(0.15)であり、次いで5年以上10年未満が高い評価となっています。一方、30年以上(0.02)が最も低い評価となっています。
- 「c.朝霞市の公園」と「d.お住いの近くの公園」の評価を比較すると、全ての居住年数で、「c.朝霞市の公園」の方が高い評価となっています。
- 「e. 公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」で最も評価が高いのは、5年未満(0.07)であり、次いで5年以上10年未満が高い評価となっています。一方、その他の地域は、マイナス評価となっており、20年以上30年未満(-0.1)が最も低い評価となっています。
- 「f. 様々な生き物が生息できる自然環境がある。」で最も評価が高いのは、5年以上10年未満(0.2)であり、次いで5年未満、10年以上20年未満が高い評価となっています。一方、20年以上20年未満、30年以上では、低い評価となっており、30年以上(0.0)が最も低い評価となっています。
- 「g. 災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」で最も評価が高いのは、5年以上10年未満(0.13)であり、次いで5年未満、10年以上20年未満が高い評価となっています。一方、20年以上20年未満、30年以上では、低い評価となっており、30年以上(-0.05)がマイナスの値で最も低い評価となっています。
- 「h.公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。」で最も評価が高いのは、5年以上10年未満(0.27)であり、次いで5年未満、10年以上20年未満が高い評価となっています。一方、20年以上20年未満、30年以上では、低い評価となっており、30年以上(0.05)がマイナスの値で最も低い評価となっています。
- 全体を通してみると、5年未満、5年以上10年未満が全ての項目で高い値となっており、長い居住年数の20年以上30年未満、30年以上で低い評価となっています。

a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。

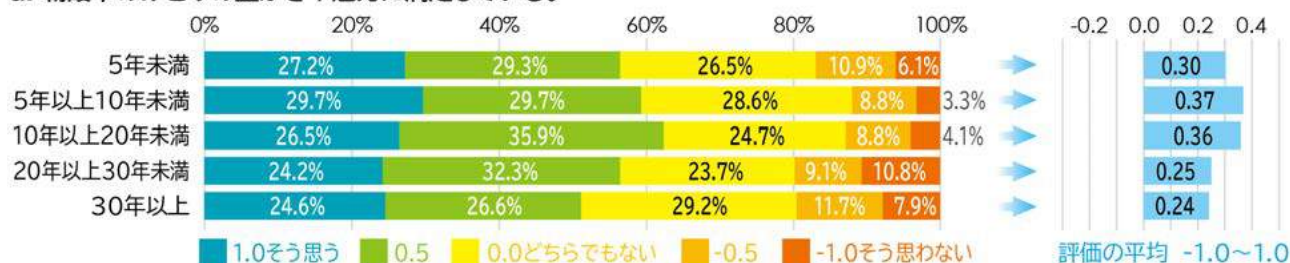


図 21 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。《居住年数別》

b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。

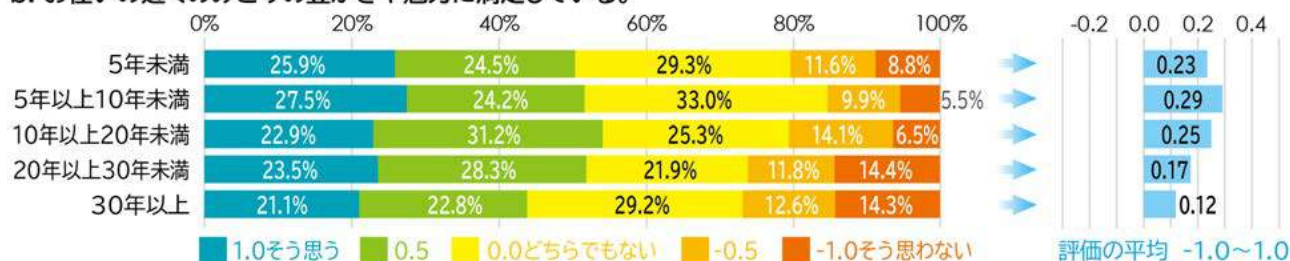


図 22 「お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」《居住年数別》

c. 朝霞市の公園に満足している。



図 23 「朝霞市の公園に満足している。」《居住年数別》

d. お住いの近くの公園に満足している。



図 24 「お住いの近くの公園に満足している。」《居住年数別》

e. 公園などでレクリエーション活動が楽しめる。

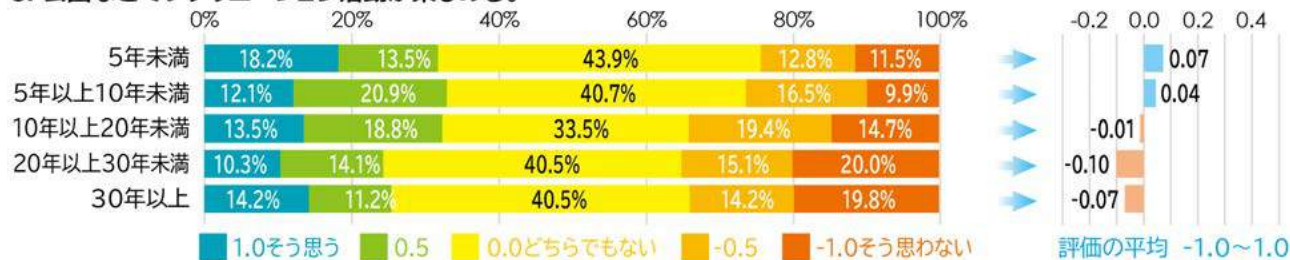


図 25 「公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」《居住年数別》

f. 様々な生き物が生息できる自然環境がある。



図 26 「様々な生き物が生息できる自然環境がある。」《居住年数別》

g. 災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。

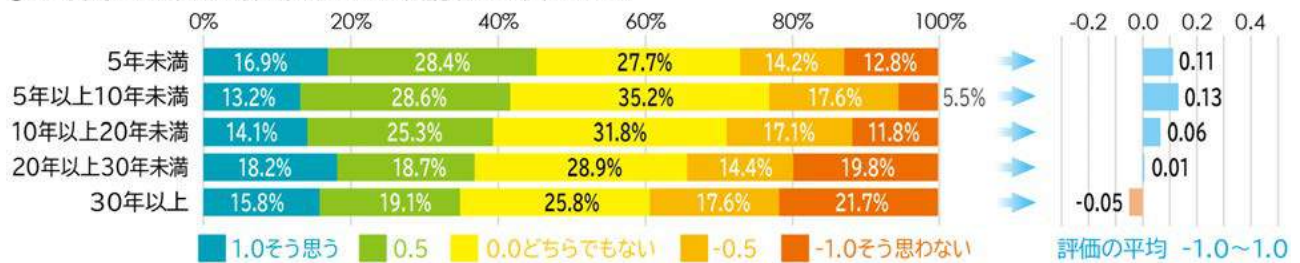


図 27 「災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」《居住年数別》

h. 公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。

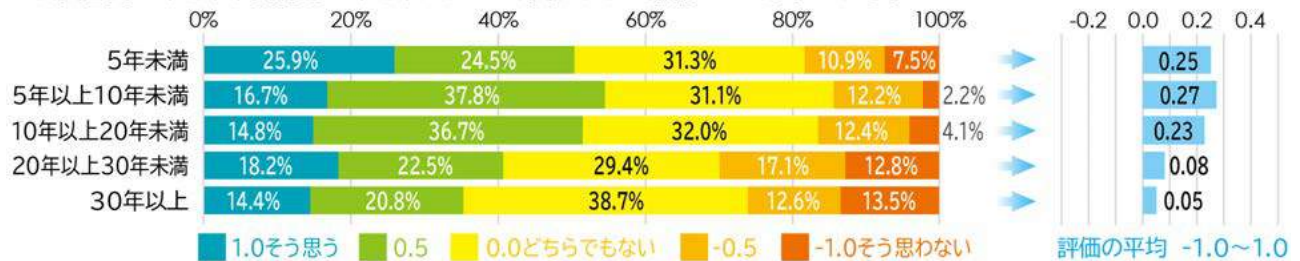


図 28 「公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。」《居住年数別》

4) 世帯構成別

- 「a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」で最も評価が高いのは、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学生・中学生(0.29)ですが、他の世帯構成の評価との差は小さいものとなっています。
- 「b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」で最も評価が高いのは、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学生・中学生(0.29)です。18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学校入学前とその他で少し評価が低く、その他(0.12)が最も低い評価となっています。
- 「a.朝霞市のみどり」と「b.お住まいの近くのみどり」の評価を比較すると、全ての世帯構成で、「a.朝霞市のみどり」の方が高い評価となっています。
- 「c. 朝霞市の公園に満足している。」で最も評価が高いのは、配偶者がいて子どもがいない(0.21)ですが、他の世帯構成の評価との差は小さいものとなりました。
- 「d. お住いの近くの公園に満足している。」で最も評価が高いのは、配偶者がいて子どもがいない(0.11)です。一方、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学校入学前(-0.04)の評価が、最も低くなっています。
- 「c.朝霞市の公園」と「d.お住まいの近くの公園」の評価を比較すると、全ての世帯構成で、「c.朝霞市の公園」の方が高い評価となっています。「d.お住まいの近くの公園」の評価は最も高く0.11であり、全体的に低い評価となっています。
- 「e. 公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」で最も評価が高いのは、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学生・中学生(0.04)であり、全体的に低い評価となっています。配偶者がいて子どもがいない人(-0.09)の評価が最も低くなっています。
- 「f. 様々な生き物が生息できる自然環境がある。」で最も評価が高いのは、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学生・中学生(0.29)であり、他の家族構成の評価との差が大きい結果となりました。一方、単身者である人(0.01)が最も低い評価となっています。
- 「g. 災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」で最も評価が高いのは、単身者であるひと(0.09)と18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学生・中学生である人(0.09)であり、他の世帯構成との差が大きい結果となりました。その他の世帯構成では低い評価となっており、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが中学を卒業している人(-0.02)とその他(-0.01)でマイナスの評価となっています。
- 「h.公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。」で最も評価が高いのは、18歳未満の子どもがいて小学校入学前(0.23)と小学生・中学生(0.23)ですが、他の世帯構成の評価との差は小さい結果となりました。
- 全体を通してみると、「d. お住いの近くの公園に満足している。」、「e. 公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」、「g. 災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」の評価がどの世帯構成においても低い値となっています。特に、「d. お住いの近くの公園に満足している。」において、18歳未満の子どもがいて一番上の子が小学生・中学生である人の評価だけがマイナスになっています。一方で、「f. 様々な生き物が生息できる自然環境がある。」においては、生き物とのふれあいが多いと思われる、18歳未満の子どもがいて一番上の子が小学生・中学生である人の評価が一番高くなっています。

a. 朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。

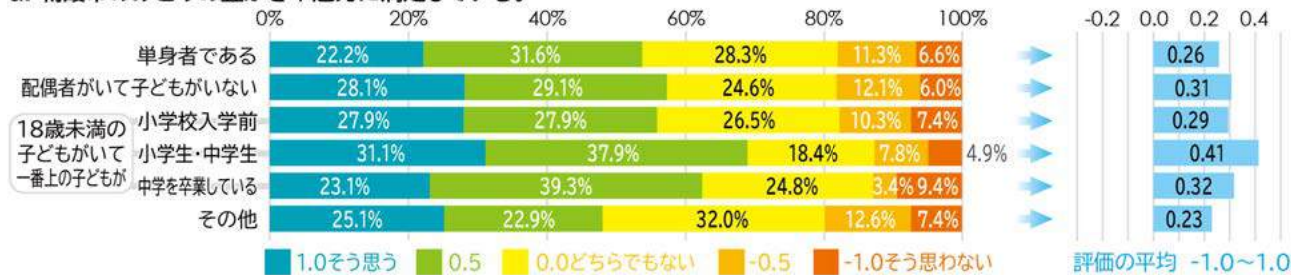


図 29 「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している。」《世帯構成別》

b. お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。

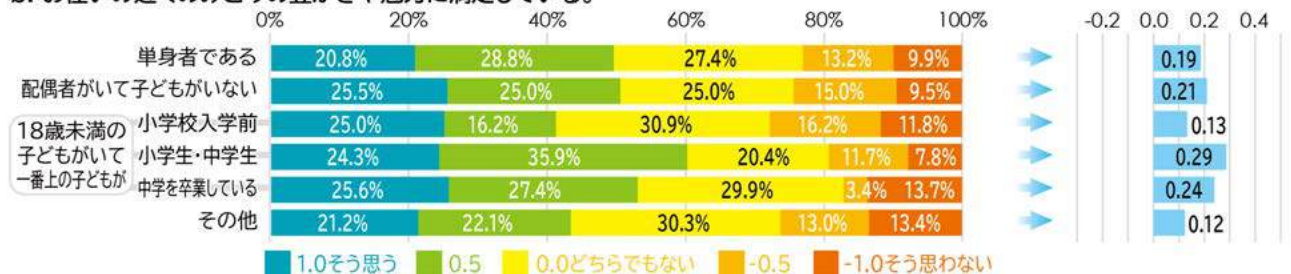


図 30 「お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している。」《世帯構成別》

c. 朝霞市の公園に満足している。

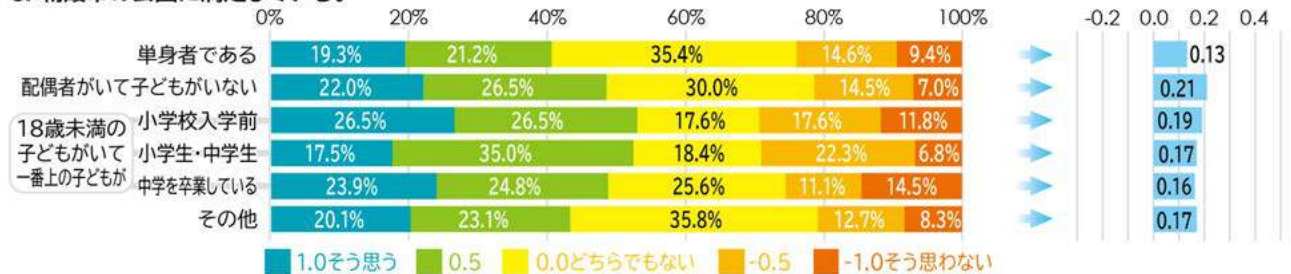


図 31 「朝霞市の公園に満足している。」《世帯構成別》

d. お住いの近くの公園に満足している。

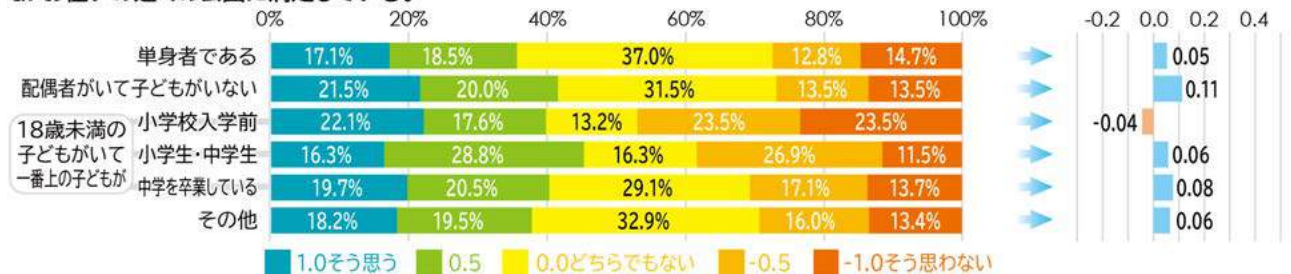


図 32 「お住いの近くの公園に満足している。」《世帯構成別》

e. 公園などでレクリエーション活動が楽しめる。

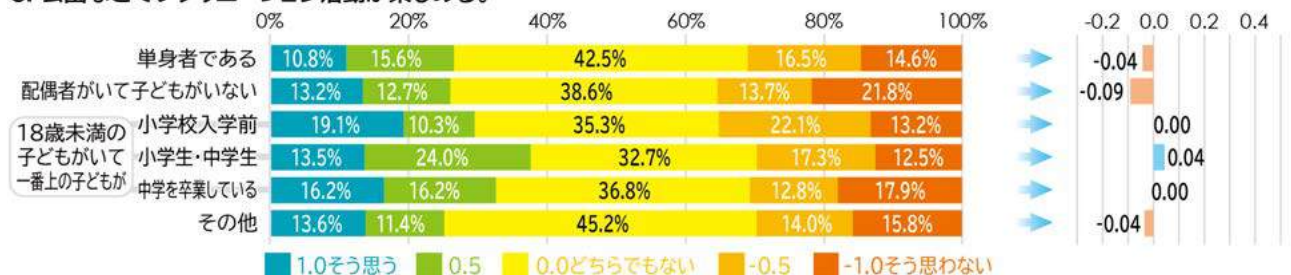


図 33 「公園などでレクリエーション活動が楽しめる。」《世帯構成別》

f. 様々な生き物が生息できる自然環境がある。

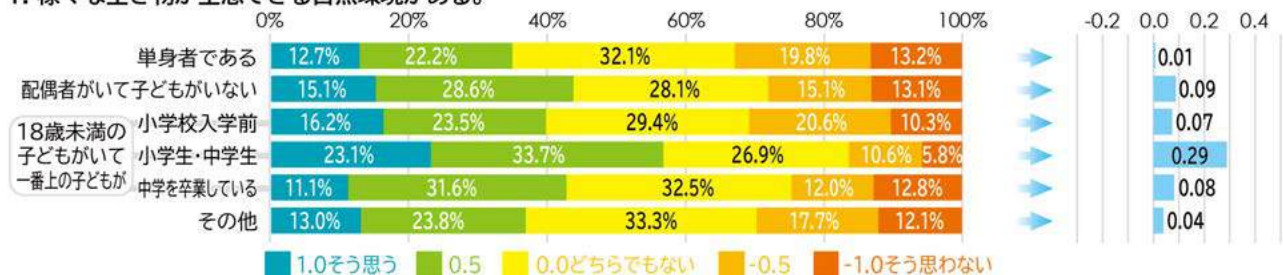


図 34 「様々な生き物が生息できる自然環境がある。」《世帯構成別》

g. 災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。

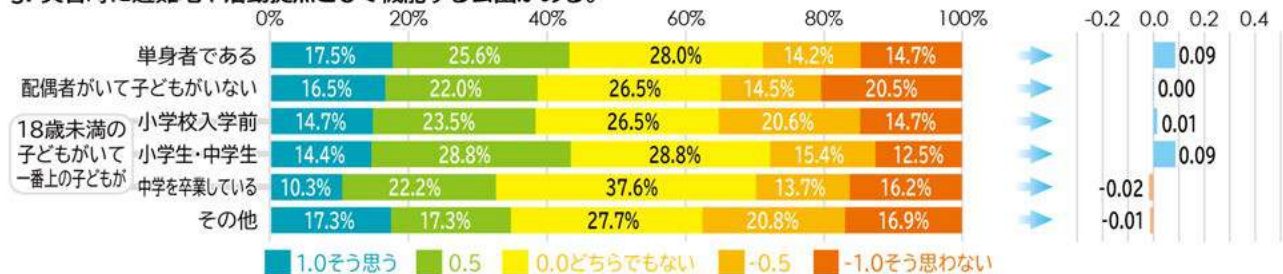


図 35 「災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある。」《世帯構成別》

h. 公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。



図 36 「公共空間のみどりや民有地のみどりによって、良いまちの景観がつくられている。」《世帯構成別》

3-3 豊か・魅力的と感じるみどり

問2 市内のどんな場所で、みどり・自然が豊か、魅力的であると感じますか。

- 最も多くの人がみどり・自然が豊か、魅力的であると感じているのは、黒目川(331人)でした。
- 次いで、青葉台公園(116人)・シンボルロード(115人)・朝霞の森(106人)・市役所周辺(48人)・中央公園(43人)・公園通り(29人)・米軍基地跡(15人)が上位に挙げられており、市役所から朝霞の森の一带を魅力的であると感じている人が多い結果となりました。
- 黒目川だけではなく、新河岸川や越戸川も10人以上が魅力的と回答しています。
- 公園では、地区公園の青葉台公園(116人)、城山公園(70人)、朝霞中央公園(43人)が上位に挙げられ、次いで近隣公園の滝の根公園(35人)と大きい公園を記載する人が多く見られました。

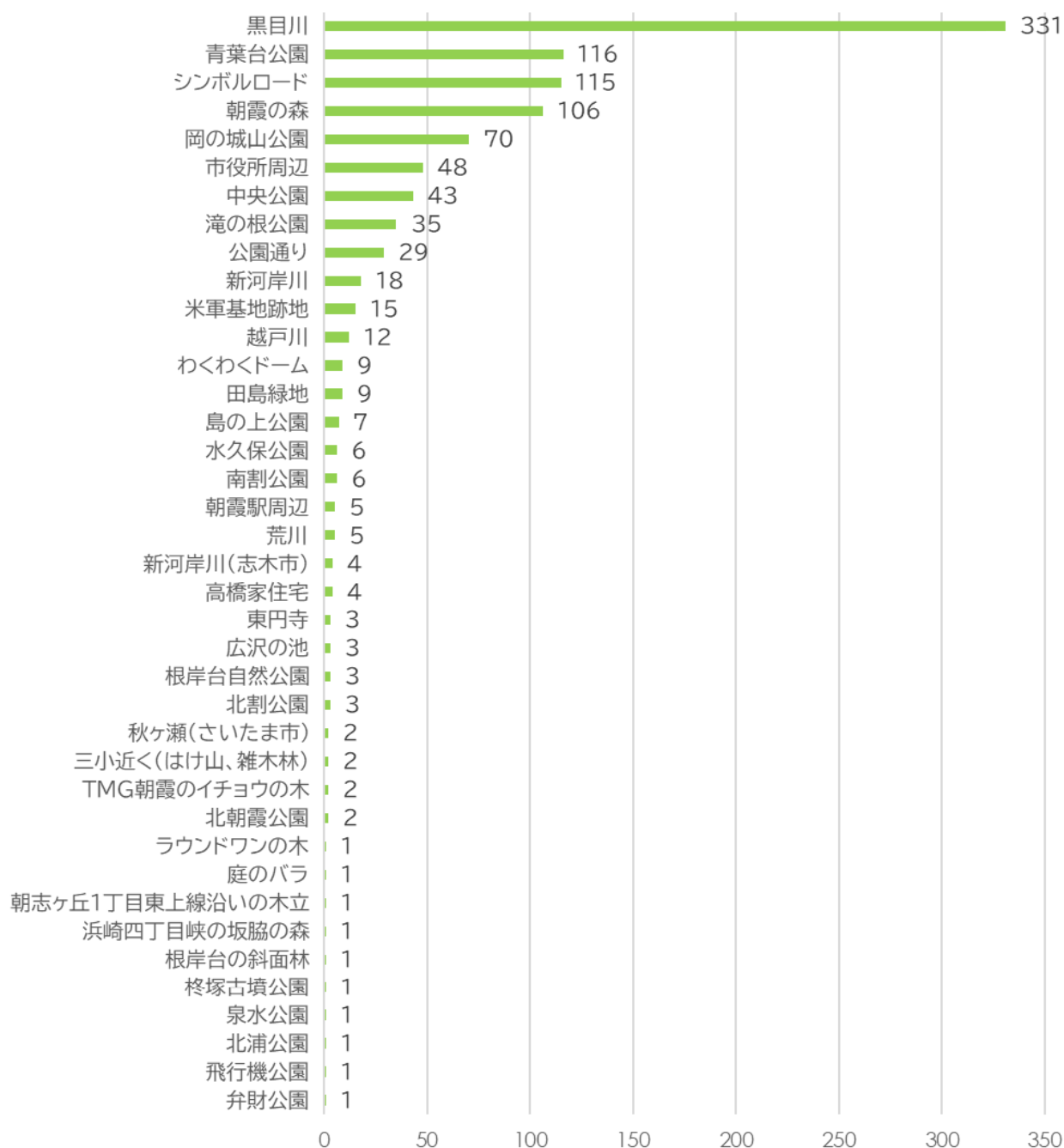


図 37 豊か・魅力的と感じるみどり(回答数)

3-4 将来に残していきたいと思うみどり

問3 将来にわたって残しておきたいと思うみどりがありましたらご記入ください。

- 最も多く記載されたのは朝霞の森(158人)であり、次いで黒目川(154人)が多く挙げられました。
- 地区公園の城山公園(85人)、青葉台公園(55人)、朝霞中央公園(13人)や近隣公園の滝の根公園(27人)といった広い公園も多くの方が記入しています。
- また、国有地である、朝霞の森(158人)、シンボルロード(42人)、米軍基地跡地(34人)についても多くの人が残しておきたいと思うみどりに挙げています。

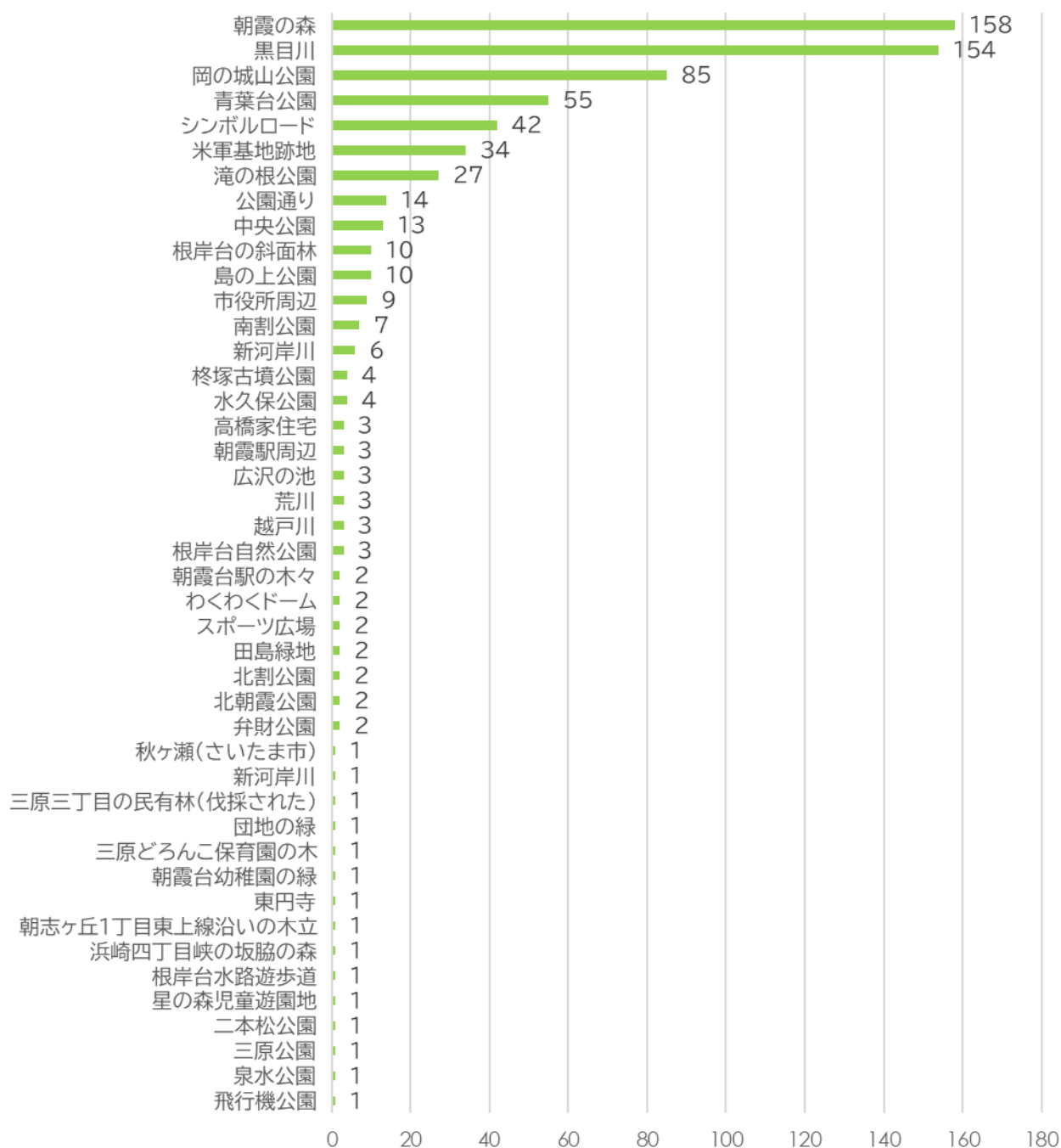


図 38 将来に残しておきたいみどり(回答数)

3-5 市内の公園の利用頻度

問4 あなたはどのくらいの頻度で、市内の公園を利用していますか。概ねの回数をご記入ください。この1年間に利用したことがなければ1年間に0回とご記入ください。

- 市内公園の平均利用回数は30.9回/年となりました。
- 地域別では、南部地域が35.9回と平均利用回数が最も多く、一方内間木地域(13.5回)が最も少ない回数となりました。
- 年代別集計では、30歳代が51.1回と平均利用回数が最も多く、10歳代(8.5回)が最も少ない回数となりました。
- 世帯構成別集計では、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学校入学前である世帯の平均利用回数が73.8回と最も多く、単身者である世帯(19回)が最も少ない回数となっている。
- 全体を通してみると、18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学校入学前である世帯が、73.8回と際立って多い利用回数となっています。

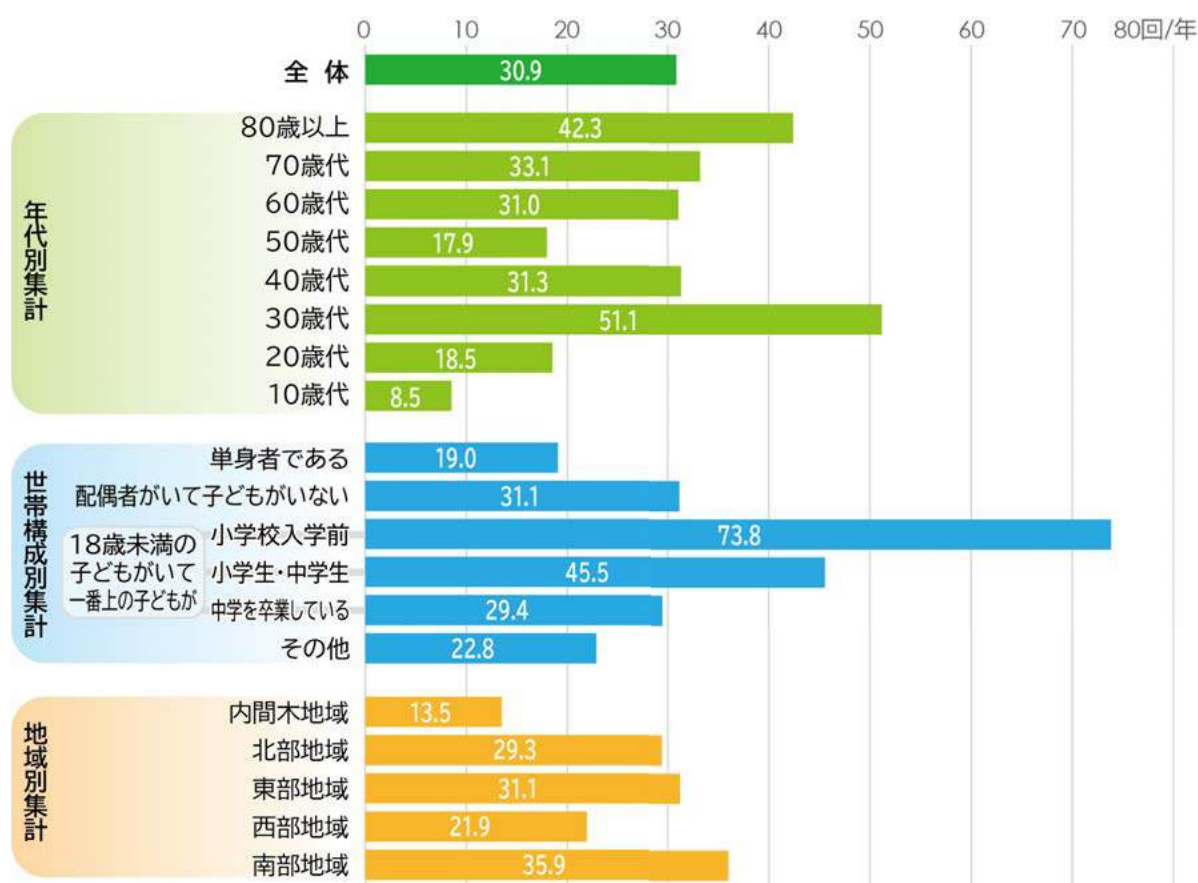


図 39 市内の公園利用頻度(全体・年代別・世帯構成別・地域別)

3-6 お住いの近くの公園について

問5	お住まいの近くの公園についておたずねします。公園の名称をご記入いただき、以下の項目について“そう思う”から“そう思わない”まで5段階で評価して番号に○をつけてください。
----	--

3-6-1 回答上位公園の集計

● 「a. ベンチなどの休憩施設が充実している。」という設問の評価は、シンボルロード(0.75)が最も高い評価となっています。一方、宮戸立出児童遊園地(-0.67)が最も低い評価となっています。 ● 「b.安全に遊べる遊具が充実している」という設問の評価は、あかね公園(0.5)が最も高い評価となっています。一方、まぼりみなみ公園(-0.94)が最も低い評価となっています。 ● 「c.公園の植物がよい景観をつくっている。」という設問の評価は、シンボルロード(0.75)が最も高い評価となっています。一方、まぼりみなみ公園(-0.89)が最も低い評価となっています。 ● 「d.夏の日よけになる木陰が十分ある。」という設問の評価は、シンボルロード(0.81)が最も高い評価となっています。一方、まぼりみなみ公園(-0.89)が最も低い評価となっています。 ● 「e.樹木が成長しすぎて見通しが良くない。」という設問の評価は、星の森児童遊園地が-0.38で最も見通しが良くないという評価となっています。 ● 「f.雑草が生い茂っているため利用しにくい。」という設問の評価は、宮戸立出児童遊園地が-0.58であり、最も「雑草が生い茂り、利用しにくい」という評価となっています。 ● 「g.防犯上心配で利用しにくい。」という設問の評価は、根岸児童遊園地が-0.40であり、最も防犯上心配で利用しにくい公園という評価になっています。 ● 「h.近くの住民によく利用されている。」という設問の評価は、南の風公園(0.81)で最も高い評価となっています。一方、「近くに公園がない」と回答した人の評価が最も低い評価となっています。 ● 「i. 特定の利用者が占有して利用しにくい」という設問の評価は、星の森児童遊園地が-0.38であり、最も特定の利用者が占有して利用しにくいという評価になっています。 ● 参考としてa～iまでの評価点の平均をみると、シンボルロードが0.60で最も高く、次いで朝霞中央公園(0.49)、根岸台6丁目児童遊園地(0.42)、あけぼの公園(0.40)、朝霞の森(0.38)の順となりました。一方、根岸児童遊園地が-0.18で最も低い結果となり、次いで宮戸立出児童遊園地(-0.17)、星の森児童遊園地(-0.10)の順となっています。
--

公園名	回答数	a.ベンチなどの休憩施設が充実している。	b.安全に遊べる遊具が充実している。	c.公園の植物がよい景観をつくっている。	d.夏場の日よけになる木陰が十分ある。	e.樹木が成長しすぎて見通しが悪い。	f.雑草が生い茂っているため利用しにくい。	g.防犯上心配で利用しにくい。	h.近くの住民によく利用されている。	i.特定の利用者が占有して利用しにくい。	総合点 -1.0~1.0 (参考)
シンボルロード	8	0.75	0.21	0.75	0.81	0.38	0.69	0.44	0.69	0.64	0.60
朝霞中央公園	47	0.51	0.37	0.62	0.54	0.36	0.47	0.44	0.56	0.52	0.49
根岸台6丁目児童遊園地	5	-0.40	0.30	0.30	-0.10	0.80	0.80	0.80	0.60	0.67	0.42
あけぼの公園	16	0.28	0.33	0.47	0.25	0.34	0.40	0.38	0.54	0.64	0.40
朝霞の森	26	0.13	-0.03	0.65	0.50	0.26	0.36	0.45	0.59	0.50	0.38
青葉台公園	96	0.29	0.28	0.54	0.46	0.18	0.35	0.33	0.65	0.34	0.38
五反田公園	13	0.27	0.33	0.31	0.62	0.12	0.42	0.38	0.54	0.42	0.38
南割公園	25	-0.10	0.06	0.46	0.62	0.29	0.59	0.34	0.67	0.38	0.37
島の上公園	19	0.29	0.45	0.58	0.63	0.16	0.26	0.06	0.42	0.43	0.36
南の風公園	8	0.31	0.13	0.38	-0.14	0.25	0.63	0.19	0.81	0.71	0.36
北朝霞公園	39	0.05	0.20	0.32	0.28	0.42	0.58	0.31	0.54	0.40	0.35
北浦公園	20	0.18	0.17	0.22	0.11	0.37	0.66	0.34	0.47	0.53	0.34
泉水公園	17	0.13	0.20	0.26	0.59	0.26	0.62	0.12	0.41	0.41	0.33
越戸公園	8	0.25	0.38	0.13	0.06	0.21	0.29	0.50	0.44	0.64	0.32
弁財公園	20	-0.20	0.08	0.18	-0.18	0.40	0.63	0.45	0.76	0.59	0.30
浜崎公園	5	0.10	0.00	0.40	-0.10	0.50	0.40	0.40	0.60	0.40	0.30
三原公園	25	0.09	0.09	-0.11	-0.24	0.57	0.50	0.63	0.67	0.22	0.27
滝の根公園	44	-0.02	0.18	0.33	0.65	-0.08	0.24	0.02	0.50	0.50	0.26
北割公園	28	-0.25	-0.13	0.14	0.09	0.38	0.57	0.39	0.60	0.30	0.23
宮戸ハケタ公園	10	0.44	0.38	0.19	-0.31	0.00	0.06	0.25	0.78	0.25	0.22
緑ヶ丘児童遊園地	5	-0.30	-0.30	0.30	-0.50	0.50	0.70	0.90	0.25	0.33	0.21
浜崎峡(ハケ)公園	6	0.08	0.20	0.08	0.08	0.25	-0.17	0.50	0.50	0.33	0.21
城山公園	47	0.05	0.06	0.31	0.56	-0.02	-0.01	-0.03	0.33	0.43	0.19
あかね公園	7	0.00	0.50	-0.42	-0.40	0.50	0.00	0.42	0.64	0.40	0.18
水久保公園	9	0.19	-0.31	0.31	0.75	0.19	0.36	0.00	-0.19	0.31	0.18
二本松公園	7	0.08	-0.17	-0.14	0.00	0.25	0.42	0.00	0.64	0.50	0.18
根岸台自然公園	17	0.06	0.38	0.38	0.37	-0.13	-0.19	0.06	0.19	0.40	0.17
まぼりみなみ公園	9	0.17	-0.94	-0.89	-0.89	0.94	0.39	0.61	0.56	0.50	0.05
まぼりひがし公園	8	-0.14	-0.79	-0.36	-0.57	0.50	0.29	0.36	0.44	0.50	0.02
宮戸大山公園	11	-0.55	-0.09	-0.41	-0.09	0.14	-0.50	0.27	0.25	0.32	-0.07
中道公園	13	-0.27	-0.60	-0.13	-0.09	0.00	0.15	-0.32	0.32	0.15	-0.09
星の森児童遊園地	5	-0.38	-0.38	-0.38	0.38	-0.38	0.38	-0.25	0.50	-0.38	-0.10
宮戸立出児童遊園地	6	-0.67	-0.17	-0.50	-0.75	0.25	-0.58	0.08	0.42	0.40	-0.17
根岸児童遊園地	6	-0.42	-0.42	-0.17	-0.58	-0.08	-0.20	-0.40	0.33	0.30	-0.18
近くに公園がない	17	-0.50	-0.40	-0.08	-0.42	0.25	0.42	0.25	-0.40	0.20	-0.08
わからない	22	-0.17	-0.25	0.00	-0.25	0.40	0.50	-0.14	-0.30	0.50	0.03
無回答	175	-0.05	-0.05	0.03	-0.02	0.14	0.08	0.20	0.18	0.16	0.08

図 40 回答された公園の集計結果(4回答以下は除く)

3-6-2 全体と地域別の集計

- 「a. ベンチなどの休憩施設が充実している。」という設問の評価は、0.05でどちらでもないに近い評価となりました。最も評価が高いのは、内間木地区(0.22)、次いで南部地域(0.19)で高い評価となっています。一方、北部地域と西部地域ではマイナス評価となっています。
- 「b.安全に遊べる遊具が充実している」という設問の評価は、0.05でどちらでもないに近い評価となりました。最も評価が高いのは南部地域(0.16)ですが、その他の地域では全てマイナス評価となっています。
- 「c.公園の植物がよい景観をつくっている。」という設問の評価は、0.2でどちらでもないに近い評価となっています。南部地域(0.37)のみ、ややそう思うに近い値であり、最も高い評価になっています。
- 「d.夏の日よけになる木陰が十分ある。」という設問の評価は、0.17であり、どちらでもないに近い評価となっています。南部地域(0.36)のみ、ややそう思うに近い値であり、最も高い評価になっています。一方、その他の地域では0.1以下の低い評価となっています。
- 「e.樹木が成長しすぎて見通しが良くない。」という設問の評価は、-0.24であり、「ややそう思わない」に近い、プラスの評価となっていますが、内間木地域の評価のみ、低い値となっています。
- 「f.雑草が生い茂っているため利用しにくい。」という設問の評価は、-0.29であり、「ややそう思わない」に近い、プラスの評価となっています。
- 「g.防犯上心配で利用しにくい。」という設問の評価は、-0.25であり、「ややそう思わない」に近い、プラスの評価となっています。内間木地域のみ0.11と防犯上心配であるという評価となっています。
- 「h.近くの住民によく利用されている。」という設問の評価は、0.25であり、「ややそう思う」に近い評価となっていますが、内間木地区のみ「そう思う」と答えた人が極端に少なく、「利用されていない」という評価となっています。
- 「i. 特定の利用者が占有して利用しにくい」という設問の評価は、-0.37であり、「ややそう思わない」に近い、プラスの評価になっています。
- 全体を通してみると、「a. ベンチなどの休憩施設が充実している」、「b.安全に遊べる遊具が充実している」、「c.公園の植物がよい景観をつくっている」、「d.夏の日よけになる木陰が十分ある。」という設問では、共通して南部地域が高い評価となっている。一方、後半の設問に関しては、内間木地域が高い値となっており、「e.樹木が成長しすぎて見通しが良くない」、「f.雑草が生い茂っているため利用しにくい」、「g.防犯上心配で利用しにくい。」という評価となっています。また、「h.近くの住民によく利用されている。」という設問も内間木地域のみ低い評価となっています。

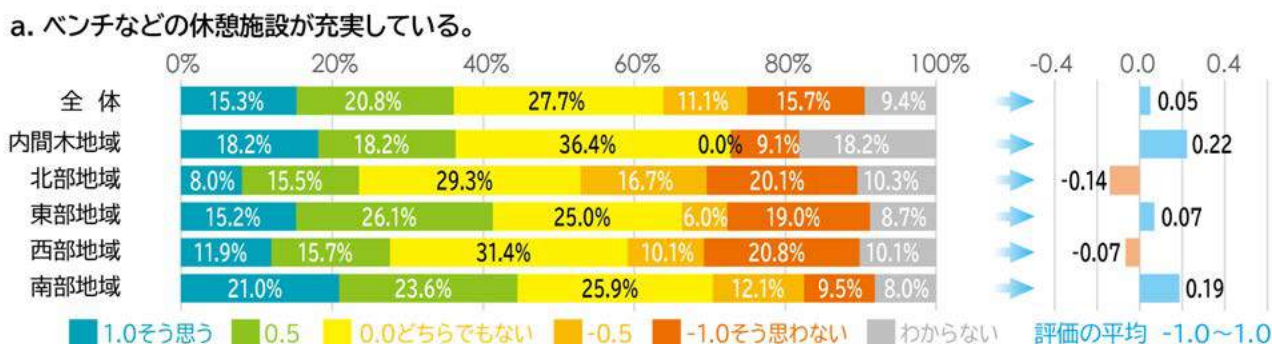


図 41 「ベンチなどの休憩施設が充実している。」「全体・地域別」

b. 安全に遊べる遊具が充実している。

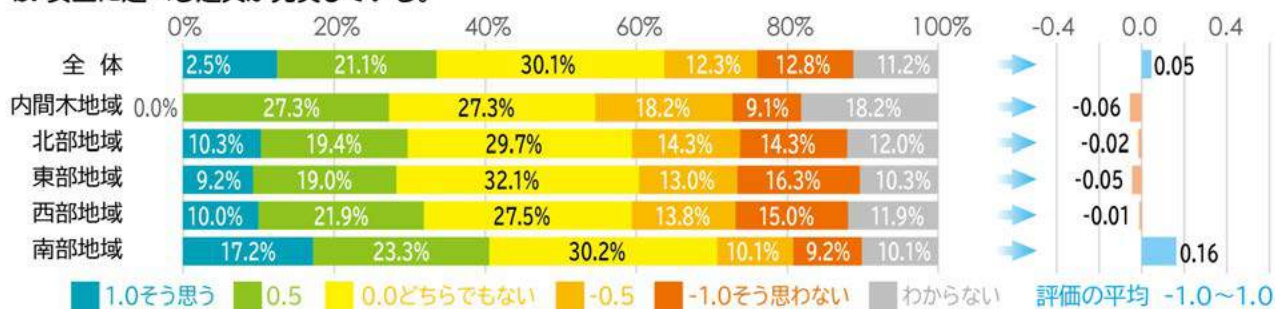


図 42 「安全に遊べる遊具が充実している。」《全体・地域別》

c. 公園の植物がよい景観をつくっている。

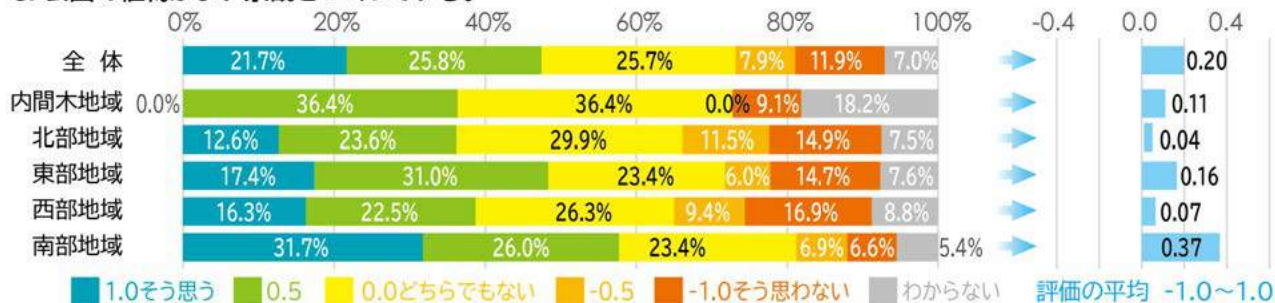


図 43 「公園の植物がよい景観をつくっている。」《全体・地域別》

d. 夏場の日よけになる木陰が十分ある。

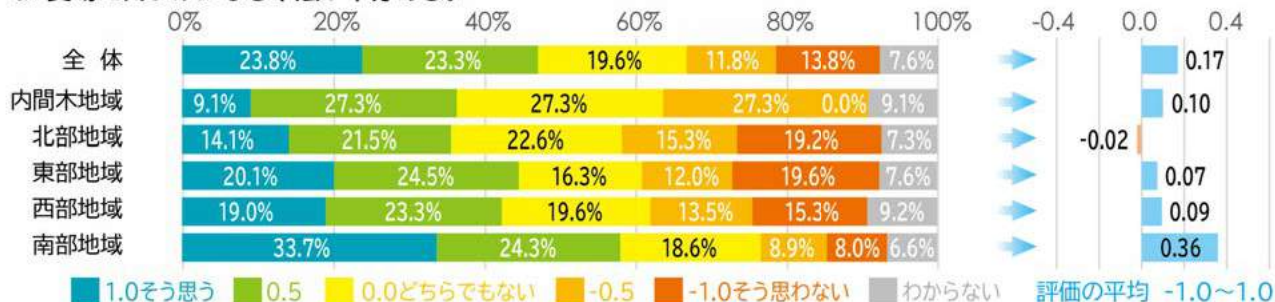


図 44 「夏場の日よけになる木陰が十分にある。」《全体・地域別》

e. 樹木が成長しすぎて見通しが良くない。

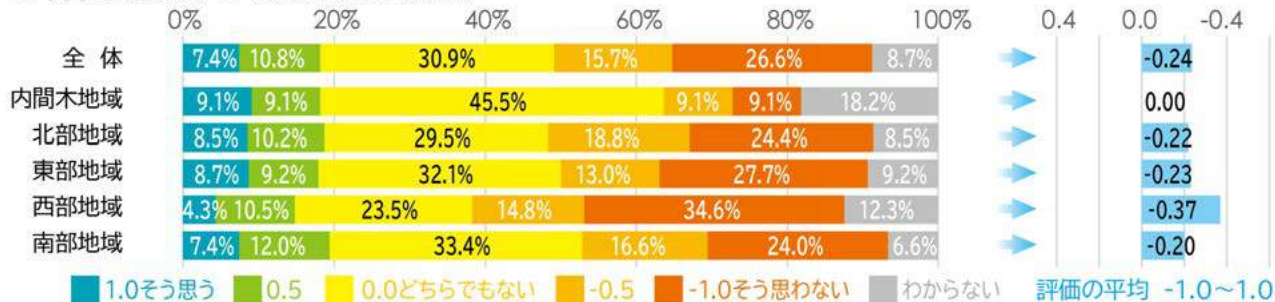


図 45 「樹木が成長しすぎて見通しが良くない。」《全体・地域別》

f. 雑草が生い茂っているため利用しにくい。

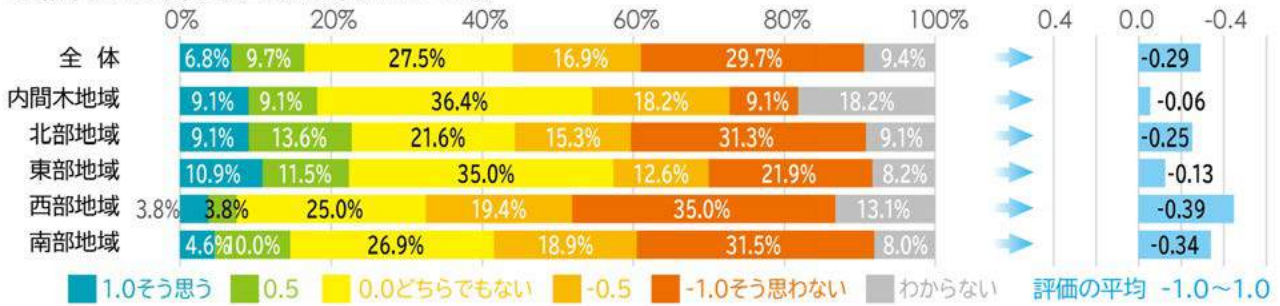


図 46 「雑草が生い茂っているため利用しにくい。」《全体・地域別》

g. 防犯上心配で利用しにくい。

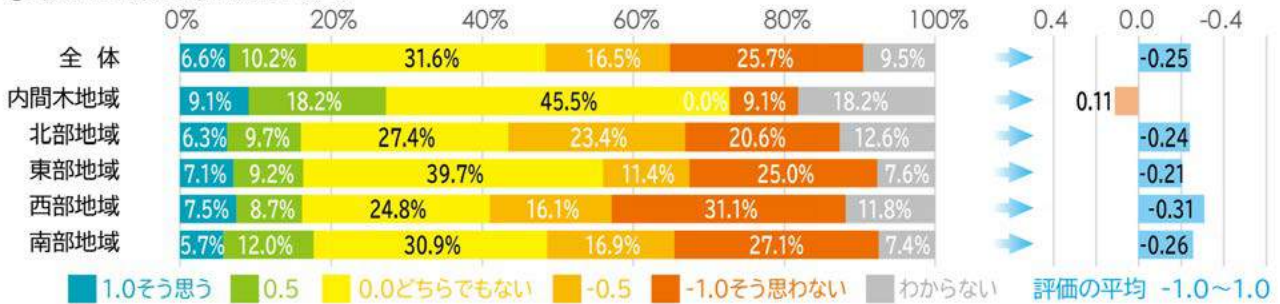


図 47 「防犯上心配で利用しにくい。」《全体・地域別》

h. 近くの住民によく利用されている。

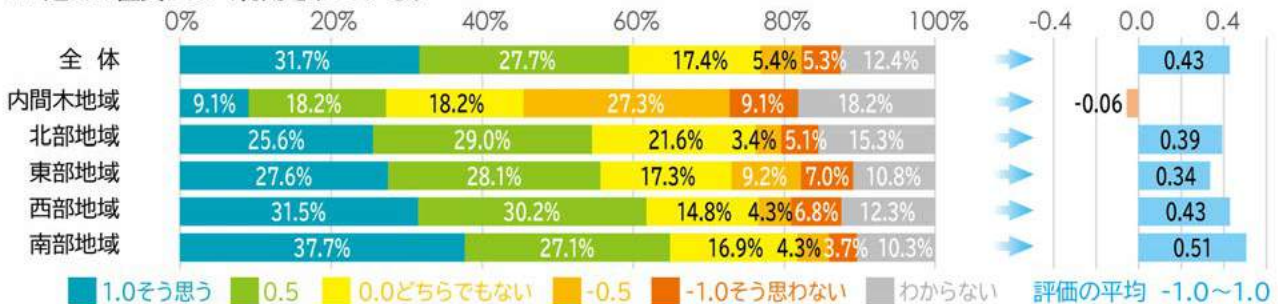


図 48 「近くの住民によく利用されている。」《全体・地域別》

i. 特定の利用者が占有して利用しにくい。

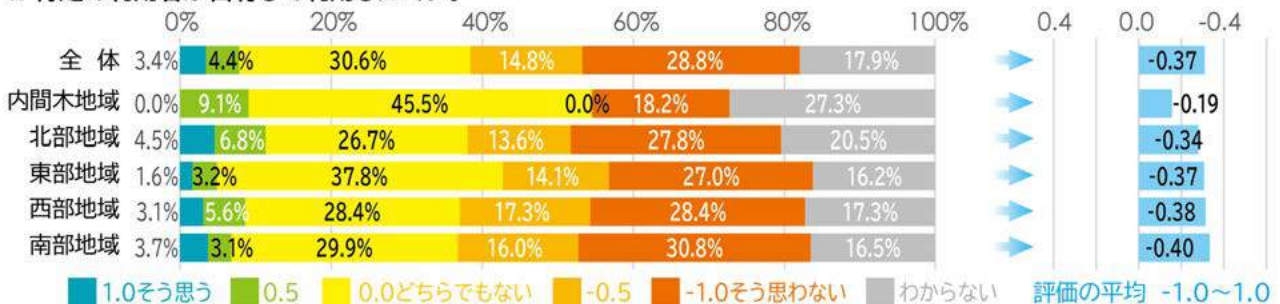


図 49 「特定の利用者が占有して利用しにくい。」《全体・地域別》

※

3-7 みどり豊かなまちづくりを推進するための重要な施策

問6 みどり豊かなまちづくりを推進するために、必要だと思われる次の施策のうち、とくに重要だと思われるものを3つ以内で選んで番号に○をつけてください。

- みどり豊かなまちづくりを推進するための重要な施策に関する問では、「道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する。」が351件で最も多く、次いで「だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる。(292件)」、「健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる。(242件)」となりました。

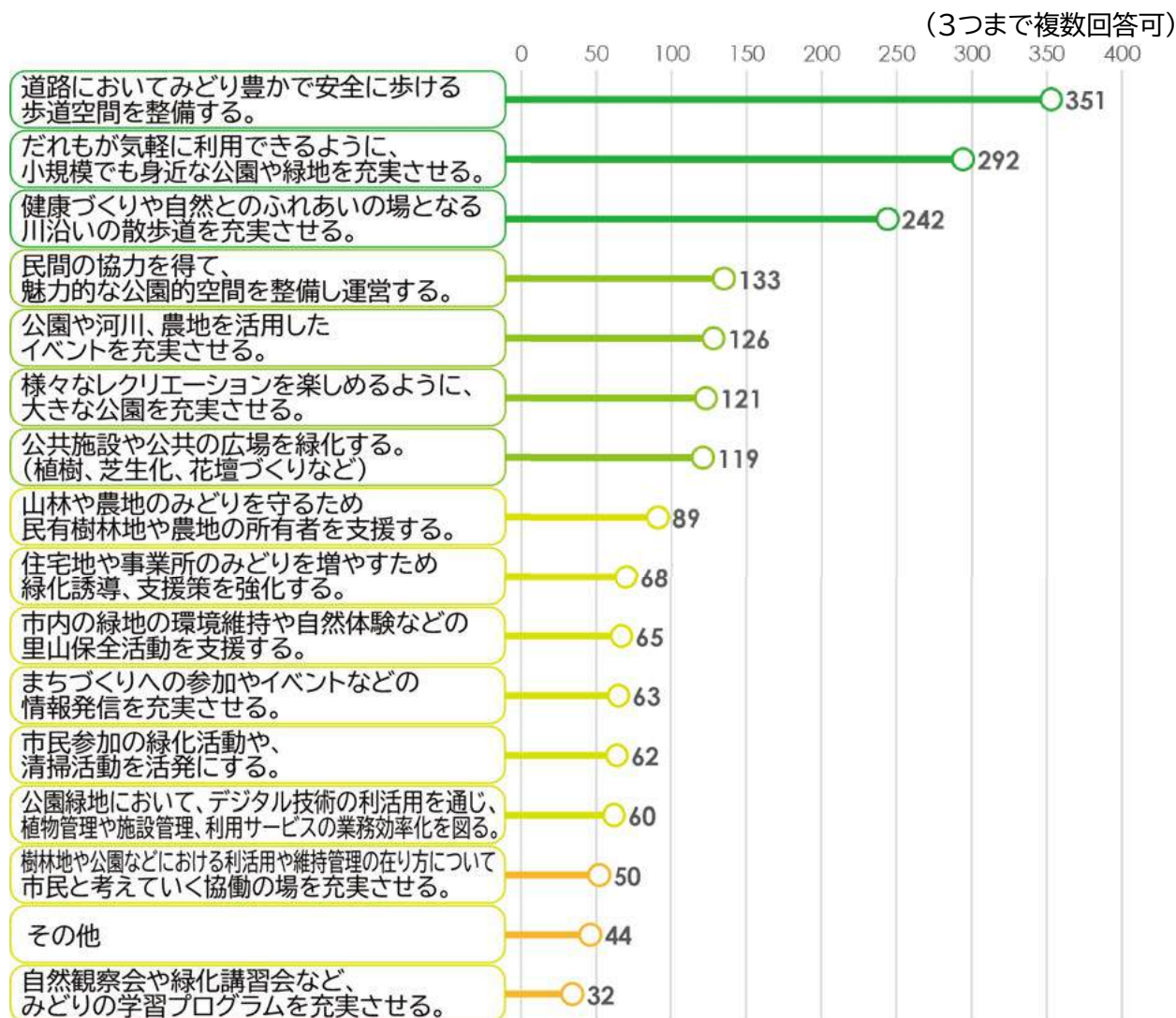


図 50 みどり豊かなまちづくりの推進に必要なと思われる施策《全体》

※数値は選択件数

- 「だれもが気軽に利用できるように小規模でも身近な公園や緑地を充実させる。」は、年代別では80歳以上、20歳代、70歳代、10歳代が全体より多く、世帯構成別では「18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが小学校入学前」、「その他」、「18歳未満の子どもがいて一番上の子どもが中学を卒業している」、「単身者」が全体より多い結果となりました。また、地域別では内間木地域が34.4%とかなり大きな回答数となりました。
- 子育て世代では、レクリエーション空間を望む傾向があり、世代が上がるにつれ安全な歩行環境や自然とのふれあいを望む傾向にあります。

(n=1917、3つまで複数回答可)

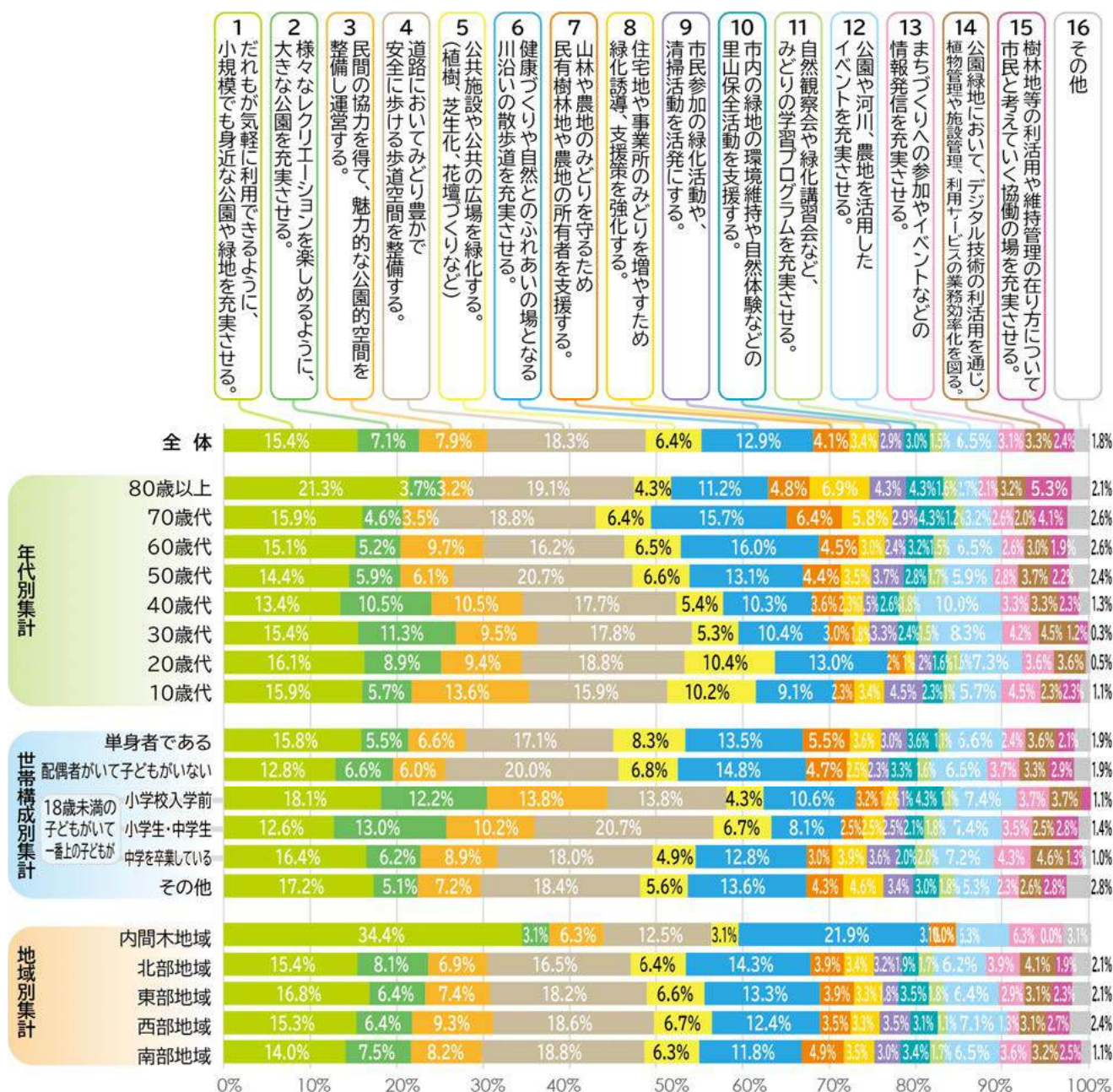


図 51 みどり豊かなまちづくりの推進に必要なと思われる施策《年代別・世帯構成別・地域別集計》

※数値は選択された施策の総数を母数とした場合の各施策の選択割合

※ 問6における「その他」への記述内容は、アンケートの最後に記入いただいた「アイデアやご意見・ご要望」と合わせて取りまとめています。

3-8 緑化活動・緑地保全活動への参加経験

3-8-1 参加経験、今後参加したい活動

問7 (7-1)	参加経験や取り組んでいる活動があれば「ある」に、なければ「なし」に○を付けてください。また、現在取り組んでいるものも含めて、今後参加したい・取り組んでみたいものには（今後参加したい）に○を付けて下さい。
-------------	---

- 緑化活動・緑地保全活動への参加経験に関する問では、「生け垣や花壇など自宅の庭の緑化」が22.9%で最も多く、次いで「道路などの清掃活動」が21.2%となりました。
- また、今後取り組みたい活動では、「市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産」が9.3%と最も多く、次いで「緑化のための募金活動(6.9%)」、「公園愛護会など公園の花植えや清掃活動への参加(6.2%)」、「地域の団体で木や花を育てる(6.2%)」となりました。
- 「里山の保全活動」、「地域の団体で木や花を育てる」、「緑化に関する講習会に参加する」、「公園の計画づくりや管理運営を考えるワークショップへの参加」は、今後取り組みたい活動とする回答が参加経験のある活動とする回答を大きく超える結果となりました。

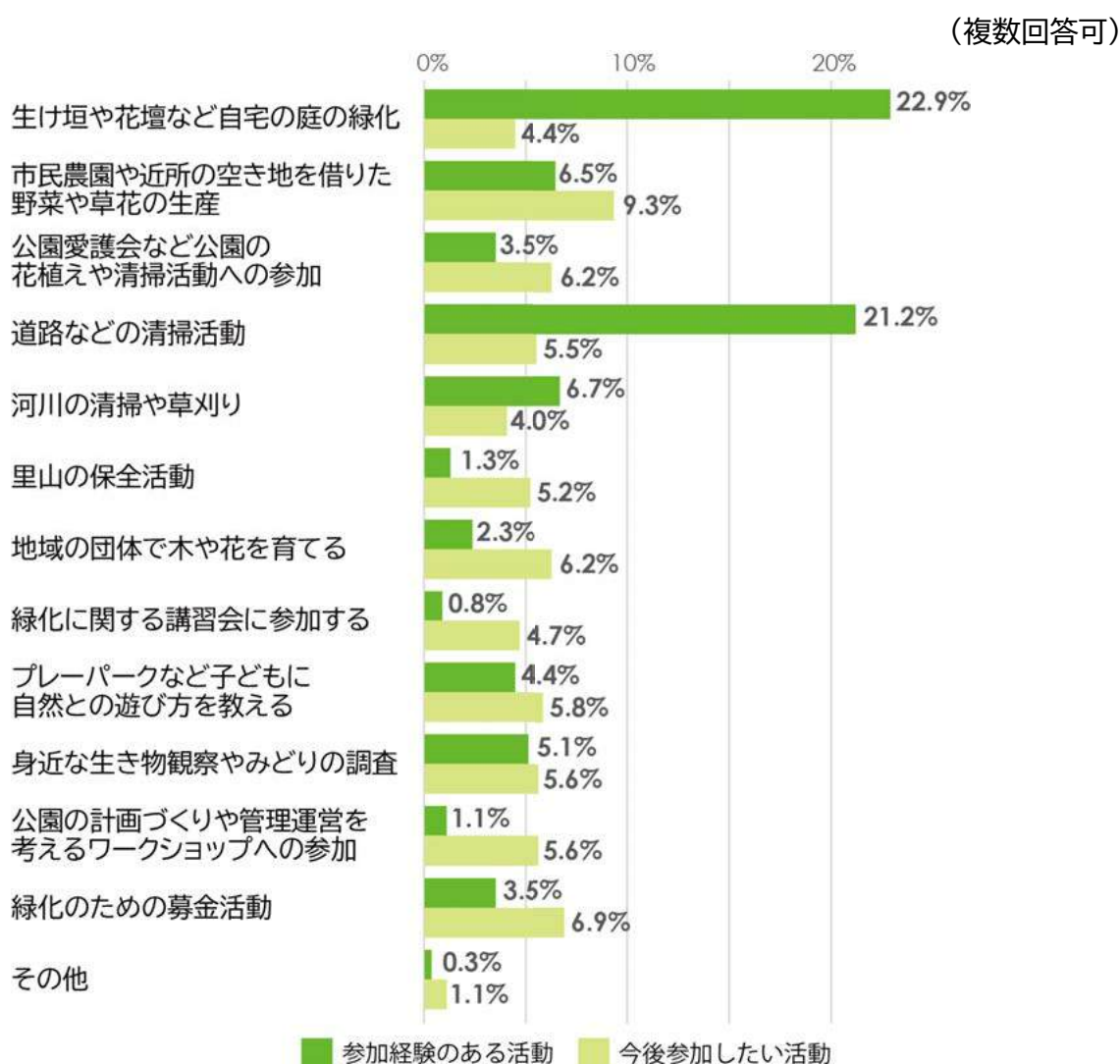


図 52 参加経験のある活動、今後参加したい活動(参加率)

※数値は有効回答人数(945人)における割合

- 「道路などの清掃活動」、「生け垣や花壇など自宅の庭の緑化」への参加経験は、高齢者で高く若くなるに従い低くなる傾向があります。
- 子育て世代では、「プレーパークなど子どもに自然との遊び方を教える」や「身近な生き物観察やみどりの調査」への参加経験が多い傾向にあります。
- 年代別の80歳以上や70歳代では、「全てに参加したことがない」が多世代と比べて高くなっています。

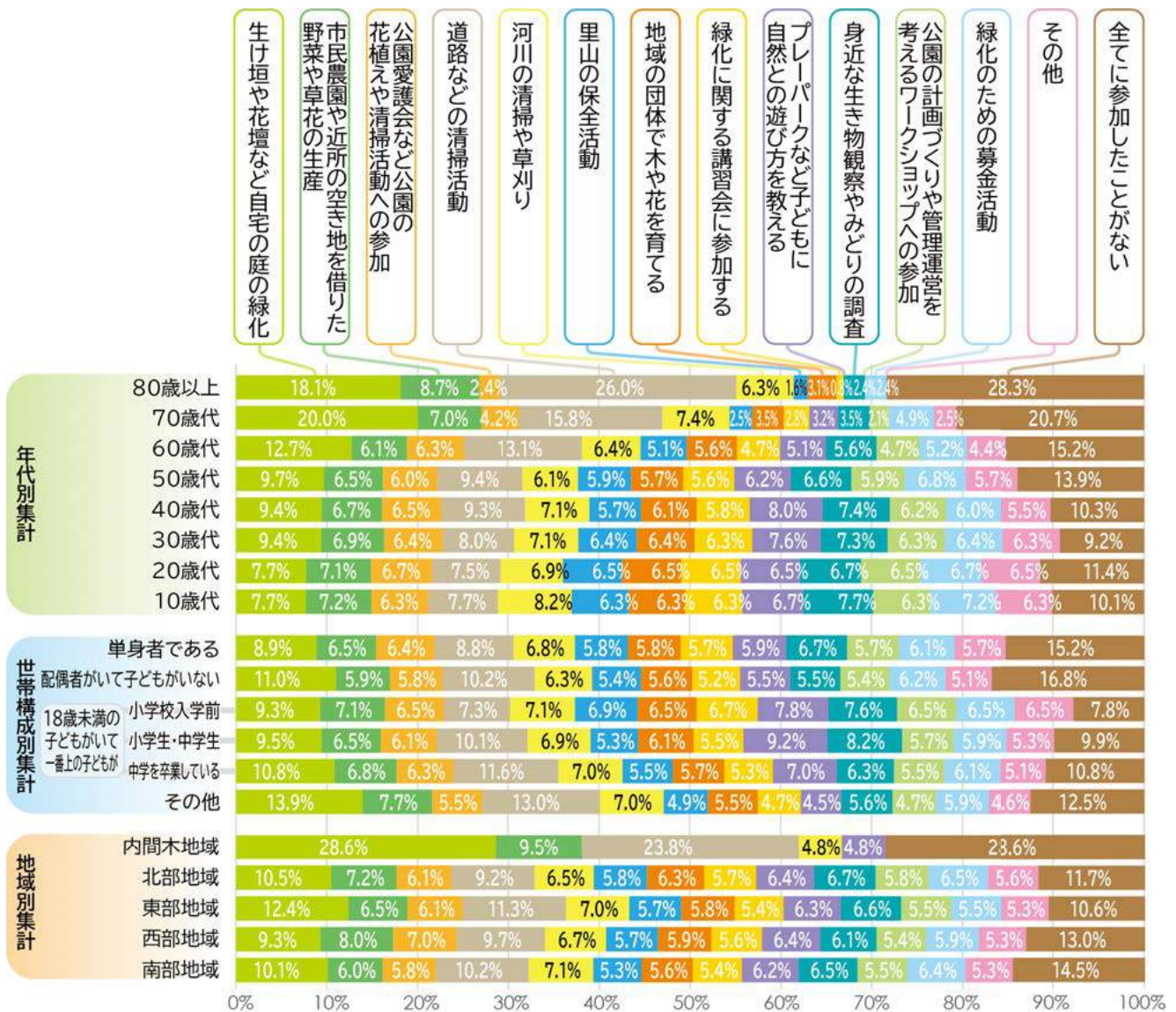


図 53 年代別・世帯構成別・地域別の参加活動構成比
※数値は選択された活動の総数を母数とした場合の各活動の選択割合

3-8-2 参加していない理由

問7 (7-2)	7-1で全ての項目で「なし」と回答された方にのみおたずねします。 市民による緑化活動・緑地保全活動に参加していない理由をお選び、番号に○をつけてください。（複数回答可）
-------------	---

- 市民による緑化活動や緑地保全活動に参加していない理由に関する問では、「参加する時間がない」が20.5%で最も多い結果となりました。

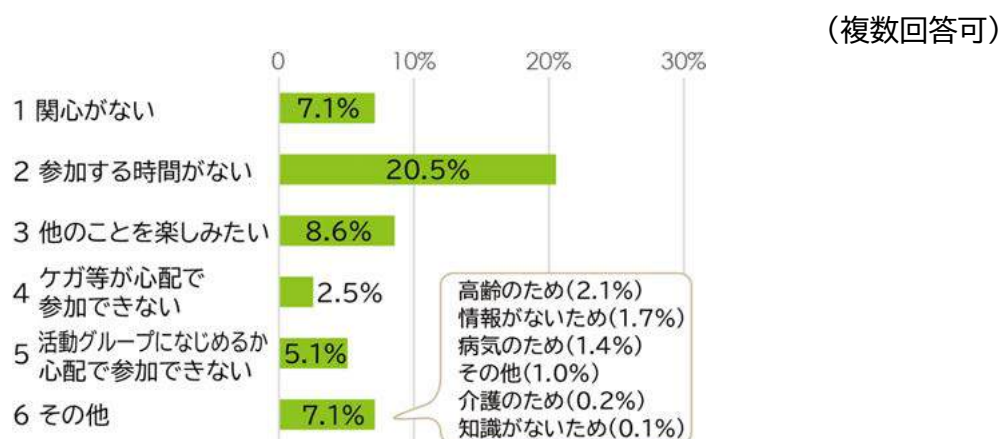


図 54 緑化活動・緑地保全活動に参加していない理由

※数値は有効回答人数（945人）における割合

3-9 市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験

問8 市内の公園や緑地等で行われているイベントやまつりに参加したり、足を運んだりしたことはありますか。以下の項目毎に参加経験の（ある・ない）を選び○を付けて下さい。

- 市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験に関する問では、「彩夏祭」が64.8%で最も多く、次いで「黒目川花まつり(46.3%)」、「身近な公園で開催される納涼祭やイベント(27.3%)」、「あさか冬のあかりテラス(25.6%)」、「ASAKA STREET TERRACE(23.3%)」となりました。

(複数回答可)

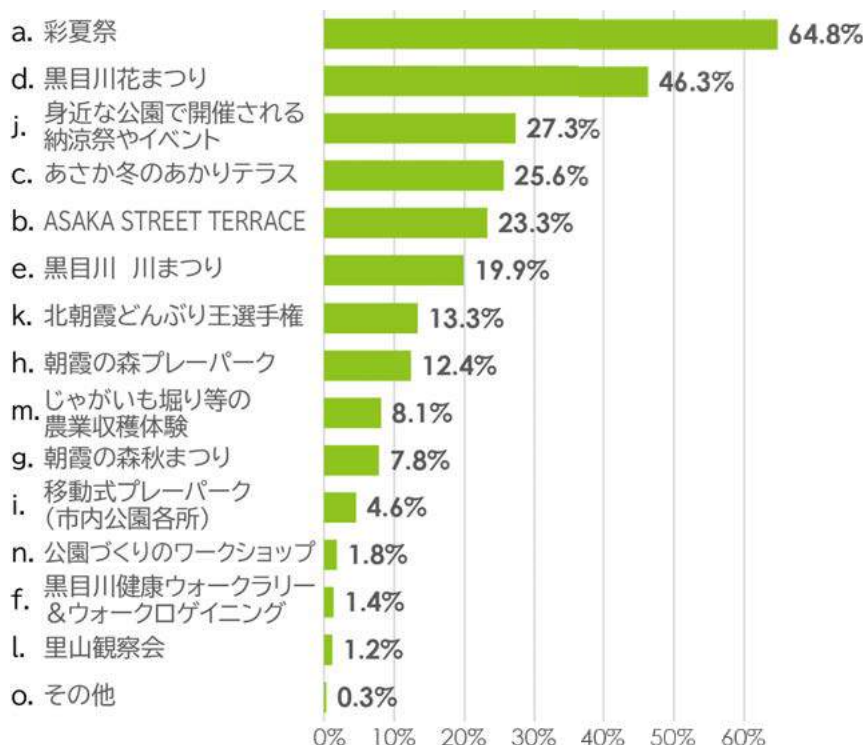


図 55 市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験

※数値は有効回答人数（945人）における回答割合

- 公園緑地におけるイベントへの参加経験があるとする方の年代構成をみると、「彩夏祭」や「黒目川花まつり」などの参加経験が多いイベントでは、概ね各年代から参加経験があることがわかります。
- また、子育て世代では、「朝霞の森プレーパーク」や「じゃがいも堀り等の農業収穫体験」、「移動式プレーパーク」などの体験型イベントへの参加が全体に比べて多い傾向にあります。

(複数回答可)

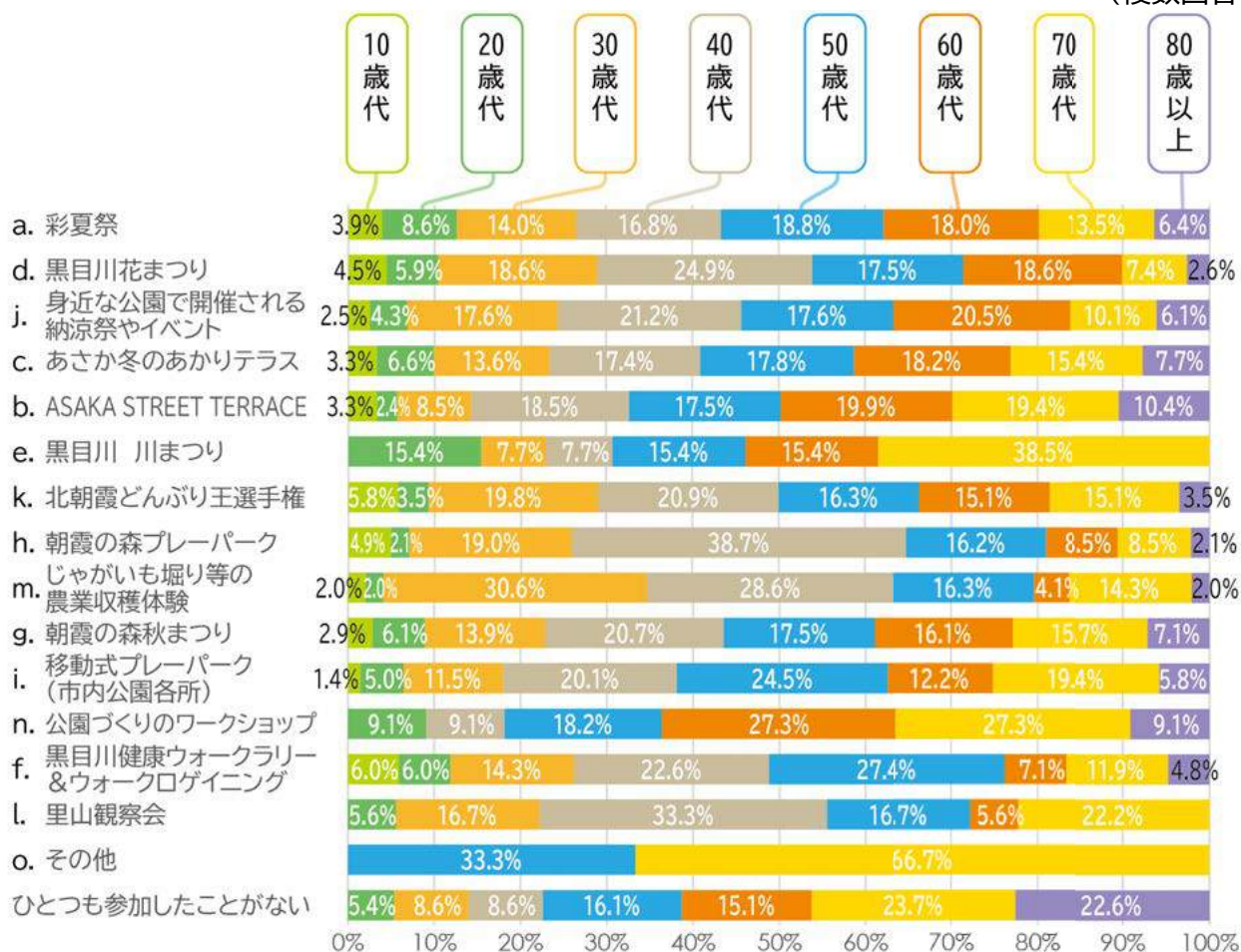


図 56 市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験《年代別》

※数値は各イベントの総数を母数とした場合の各年代の割合

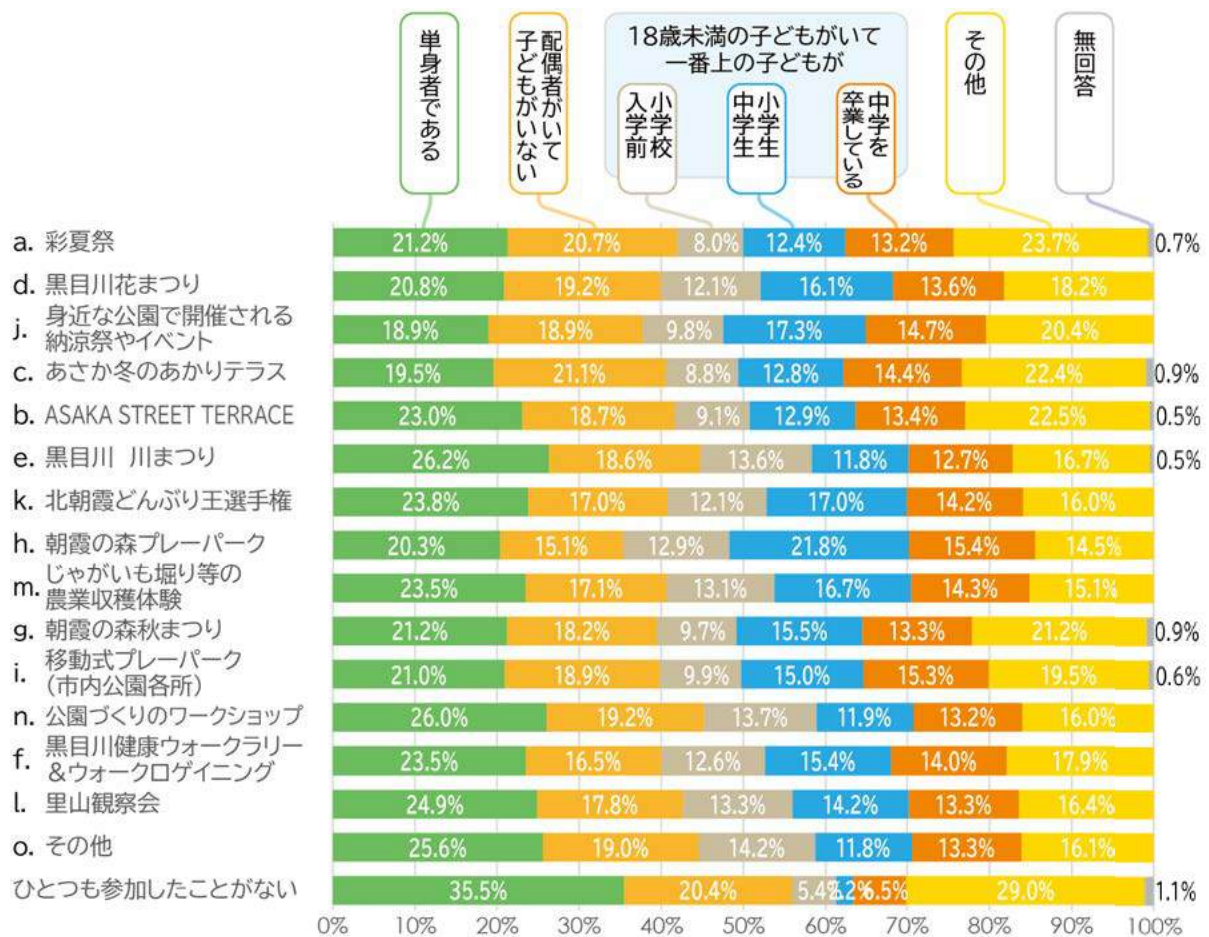


図 57 市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験《世帯構成別》

※数値は各イベントの総数を母数とした場合の各年代の割合

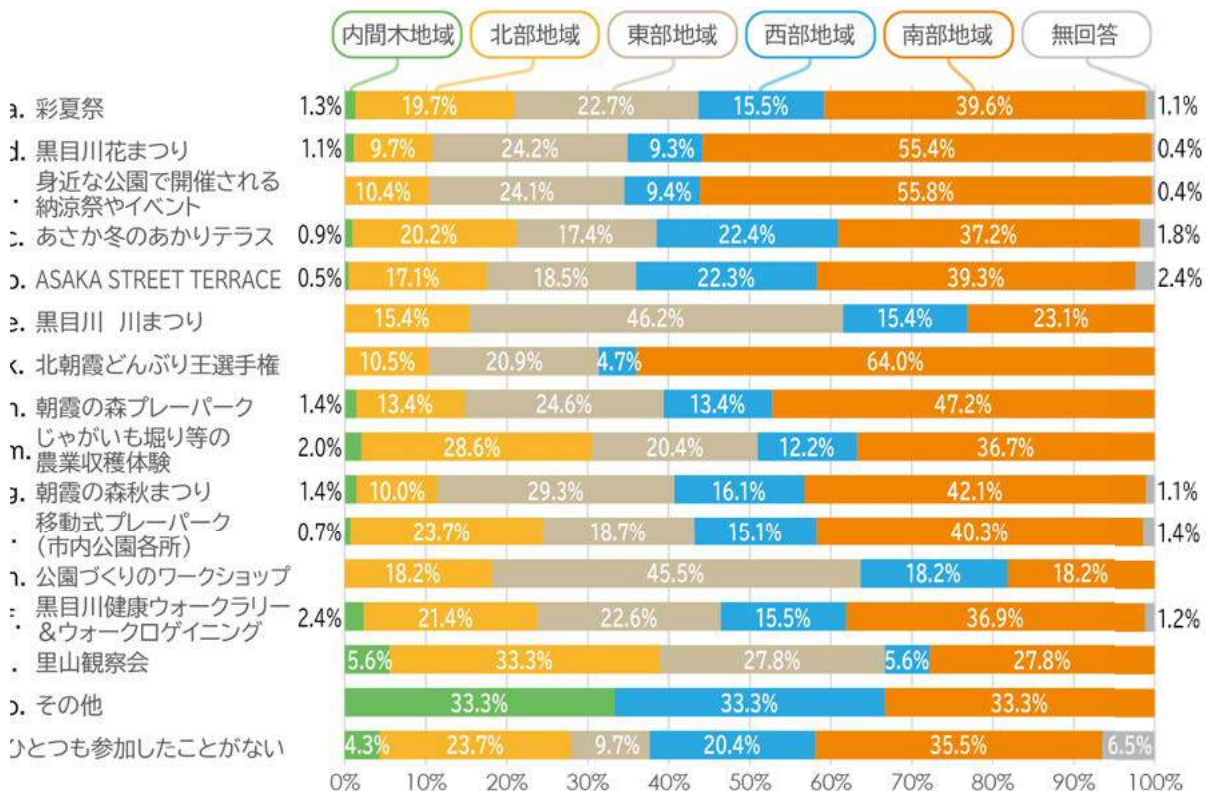


図 58 市内の公園緑地で行われるイベントやまつりへの参加経験《地域別》

※数値は各イベントの総数を母数とした場合の各年代の割合

3-10 自然環境が有する多様な機能の認知度

問9 自然環境が有する多様な機能を活用して、社会における様々な課題解決に活用しようとするまちづくりの手法「グリーンインフラ」が注目されています。 自然環境が有する機能のうち、あなたが知っているものをすべて選んで番号に○をつけてください。（複数回答可）

- 自然環境が有する多様な機能の認知度に関する問では、「CO2の吸収源となり地球温暖化を緩和する機能」が59.5%で最も多く、次いで「日射の緩和、蒸散作用により都市の気温の上昇を緩和する機能(47.8%)」、「生き物の生息空間となり身近な生き物や地域固有の生き物を守る機能(42.0%)」、「水害の軽減など自然災害による被害を軽減する機能(40.8%)」の順となりました。
- 年代別では、30歳代の認知度が最も高く、60歳代、40歳代、20歳代と続きます。

(複数回答可)

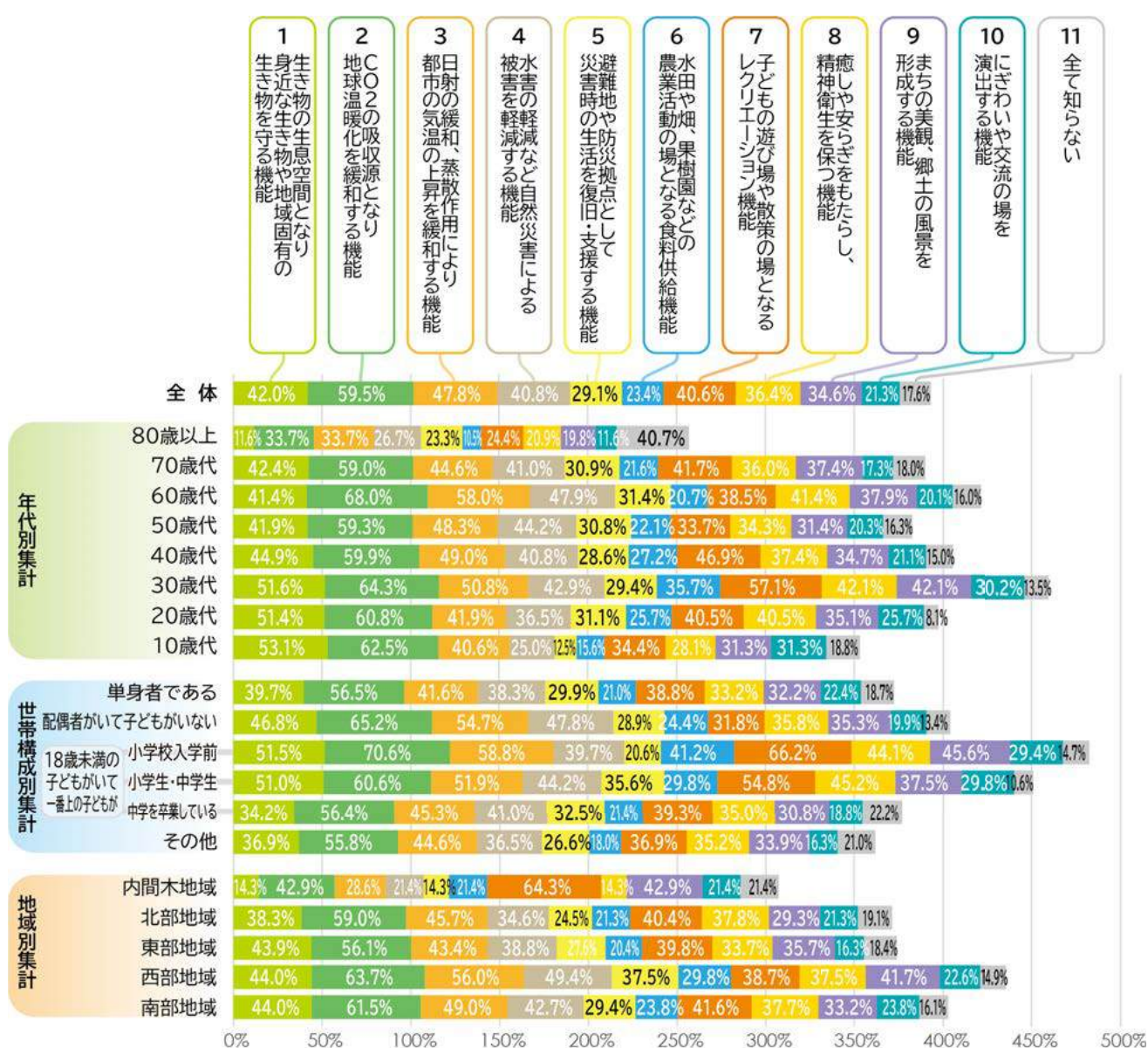


図 59 自然環境が有する多様な機能の認知度《全体・年代別・世帯構成別・地域別》

※数値は各属性に該当する方を母数とした場合のその機能を知っている方の割合

3-11 みどりを守るための仮定の支払い意思

問10	みどりを守るための仮定の支払い意思をおたずねします。 いま総額1,000円をもってしていると仮定し、以下の機能を有するみどりを購入していただきます。 それぞれの機能を有するみどりを対象に、大事と思うみどりに多く、それほど大事ではないと思うみどりには少なく分配し、合計が1,000円になるようにしてください。
-----	--

- みどりを守るための仮定の支払い意思に関する問では、「CO2の吸収源となり地球温暖化を緩和するみどり」に対する支払いが¥158.-で最も高く、次いで「水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥135.-)」、「日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥125.-)」、「子どもの遊び場や散策の場となるみどり(¥121.-)」の順となりました。
- 世帯構成別における子育て世代、地域別における内間木地域では、「子どもの遊び場や散策の場となるみどり」への支払額が最も高くなっています。

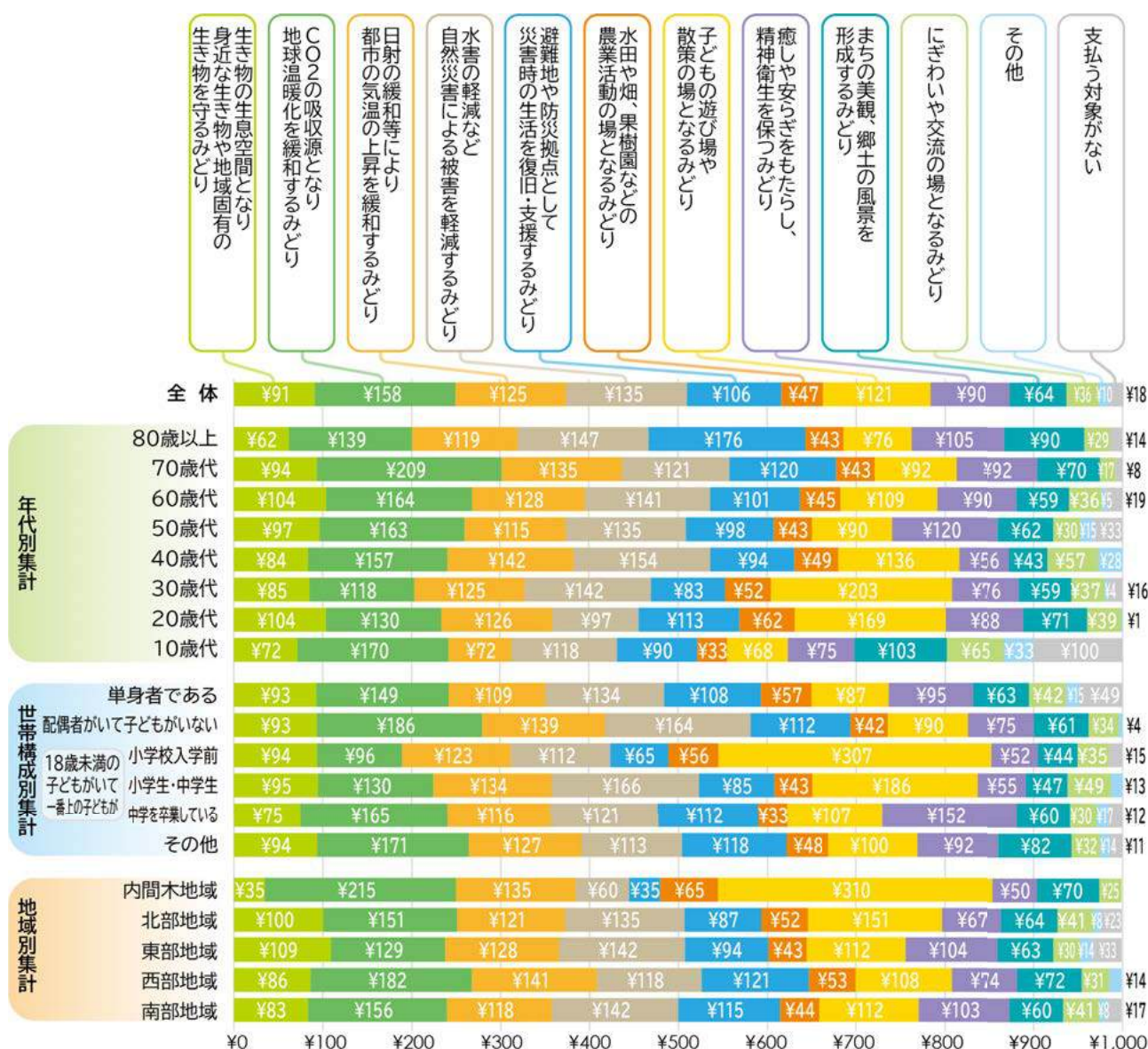


図 60 3-11 みどりを守るための仮定の支払い意思《全体・年代別・世帯構成別・地域別》

※数値は総額1000円から支払われる各機能の支払額

3-12 みどりのまちづくりについてのご意見・ご要望

最後に、朝霞市のみどりのまちづくりについて、アイデアやご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

- 緑化の管理：公園や遊歩道、河川敷の景観や草刈りの管理、通学路の樹木や雑草の管理についての意見が述べられています。具体的な場所として、朝霞三中の前の河川敷、黒目川の土手、田島緑地、朝志ヶ丘1-5-1537-7の北中緑地、根岸台4丁目の遊歩道沿いの木々が挙げられています。
- 朝霞市の良い所：大きな公園や木々の並んだ通りが評価されており、現状の管理状況に満足しているという意見が多いです。黒目川と青葉台などの自然豊かな景色も残してほしいとのことです。
- 自然の保護：大規模な緑地の保護や、マンション開発における緑の量を増やす基準の提案が含まれています。具体的には、朝志ヶ丘のはけの山、シンボルロードのケヤキ並木、水の生き物が生息できる環境の充実が挙げられています。
- 学校教育と緑化：小中学校の緑化や、学校教育での緑の大切さを学ぶ時間の増加が提案されています。東京都の小学校の自然園(ビオトープ)の例が挙げられています。
- 公園の整備：公園の木陰の増加、遊具の増設、水遊びができる公園の増加などの意見が述べられています。具体的には、泉水公園、青葉台公園、中道公園、浜崎ドッグランなどが挙げられています。
- イベント：黒目川沿いのウォーキングイベントや川まつりの充実、ベンチの設置などの提案が含まれています。
- 市民参加：市民を巻き込んだ施策や、個々人が育てられるグリーンの推奨などが提案されています。

1) 緑化や緑地保全に関する意見

① みどりの管理

○公園や遊歩道、河川敷の景観や草刈り等の管理を考えてほしい。ボランティアもしたい。(朝霞三中の前の河川敷の辺り、黒目川の土手や田島緑地、朝志ヶ丘1-5-1537-7のあたりにある北中緑地など)

○通学路などの歩道の樹木や雑草の管理をお願いしたい。街路樹の落木、倒木、根が歩道を凹凸にしているため、安全を第一に整備してほしい。(根岸台4丁目の遊歩道沿いの木々など)

② 朝霞の良い所・残したいみどり

○大きな公園と木々の並んだ通りが良い。緑の充実さと歩道の歩きやすさがある道が増えると嬉しい。外出機会の増進や景観の形成につながる。

○朝霞市は緑が多くキレイな街で、子育てができることが嬉しい。現状の管理状況に満足している。美しい朝霞を守り続けていきたい。

○もっと自然で溢れて一人一人が楽しく健康で過ごせるようにしてほしい。今ある自然、黒目川と青葉台などの自然豊かな景色は残して頂きたい。

○小規模なみどりよりも大規模なみどりを残して欲しい。マンション建設で森を伐採しないでほしい。(朝志ヶ丘のはけの山がマンションになってしまったことも悲しい)

○マンション開発において緑の量を増やす基準を設けてはどうか。

○沿線横などの雑木林、昔からある家が持つ竹林や庭木や果樹、無人販売所のある畑、春に埃舞う麦畑がなくなっていくのがさみしい。

○シンボルロードのケヤキ並木は維持管理コストがかかると思われるが、引き続き、存続してほしい。

○水の生き物が生息できる環境を充実させてほしい。

③ 緑化

- 小中学校をさらに緑化するべきだと思う。また学校教育でみどりの大切さを学ぶ時間が増えるとうい。東京都の小学校では自然園があり、子ども達に身近な自然が体験できるようになっている。そのようなものがあると良い。(ビオトープ)
- 農地の維持に力を入れてほしい。
- 市街化調整区域を増やして自然を守ってもらいたい
- 米軍基地跡地の大規模な自然を生かして市民のいこいの場や防災拠点として整備・市民のために活用してほしい。
- 湧水地の保存もしていただきたい。(公園化するなど)
- 朝霞駅東口や朝霞台周辺を緑化し、環境を改善してほしい。(北朝霞駅前の木に鳥が多すぎてこわい。)
- 駅近や本町付近ばかり整備するのではなく、泉水、内間木地域、宮戸、朝霞台なども整備してほしい。
- 東部、南部は充実していると感じるが、その他は自然放置といった印象が強い。(市役所近隣良好)都市計画が悪い。突き当りの道や道中などを見直す必要性を感じる。

④ イベント

- 黒目川沿いを散歩する人も多く、健康促進や子どもが虫や草と触れ合う大切な機会も提供してくれている。川沿いをもっと有効に使えるように、夏の除草の回数UPや川沿いのウォーキングイベント、川まつり等がもっと充実してくれたらうれしい。また、ベンチが欲しい。
- 立川グリーンスプリングスのような緑の使い方もしてほしい。
- 学習の機会を増やしてほしい。(植物の解説プレートをつける)

⑤ 施策

- 公園・河川・道路のみどりの整備、市有地における樹林地、公園、河川敷、道路における緑の管理については、行政の責任として予算や人員を確保し、定期的な保全活動を行ってほしい。(黒目川の河川敷の草刈り、公園の植樹(木陰となる木を植えて欲しい。秋頃に町内の公園掃除を行う)道路の雑草の管理))
- 可能な限り市民を巻き込んだ施策をしてほしい。
- 個々人がバルコニーや室内で育てられるグリーンも推奨してほしい。
- ブロック塀から樹木の塀へもっと推進して欲しい。
- 都市緑地法により、自宅の庭に背の高い樹木を設けるのは不便なので、個人所有地を法律の対象範囲としないでほしい。
- 緑を育む事柄では、役所の予算管理を「縦割り」ではなく、河川管理、公園管理、街路樹管理等、「みどり公園課」で考え事柄では広く、各部各課で行う事業に都市計画で言う所の「風致地区」的な制約を盛り込み、朝霞市民誰もが、身近に緑を感じる街づくりを検討して欲しい。
- 「グリーンインフラ」事業は、市役所が行う全ての公共事業に全てに対して取り入れる事が、市民が近く緑を感じ事になると思います。公園をいくら作ってもご近所の方のみが利益を享受する事になり、偏りが出来るのではないのでしょうか？
- 富岡市長の直下に本組織の考え方を取り入れ、市長の指揮監督の基、各部、各課の事業について「グリーンインフラ」の取り入れる事もご検討して頂きたい。

2) 公園に関する意見

① 公園の整備

- 泉水公園の歩道整備：泉水公園への歩道が狭く、車の通りも激しいため、子どもや大人が危険。車椅子でも通れる幅の歩道整備が急務です。
- 子どもがのびのび遊べる広い公園を増やしてほしい。具体的には、サッカー、野球、アスレチック、スケボー、自転車などの遊び場が求められている。カラス対策を行い、安全に遊べるようにしてほしい。
- 内間木や朝志ヶ丘での緑化や公園の整備を進めてほしい。
- 公園にカフェを設置してほしい。
- 公園の駐車場を拡大してほしい。駐車スペースが不足しているため、公園を利用したくても車を停めることができない。
- 公園を災害時に利用できるように整備し、緑を充実させるべき。
- 子ども達のために遊具を優先して設置してほしい。遊具の点検・安全性を優先してほしい。
- ある程度の広さがある公園にはトイレを設置してほしい。トイレがないと近隣の人しか利用できず、寛げない。
- 公園に木陰を増やしてほしい。昨今の猛暑では木陰、日除けが必須。みどりのカーテンやみどりの天井・サンシェードも合わせて整備してほしい。
- 花壇や雑草の管理をしてほしい。
- 公園に遊具を増やしてほしい。古い遊具の点検もお願いしたい。(青葉台公園や中道公園)
- 公園のアスレチック的な遊具が、高齢者向けの健康器具や何もない原っぱに変わっている。緑の迷路のような緑と遊具が一緒になったものが欲しい。
- ボール遊び等、子どもが自由にのびのびと遊べる公園や場所を増やしてほしい。
- 夏の暑さが年々厳しくなり、水遊びができる公園が増えると嬉しい。
- 広いドッグランがほしい。(浜崎ドッグランの改善)
- 安全性を重視してほしい。樹木により見通しの悪い公園は良くない。古い木(まぼりひがし公園の真ん中の大きな木など)も倒れないか心配。(防犯カメラも付けてほしい。)
- 公園の水道、トイレやベンチの整備をしてほしい。
- 公園の駐車場を整備してほしい。
- 公園内に動物の保護施設を作してほしい。
- 車椅子に優しい公園が増えると良い。
- 高齢者が行きたくなる公園がほしい。子どもが育った世代(中高年)が個人で楽しめる森のカフェなどシンボルロードにあったらよい。
- 朝霞中央公園の石畳を駐車場にしないでください。
- 朝志ヶ丘に公園がほしい。
- 市のHPを拝見すると、都市公園一覧表はあるが、都市公園一覧地図がない。個別の地図ではなく、地図を一覧することで、どの地域に公園を整備する必要があるかをお考え頂きたい。例えば、どこに住んでいる人でも徒歩10分以内の所に公園を整備するという様な目標を作してほしい。空き地が出たら、市として購入し、整備してほしい。子どものためというよりは、年寄りのために近くに公園等の集まる場所があると良いと思う。
- 私の居住地域には、子どもが遊べる公園や年輩者が散策できるような公園が近くにない。三原通りを電柱の地中化、街路樹の整備など緑を豊かにしてほしい。
- 宮戸の公園が早くできてほしい。

- 南口の方と比べて東口の方は整備された公園が少ない。
- 公園の管理などについて
- 朝霞の大きな公園が良い。
- 城山公園の立ち入り禁止になっている山の中の木を整備して前のように中を歩けるようにして下さい。
- 朝霞の森で、芝で寝転がって遊べる場所がもっとあればよい。
- 青葉台公園の木陰や親水広場もとても良い(緑と水が)場所だと思う。
- 浜崎団地のスペースを半公共スペースとして活用する方法があればよい。(地元のおまつり、消防団、青年部、子供会などが有機的につながれると良い)
- 旧ハローワークを公園にしてほしい。三原1丁目には、大きな公園がない。
- 公園内での喫煙を禁止してほしい。
- 週末に公園で朝霞市で作った農作物が購入できる「マルシェ」の開催はどうか。
- 北朝霞公園と北割公園のベンチ付近にタバコの吸い殻が多く、子どもが拾ってしまうことが心配。
- あけぼの公園が特定の利用者が占有して利用しにくい。

3) その他の意見

① 今回のアンケートについて

- 朝霞市の知名度を上げたい。
- このようなアンケートが初めてだったので、とてもよい調査だったと思った。
- 住みやすい地だと感謝しています。頑張ってください。
- こらからの朝霞市のみどりのまちづくりを維持、発展できるよう私たち市民も協力しながら取り組めたらと考えている。
- 地元の説明会等ではどうしても高齢者の意見が多くなりがちだと思うのでこういったアンケートで、子育て世帯の意見が集められればいいと思う。

② 道路に関する要望

- 市内各所にベンチやカフェがあると良い。
- ポイ捨て禁止、歩きたばこ禁止などのポスターをもっと増やしてほしい。
- サイクリングロードやウォーキングロードの設置や整備をしてほしい。(車と人が安全に)
- 「みどり」保護と合わせて、道路や歩道、街灯の整備を希望したい。(根岸台エリアや小学生の通学路になっている道路など)
- 溝沼や泉水、膝折も緑が多くあり素敵ですが、反対に道が狭いために歩行者と車や自転車とすれ違いが難しい。
- 道路のアスファルトを保水性のものにして行く等、水害対策を進めてほしい。

③ 駆除対策について

- 野良猫やハクビシン、ネズミ、カラスなどの対策が必要です。特に、ハクビシンが家屋に侵入した際の対応が必要です。
- 害虫やハチ、蚊の駆除を定期的にお願ひしたい。広沢公園では夏場に蚊が多く、特に今年は猛暑の影響で9月に蚊が多く発生した。蚊が媒介する病気もあるため、子どもを遊ばせるのが心配とのことである。公園の下に水処理の設備があるため、そこが発生源と推察されている。
- 害獣(ネズミ)駆除をお願いしたい。
- スズメバチ対策やムクドリ対策をしてほしい。

④ イベントについて

- イベントやお祭りをもっと広報してほしい。土日のお休みの時に家族そろって参加できるイベントがあれば今後ぜひ参加したい。
- シンボルロードでイベントをやりすぎ。イルミネーションは、CO2排出量を増やすイベントではないか。
- 駅付近だけでなく、フリーマーケットやキッチンカーなどを様々な所で開催してほしい。
- 黒目川沿いのライトアップを通年でやってほしい
- 市役所近くのイベントが多く、高齢者に近づく程、参加できない、利用できないことが多い。

⑤ みどりに関する活動について

- 地域の住人が参加できる活動を増やしてほしい。
- 一人でも赤ちゃん連れでも参加しやすい活動が増えれば心のケアにもつながりそうな気がする。
- 朝霞市は人が多すぎるので、地方の里山を借りて憩いの里を作るのも良いかも。

⑥ 情報発信について

- 朝霞市の生き物や公園、農地などの情報を集約して発信してほしい。(ホームページに市内の公園を紹介する地図を載せてほしい。)
- SNS(メンバーを若者中心にやってもらう)等を使い、緑の環境が整えられていく様子や手入れをしている人の様子交流等を伝えていく。また、季節の植物や身近な自然の生き物(鳥、魚、昆虫)等の変化も伝えたり、公民館、児童館等に写真や活動内容を絵(マンガ)等で掲示していく。

⑦ 市の施策について

- 市民協働、官民連携による取り組みが不可欠。
- 朝霞駅周辺のウォーカブル施策と連動したまちづくりGXの取り組みとして、包括的な指針となる計画策定に着手していただきたい。
- 米軍基地跡に商業施設(緑が多い)がほしい。
- まちをきれいに保つ取り組みが不足している。事業者や住宅が庭を美しく保ち、散歩が楽しくなるような補助金やウォーキングのポイントをつける等の仕組みを作ったらどうか。朝霞市は市役所近くだけが、環境良く、それ以外はあまりきれいなまちではないと感じている。
- 「みどりのまちづくり」の「みどり」ばかりを考えて、「まちづくり」が抜けている気がします
- 防災のため、朝霞の森と青葉台公園の間の道路のセンターラインにある花壇を除去してほしい。故障車が駐車していると、緊急車両が花壇のため追い越しができず、防災時の妨げになるためです。
- 私は根岸台斜面林の水路側に住んでいます。昭和50年に引っ越してきた当時は風通しが良かったが、その後自然公園になり、樹木が茂り日当たりも風通しも悪くなりました。定期的に行われていた草刈りも業者が入らなくなりました。自然公園になる前から暮らしていた住人の暮らしやすさが損なわれていると感じています。緑の公園は必要ですが、不便を感じている住民もいることを理解してほしいです。
- 総合病院を建設するようにする方が第一である。

現行計画の実績の整理

1) 平成 28 年度から令和 5 年度までの事業実績

朝霞市みどりの基本計画(現行計画)の実施計画である『花とみどりのまちづくり構想』の第 4 期(平成 28～30 年度)・第 5 期(令和元～3 年度)・第 6 期(令和 4～5 年度)における事業進捗状況を整理すると以下の通りです。
このページは、みどりの目標の項目「(1)緑と水辺を守る」に関わる内容を取りまとめています。

目標	重点的取り組み	番号	事業名	担当課	主な取組実績
(1) 緑と水辺を守る	【1】自然との共生に向けた理解の醸成 ○落ち葉の利活用の検討	1	落ち葉の利活用の検討 (市民と協働で落ち葉を集め、落ち葉を利用したイベントを通し、みどりを守り育てる文化を醸成する)	みどり公園課	・平成 28 年度から令和 3 年度まで、落ち葉プールを実施。(市制施行 50 周年記念「落ち葉で遊ぼう in 朝霞の森」(H29)/「朝霞の森秋まつり」(H30/R1)/プレーパーク(R2/R3)) ・令和 1 年度から令和 3 年度まで、市民団体が朝霞の森の一角に落ち葉だまりを設置し、シンボルロードで回収した落ち葉を投入・堆肥作成を実施。(落ち葉プールの落ち葉も投入)(R1～R3) ・令和 3 年度のプレーパークにおいては、落ち葉お面づくり等を実施。
	【1】自然との共生に向けた理解の醸成 ○生物多様性等に関する市民意識の醸成	1	生物多様性市民懇談会での意見交換	みどり公園課	・平成 28 年度から令和 5 年度まで、みどりの基本計画に伴い、市内市民団体の参加による生物多様性市民懇談会を開催。(令和 1～2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため非開催) ・平成 28 年度、29 年度の生物多様性市民懇談会で市民参加型生き物調査の結果を報告。 ・令和 4 年度の生物多様性市民懇談会にて埼玉県生態系保護協会より「生物多様性と 30by30 について」の講演を受講。 ・令和 5 年度、市内生物保全団体ヘナラ枯れ被害について情報共有と協力依頼。(R5)
		2	朝霞駅・北朝霞駅周辺のムクドリの実態調査	みどり公園課	・令和 29 年度に朝霞駅・北朝霞駅周辺のムクドリの実態調査を実施。
		3	自然との共生に向けた取組について検討	みどり公園課	・平成 30 年度から、共生に向けた取組についての検討の準備を開始。 ・令和 3 年度に、生物多様性を育む緑化事業補助金について意見聴取を実施。
		4	市民参加型の生き物調査の実施	みどり公園課	・平成 28 年度から平成 30 年度、および令和 4 年度に、市民参加型の生き物調査を実施。(132 件/H28、230 件/H29、178 件/H30、4 件/R4、18 件/R5) ・令和 1 年度、令和 2 年度は、生き物調査を実施可能な小学校がなく、未実施であったため、令和 2 年度に、学校課題形式以外の方法を検討し、令和 3 年度から、HP,SNS を活用し生き物調査を実施可能な人を募集。(R3) ・令和 5 年度、市民団体開催の朝霞の森虫取り観察会にあわせ生き物調査のを実施。(R5) ・「内間木公園のいきものがたり 2023」を内間木公園に掲載。(R5)
		5	生き物マップ及び生き物台帳を活用した普及啓発	みどり公園課	・平成 30 年度に生き物マップ及び生き物台帳の更新を行い、生き物マップの公表を準備を開始。(H30) ・令和 4 年度に、窓口に生き物マップを掲示。
	【2】水辺環境保全の啓発	1	年次報告書「朝霞の環境」の発行	環境推進課	・令和 4 年度、令和 5 年度に「朝霞の環境」を発行。
		2	あさか環境かるたの作成	環境推進課	・令和 4 年度に、あさか環境かるたを作成
		3	きれいなまちづくり運動の実施	環境推進課	・きれいなまちづくり運動の実施 (R4/R5) 春：参加 19,896 人 /ゴミ回収 24.43 t (R4)、秋：参加 18,513 人 /ゴミ回収 19.77 t (R4) 春：参加 17,571 人 /ゴミ回収 21.77 t (R5)、秋：参加 17,566 人 /ゴミ回収 15.82 t (R5)
		4	荒川河川敷不法投棄物一斉撤去事業	環境推進課	・令和 4 年度は、荒川河川敷不法投棄物一斉撤去は新型コロナウイルス感染拡大により中止。 ・令和 5 年度、荒川河川敷不法投棄物一斉撤去(R5) 実施：11 月 28 日/参加：13 人/ ゴミ回収：450 kg
	【3】緑被率調査等の実施・分析を踏まえたみどりの基本計画の改訂	1	生き物マップ及び生き物台帳の更新について生物多様性市民懇談会での意見交換の実施	みどり公園課	・令和 4 年度に、生物多様性市民懇談会所属団体へ令和 5 年度改訂の生き物マップ及び生き物台帳更新への準備依頼の実施。 ・令和 5 年度に生き物マップ、生き物台帳の更新。(R5) ・令和 5 年度、みどりの基本計画策定に向けて市内生物保全団体より意見聴取。(R5)
		2	緑被率調査等のみどりの実態調査の実施と公表	みどり公園課	・平成 28 年度～平成 30 年度にかけては、過去に実施した緑被率調査結果(H15,20,25 年度)の公開を継続的に実施。 ・平成 29 年度は、次年度に実施予定の調査準備。(H29) ・平成 30 年度に、緑被率調査を実施し、調査結果の公表を準備。 ※緑被率：36.10% (- 1.44%) ※緑被地面積：6,619,932 m ² (- 279,819 m ²) () 内は前回との比較 ・令和 5 年度に緑被率調査実施、公表。(R5)
	【5】休耕期間の緑肥対策事業	1	景観作物種子配布	産業振興課	・令和 1 年度から令和 5 年度まで、農地の保全や休耕期間の緑肥対策を目的として、希望農家に景観作物の種子を配布(5 月 4 種・10 月 3 種/R4、5 月 4 種・10 月 4 種/R5)。(配布農家数 12 戸(R1)、11 戸(R2)、13 戸(R3)) ※5 月と 10 月で配布する種子の種類は異なる。 ※前年度の実施成果をふまえて翌年度の実施内容を工夫しつつ継続。
	【6】農業体験の実施	1	農業体験の実施	産業振興課	・農業体験を実施。(R1/R4/R5)(令和 2 年度と令和 3 年度は、コロナのため中止) (5 月 田植え/6 月 じゃがいも掘り/8 月 稲刈り/10 月 さつまいも掘り/12 月 にんじん掘り) ※前年度の実施成果をふまえて翌年度の実施内容を工夫しつつ継続。

このページは、みどりの目標の項目「(2)花や緑を育ててつなぐ」に関わる内容を取りまとめています。

目標	重点的取り組み	番号	事業名	担当課	主な取組実績
(2) 花や緑を育ててつなぐ	【4】朝霞すみどりのまちづくり基金による緑化等の支援 ○新河岸川・黒目川等の環境保全・景観形成 ○市民ボランティアや団体による緑地保全・緑化活動の支援	1	基金による補助制度の検討	みどり公園課、まちづくり推進課	・平成28年度に、景観意見交換会の開催。 ・平成28年度から毎年、景観審議会を開催。(H28～R5) ・平成28年度に、景観づくりの支援基準の検討を実施。 ・平成29年度に、景観形成補助金制度の検討を実施。 ・令和1年度～令和3年度にかけて、生物多様性保全に資する事業への補助基準の検討を実施。
		2	景観計画及び補助制度等の周知	みどり公園課、まちづくり推進課	・平成28年度に、広報掲載を実施。 ・平成28年度から毎年、ホームページに掲載。(H28～R5)
		3	各種助成の実施	みどり公園課、まちづくり推進課	・平成30年度から、景観形成補助金制度の開始及び補助金の交付を実施。(2団体/H30、1団体/R2、1団体/R3、2団体/R4、1団体/R5) ・平成30年度から、景観づくり団体の認定を実施。(11団体/H30、1団体/R1、1団体/R2、6団体/R3) ・令和1年度から、景観計画区域内における行為の届出書の審査を実施。(284件/R1、170件/R2、179件/R3、210件/R4、67件/R5) ・寄附型自動販売機の設置。(北朝霞公園・朝霞駅南口広場・朝霞駅南口地下自転車駐車場・朝霞駅東口自転車駐車場・北朝霞駅東口広場・北朝霞駅東口地下駐輪場/R4、青葉台公園/R5) ・市内企業より、みどりのまちづくり基金へ寄附受領。(10万円/R4、2件/R5)
	【7】街路樹管理計画の策定等による公共空間における花や緑の適正管理	1	街路樹の育成・管理	みどり公園課、道路整備課	・平成28年度および平成29年度に、市道2号線(城山通り)の街路樹育成方針の内容を検討。それを踏まえ、平成30年度に城山通りの街路樹(約440本)の剪定を実施。令和4年度に、城山通りのイチョウ並木の剪定方法の見直しを実施。 ・平成28年度に、市道8号線剪定時に試験的剪定を実施し、平成29年度は、その生育状況について経過観察を実施。結果を踏まえ、平成30年度に、街路樹育成方針についての検討の準備を実施。 ・令和1年度に、本市の街路樹の管理・育成の基本方針の明確化に向けて「朝霞市街路樹の剪定に関する基準」の一部改正に着手。また、開発条例に基づく開発事業等の協議におけるツツジ植栽依頼追加。
		2	道路の植樹帯及び公園の植栽の適正な維持管理の検討および実施	みどり公園課、道路整備課	・平成28年度から毎年(～R5)、都市公園、児童遊園地の植栽及び樹木管理を実施。園内の見通しも考慮し除草や越境した樹木の枝剪定を実施。 (令和1年度/中道公園・宮戸立出(たてだし)児童遊園地など、令和2年度/城山公園北西側園路他・栄町第3児童遊園地など、令和3年度/城山公園西側入口・下の原児童遊園地など、令和4年度/城山公園、水久保公園、滝の根公園、根岸台自然公園、新屋敷緑地、郷戸緑地、島の上公園、朝志ヶ丘緑地、北中緑地) ・令和2年度に、花の池テラスを整備(植栽面積:約140㎡ 主な樹種:キリシマツツジ、ヒラドツツジ、ソヨゴ、サルスベリ等) ・令和3年度に、浜崎黒目花広場用地取得(無償貸借→寄附採納) ・令和3年度に、公共施設の緑化推進を依頼 ・令和3年度に、公園内の見通しを遮るツツジを撤去し図書館へ移植(R3) ・公園、児童遊園地、緑地等のカシノナガキクイムシ等による枯損木調査(伐採工事175本/R4、182本/R5) ※令和4年度実施箇所(城山公園、水久保公園、滝の根公園、根岸台自然公園、新屋敷緑地、郷戸緑地、島の上公園、朝志ヶ丘緑地、北中緑地) ※令和5年度実施箇所(城山公園、水久保公園、滝の根公園、根岸台自然公園、広沢公園、朝霞中央公園、島の上公園、内間木公園、北中緑地、朝志ヶ丘緑地、新屋敷緑地、郷戸緑地、稲荷山緑地、岡緑地)
		3	道路美化活動団体及び公園管理団体の募集・活動支援	みどり公園課、道路整備課	・令和1年度、道路美化活動団体19団/体公園管理団体17団体が活動。 ・令和2年度に、公園管理団体の募集チラシをわかりやすいよう一新。 ・令和2年度は、道路美化活動団体25団体/公園管理団体16団体が活動。 ・令和3年度は、道路美化活動団体24団体/公園管理団体16団体が活動。 ・令和4年度は、道路美化活動団体25団体/公園管理団体17団体が活動。 ・令和5年度は、道路美化活動団体24団体/公園管理団体19団体が活動。
	【9】学校の壁面・屋上緑化及び校庭芝生化の維持管理事業	1	体育施設・学校・保育園・市庁舎等の敷地や建物の壁面・屋上の緑化	教育総務課	・令和1年度に壁面緑化、屋上緑化及び校庭芝生を設置。令和2年度以降は(～R5)、適切に維持管理を実施。(緑の空間の保全) 【壁面緑化】第四小学校 506.28㎡/第五小学校 386.48㎡/第八小学校 109.00㎡ 【屋上緑化】第四小学校 1,232.55㎡/第五小学校 485.80㎡/第七小学校 100.00㎡/第一中学校 544.52㎡ 【校庭芝生化】第二小学校 1,150㎡/第四小学校 1,660㎡/第五小学校 900.5㎡

このページは、みどりの目標の項目「(3)公園の魅力を高める」に関わる内容を取りまとめています。

目標	重点的取り組み	番号	事業名	担当課	主な取組実績
(3)公園の魅力を高める	【8】基地跡地公園の整備・シンボルロードの管理（緑化重点地区の緑化推進）	1	朝霞の森における市民参加による管理・運営	みどり公園課	・平成24年11月4日に暫定利用広場「朝霞の森」をオープン。プレーパークを60回開催。（平成28年度末までで利用者が23万人以上） ・平成28年8月9日、元公務員宿舍建設予定（3.Oha）の管理委託契約を国と締結し、市が広場として管理。
		2	基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画についてのパブリックコメントの実施	みどり公園課	・平成28年度および平成29年度に、パブリックコメントを実施。
		3	シンボルロード整備基本計画の見直し	みどり公園課	・平成29年6月30日、シンボルロード整備基本計画を策定。 ・平成29年度、朝霞市基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画見直し検討委員会を5回開催。 ・平成30年4月24日、基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画〔改訂版〕を策定。
		4	「朝霞市基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画〔改訂版〕」の策定を踏まえた、公園・シンボルロードの整備	みどり公園課	・令和1年度、第1期供用区間の範囲を変更（南側緑道の追加等）し、整備完了。 ・令和1年度（令和2年2月22日）、シンボルロードオープニングセレモニーを開催・供用開始。 ・令和2年度、グリーンインフラ整備工事としてシンボルロード等に雨庭を整備。
		5	第1期整備における成果、課題等の検証	みどり公園課	・令和4年度から毎年、シンボルロード管理運営を考える会議の開催（「シンボルロードでやりたいこと」をテーマにワークショップ形式で開催/R5.3.19、R5.6.25./8.19/ R6.3.10） ・令和4年度、エリアビジョン（β版）の運用を開始。（R4～R5）
		6	シンボルロード管理実施（植栽）管理・日常清掃	みどり公園課	・令和2年度から毎年、シンボルロードの管理を実施。（植栽・日常清掃）（R2～R5）
		7	シンボルロードのにぎわいの創出や魅力向上に向けた取組の検討・実施	みどり公園課	・令和3年度、オリンピック・パラリンピックおもてなしゾーンを設置。（R3.7.23～R3.9.28） ・令和2年から毎年、アサカストリートテラスを開催(R2.10.24/R3.11.7/R4.11.6/R5.11.3 市が後援) ・令和3年度から毎年、あさか冬のあかりテラス開催(R3.12.10～R4.2.14/R4.12.16～R5.1.31/R5.12.8～R6.1.26) ・花の池テラスに「フラクタルひよけ」を設置。（R4.8.6～8.7/R5.8.5～8.6） ・令和4年度から毎年、彩夏祭を開催。（R4.8.6～8.7/R5.8.5～8.6） ・令和4年度から毎年、ちいさなテラスを開催。（10回/R4、6回/R5） ・令和5年度、ピアテラスを開催。（9回/R5） ・令和5年度、キッチンカー出店。（出店日数 220日/R5）
	【10】まぼりみなみ公園・まぼりひがし公園・（仮称）宮戸二丁目公園の利用ルールづくり及び施設整備	1	根岸台5丁目1号及び2号公園の利用ルールづくり	みどり公園課	・平成30年度、土地区画整理事業の換地処分を公告。1号公園及び2号公園が市に帰属し、地域住民と協働による利用ルールの検討の準備を開始。 ※2号公園内の組合事務所は清算金の授受が完了するまで残置。
		2	機能分担による身近な公園の特色づくり	みどり公園課	・令和3年度、まぼりみなみ公園・まぼりひがし公園供用開始。（R3.4.1） ・令和4年度、公園内のパース図の作成し、施設整備の必要性及び 内容を検討。
		3	市民参加の公園づくり	みどり公園課	・令和2年度、公園周辺に立地する小中学生に対するアンケートの内容検討。 ・令和3年度、2小、8小を対象にアンケートを実施。設置する遊具等の検討。 ・令和3年度、公園名称の検討・決定及び園名板の設置。 ・令和4年度、住民説明会（4回）や、市内障害者支援施設とバリアフリーについて要望聴取を実施。 ・令和5年度、（仮称）宮戸2丁目公園・まぼりひがし公園・まぼりみなみ公園を市民の意見を取り入れて設計。
	【11】みどり空間の魅力向上施策の検討 ○機能分担による身近な公園の特色づくり ○都市公園・児童遊園地の改修・植栽の充実	1	グリーントレイルマップの作成	みどり公園課	・令和3年度、緑とまちなかの魅力向上構想を策定しグリーントレイルルートを設定。 ・令和4年度、グリーントレイルマップの作成（6コース設定）（R4）
		2	サインの再整備を実施する公園の検討	みどり公園課	・令和4年度、サインの再整備を実施する公園の検討（まぼりひがし・まぼりみなみ・（仮称）宮戸二丁目公園）
		3	プレーパークキャラバンの実施・検証	みどり公園課	・プレーパークキャラバンの開催。（7公園で20回/R4、8公園で30回/R5）
		4	まちなかベンチ・健康遊具等設置の検討・設置 (健康器具系施設の計画的配置)	みどり公園課	・令和3年度、まちなかベンチ等の休憩施設及びサインを検討。 ・まちなかベンチの設置（北朝霞キャロットロータリー・わくわくどーむ脇・市道4号線/R4、花の池テラス、宮戸2丁目、マチカドテラス、栄町3丁目、黒目川/R5） ・健康器具系施設を設置（平成29年度/城山公園に10基・三原公園に1基、令和1年度/泉水公園に3基、笹橋公園に3基、向原公園他上体ひねり座椅子他修繕、令和4年度/諏訪原児童遊園地）
	【12】公園施設長寿命化計画に基づく施設の補修・更新及び計画の改訂		公園施設等の安全点検	みどり公園課	・平成28年度、都市公園遊具等保守点検（年4回実施）の結果に基づき、遊具等の改修実施。 ・平成30年度から毎年、照明の修繕等を実施（令和1年度/向山公園外灯・水久保公園など、令和2年度/いずみ公園他公園・大瀬戸児童遊園地照明器具など、令和3年度/城山公園・星の森児童遊園地トイレ照明など）
			公園施設の計画的補修・更新（長寿命化） 公園施設のバリアフリー化	みどり公園課	・都市公園施設長寿命化対策工事の実施。（平成28年度/15公園31基、平成29年度/中央公園公園灯改修工事・中央公園舗装改修工事・中央公園木製遊具設置工事、平成30年度/青葉台公園親水施設改修工事・青葉台公園ネット遊具改修工事、令和5年度/滝の根公園木製遊歩道改修・青葉台公園第2駐車場拡張整備） ・遊具更新工事を実施（令和1年度/9公園（浜崎、西久保、北浦、田島、上の原、堂之下、北割、広沢、島の上）(ブランコ、シーソー、鉄棒等)、令和2年度/9公園(宮戸大山、北朝霞、浜崎峡、城山、西久保、弁財、はけ泉水、北浦、広沢)(すべり台、シーソー、砂場等)、令和3年度/4公園(あけぼの公園、泉水公園、五反田公園、根岸台自然公園)(ターザンロープ、砂場、丸太渡り)、令和4年度/島の上公園のロープ渡り遊具、令和5年度/島の上公園のロング滑り台)

2) 目標達成状況の整理

① 都市公園等の目標面積

- 現行計画では、都市公園、公共施設緑地、都市公園等(都市公園と公共施設緑地の合計)について、目標面積を定めています。
- 現行計画における目標値と、令和5年度末の現況値を比較すると、都市公園は目標値に達成していませんが、公共施設緑地は目標値に達成しています。また、都市公園等は目標値に僅かに届いていません。
- 本市は、児童遊園、朝霞の森、黒目川などの都市公園以外の身近なレクリエーション空間が充実しています。都市公園に加え、都市公園以外のレクリエーション空間を合わせて、分布状況や機能の充足度を評価し、検討することが必要と考えられます。

表 施設緑地の面積総括表

		現況(2024年3月末)						備考	国・県の 一人当たりの 公園面積(㎡/人) (2023年3月末)		近隣住区 モデル における 標準面積 (㎡/人)
		市街化区域			市域						
		箇所	面積 (ha)	一人当たりの 面積(㎡)	箇所	面積 (ha)	一人当たりの 面積(㎡)		全国	埼玉県	
住区基幹 公園	街区公園	29	7.44	0.52	35	8.33	0.57		1.23	0.98	1.0
	近隣公園	2	2.49	0.17	3	4.17	0.29		0.89	0.73	2.0
	地区公園	1	3.49	0.24	3	14.39	0.99		0.74	0.28	1.0
	計 ^(Ⅰ)	32	13.42	0.94	41	26.89	1.85		2.86	1.99	4.0
特殊公園	歴史公園 ^(Ⅱ)	2	1.54	0.11	2	1.54	0.11		－	－	－
都市緑地 ^(Ⅲ)		0	0.00	0.00	1	2.43	0.17		－	－	－
都市公園 計 ^(Ⅳ)		34	14.96	1.05	44	30.86	2.12	I + II + III	10.86	7.20	－
市民緑地 ^(Ⅴ)		0	0.00	0.00	0	0.00	0.00		－	－	－
都市公園+市民緑地 計 ^(Ⅵ)		34	14.96	1.05	44	30.86	2.12	IV + V	10.87	7.23	－
公共施設緑地 計 ^(Ⅶ)			15.06			107.65			－	－	－
民間施設緑地 計 ^(Ⅷ)			3.09			3.93			－	－	－
施設緑地 計			33.12	2.32		142.44	9.79	VI+VII+VIII	－	－	－
人口		143,017			145,531				－	－	－

※合計値の少数第二位のズレは小数第三位の四捨五入によるもので、各項目の数値は調書に基づく数値です。

表 現行計画における都市公園等の目標面積と現況値

		現行計画目標値 ^{※1} (平成37年度) (2025年度)	現況値 令和6年3月末 (2023年度末)
都市公園 ^{※1}	1人あたり面積(㎡/人)	3.6	2.1
	面積(ha)	49	30.9
公共施設緑地 ^{※1}	1人あたり面積(㎡/人)	6.8	7.4
	面積(ha)	93	107.7
合計(都市公園等) ^{※1}	1人あたり面積(㎡/人)	10.4	9.5
	面積(ha)	142	138.5

人 口	136,000 ^{※2}	145,531 ^{※3}
-----	-----------------------	-----------------------

※1：現行計画（p51、「表 3-2 都市公園等の目標面積」）で位置づけられる目標項目、及び目標値

※2：平成28年時点における推計値

※3：現況値

② みどりの目標面積

- 現行計画では、市街地面積、都市計画面積に対する緑被率を目標としています。
- 令和5年度の緑被面積は、都市計画区域内で638.32haで、緑被率は34.8%となっています。
- 現行計画における目標値と令和5年度の現況値を比較すると、市街化区域における緑被率、都市計画区域における緑被率のいずれも目標に達成していません。本市のみどりは減少傾向にあり、現行計画における目標値の達成は困難であると考えられます。

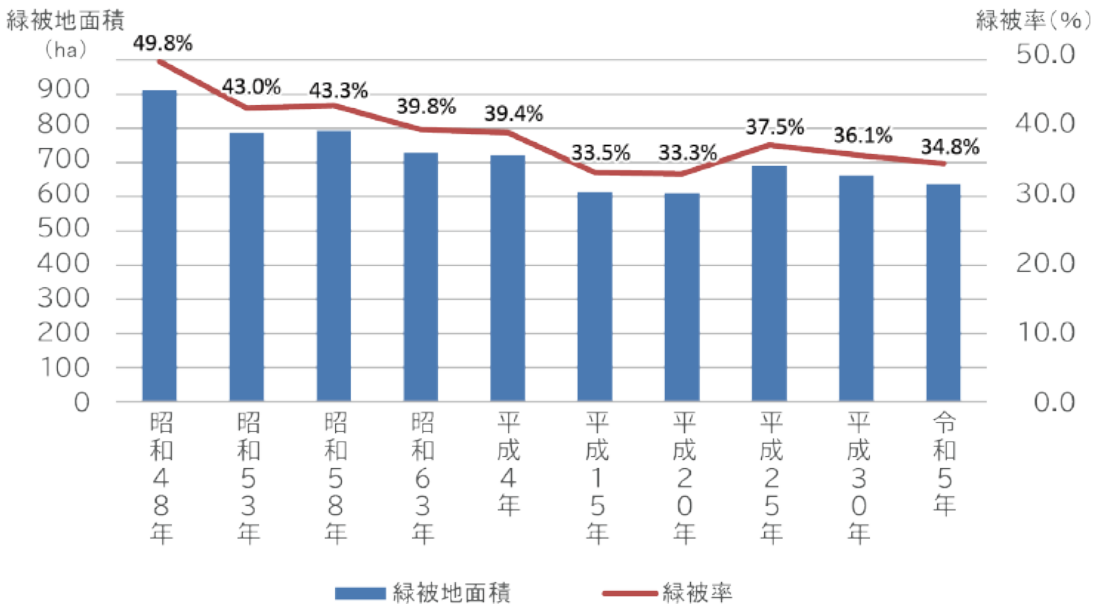


図 市全体の緑被率の推移

出典：令和5年緑被率経年変化調査報告書（朝霞市）

※昭和48年から平成20年までについては、総面積を18,317k㎡として緑被率を計算しています。
平成25年は総面積を18,38k㎡、平成30年以降は18,34k㎡で緑被率を計算しています。

表 現行計画におけるみどりの目標面積^{※4}と現況値

	現行計画目標値 (平成37年度) (2025年度)	現況値 令和5年度 (2023年度)
市街地における面積(ha) ※カッコ内は区域に占める割合(緑被率)	298 (28%)	200.90 (18.66%)
都市計画区域における面積(ha) ※カッコ内は区域に占める割合(緑被率)	670 (37%)	638.32 (34.80%)
市街化区域面積(ha) ／都市計画区域面積(ha)	1,063 ／1,838	1,076.51 ／1,834.00

※4：現行計画（p52、「表 3-3 緑の目標面積」）で位置づけられる目標値

グリーンインフラの多面的効用に係る分析評価

グリーンインフラの多面的効用に係る分析評価の概要

1) 目的

ネイチャーポジティブなどの社会潮流から緑地保全・都市緑化政策の着実な推進が求められています。そこで、緑地保全・都市緑化政策の検討における根拠を得るため、市民生活を支え豊かにするみどりの多面的な効用に係る解析を実施するものです。

2) みどりのはたらき

みどりは、次のような機能を持ち、私たち人間や生きものの暮らしを支えるとともに、朝霞市の街の魅力の向上に貢献しています。このようなみどりの持つ様々な機能を活かして、まちづくりにおける課題解決を図る取り組みを「グリーンインフラ」と呼びます。

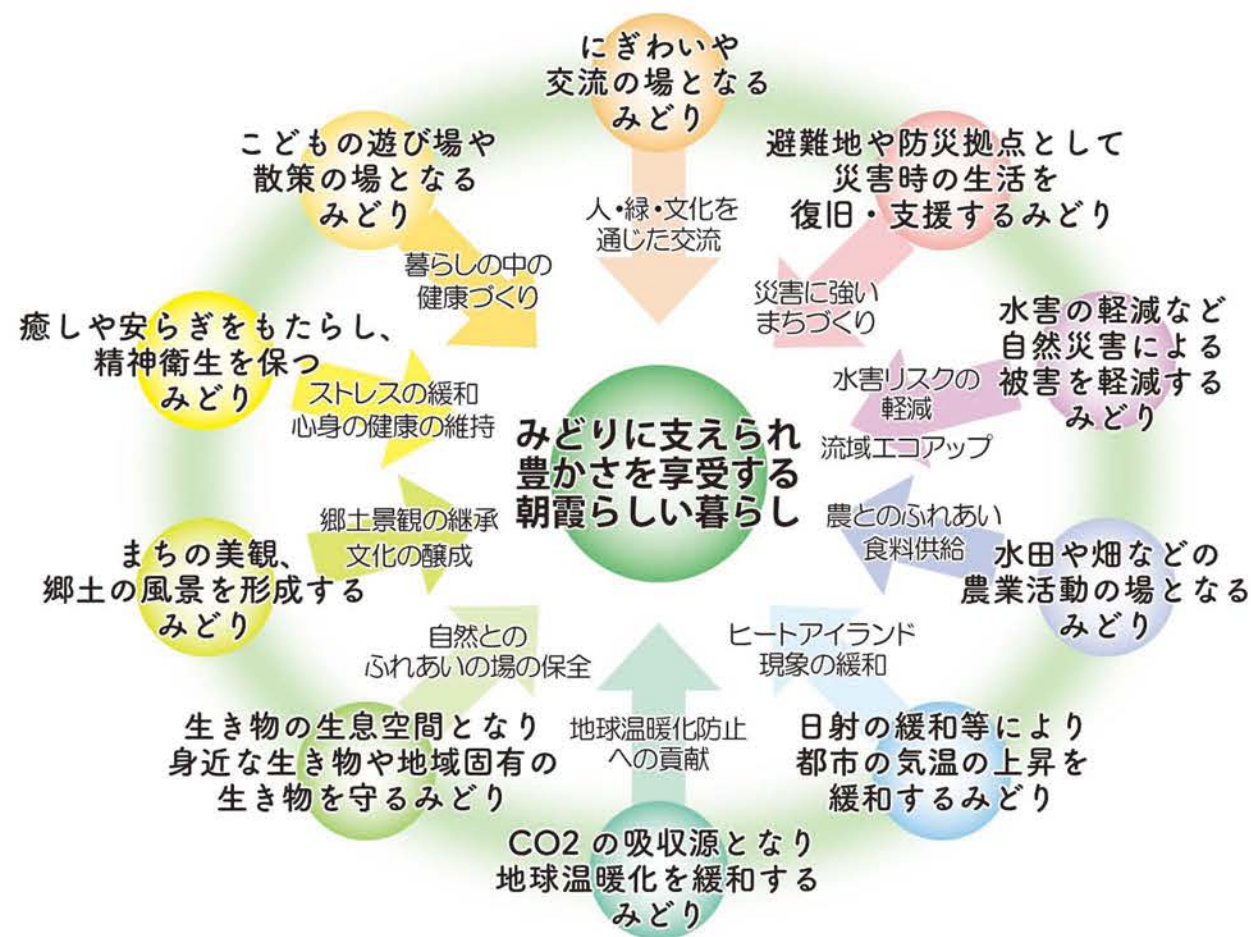


図 グリーンインフラによるまちづくりのイメージ

3) みどりの分析評価の構成

本市の樹林地や草地、農地、水辺地などの自然地に加え、市街地などにおける自然的性質も合わせた基盤地図として「朝霞市グリーンインフラマップ」を作成します。

分析評価は、「朝霞市グリーンインフラマップ」をもとに、以下に示す分析軸におけるみどりの持つ能力を、市域をカバーするヘキサゴン(六角形)メッシュ(1メッシュの面積は約 2,150 m²)を空間単位として評価します。また、「みどりの市民アンケート調査」における“みどりの効用別サービスへの支払い意思”の結果を用いて、各効用別評価を重み付けし、総合評価を行います。

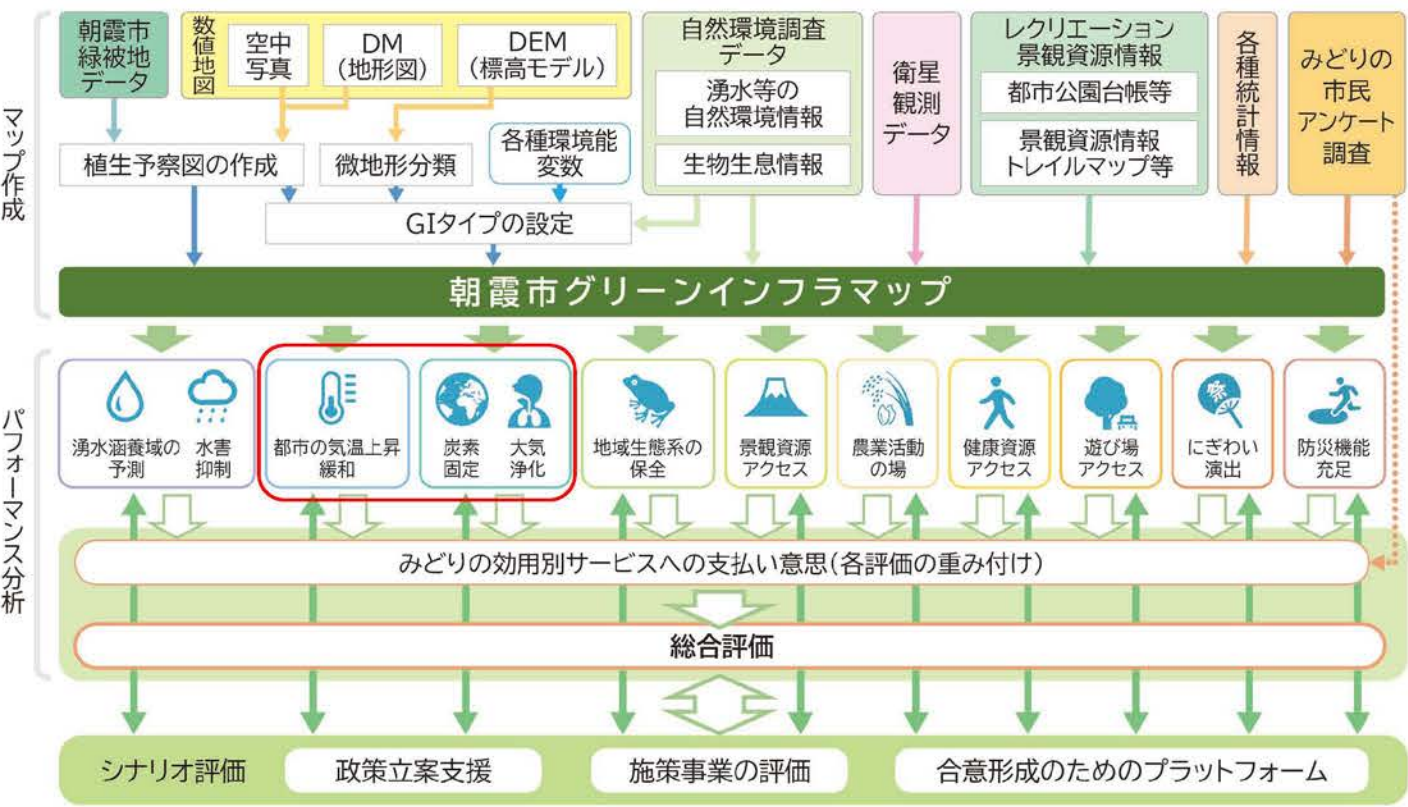


図 グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価の構成

※本資料は赤枠の分析結果をまとめています。

4) 朝霞市グリーンインフラマップ

グリーンインフラマップのベースとして、令和5年度朝霞市緑被地調査、空中写真やDM(デジタルマップ)などの数値地図を用いて詳細な植生予察図を作成しました。次に微地形の分布状況や自然環境情報を踏まえグリーンインフラタイプ(凡例)を設定し、植生予察図の修正を施しながら凡例付けを行い、また雨水の最終浸透能や植生区分におけるバイオマス係数等の各種環境変数を与え、グリーンインフラマップを作成しました。

この他、みどりの効用別分析のために、衛星観測データ、レクリエーション資源・景観資源等の分布を地理情報システムで重ね合わせ出来るようにデータを構築しました。



凡 例

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 101, 湿田 | 511, アスファルト舗装 |
| 102, 休耕湿田 | 512, 透水性舗装 |
| 103, 湿性立地の管理放棄型の草原 | 513, 土系砂系舗装 |
| 104, 中性立地の冠水型草原 | 514, 碎石舗装 |
| 105, 蓮池 | 515, 樹脂舗装 |
| 201, 蔬菜畑 | 516, 造成地 |
| 202, 果樹園・樹木畑 | 517, 資材置き場 |
| 203, 休耕地 | 518, 墓地 |
| 204, 耕作放棄地 | 521, 建築物 |
| 304, 河辺の落葉樹自然林 | 522, 特殊緑化(草地) |
| 309, 低山地の常緑樹二次林 | 523, 特殊緑化(樹木) |
| 310, 段丘崖の常落広葉樹混交林 | 524, 人工芝 |
| 311, 中～乾性立地の落葉樹二次林 | 526, 防草シート |
| 312, 中～乾性立地の伐採跡地二次林 | 527, 敷き鉄板 |
| 314, 中～乾性立地の針葉樹植林 | 528, コンクリート構造物 |
| 318, その他の落葉樹植林 | 529, コンクリート擁壁 |
| 319, タケ類植林 | 531, 間地 |
| 321, 中～乾性立地の管理放棄型の草原 | 542, 緑化ブロック |
| 322, 中～乾性立地の粗放管理型の草原 | 543, 太陽光パネル |
| 323, 湿性立地の冠水型草原 | 544, 配管施設 |
| 324, 中性立地の冠水型草原 | 550, 植栽地起源の管理放棄型樹林 |
| 401, ため池 | 601, 車道(舗装) |
| 402, 生態復元池 | 602, 車道(未舗装) |
| 403, 自然的護岸の池 | 603, 車道(透水性舗装) |
| 406, 遊水池・調整池 | 604, 車道(高架) |
| 407, プール他 | 606, 歩道(舗装) |
| 412, 人工護岸の中小河川 | 607, 歩道(未舗装) |
| 413, 自然的護岸の中小河川 | 608, 歩道(透水性舗装) |
| 421, 農地の小水路 | 611, 鉄道の軌道敷き |
| 422, 市街地の小水路 | 612, 鉄道の高架 |
| 424, 公園等のせせらぎ(護岸不透水) | |
| 425, 公園等のせせらぎ(自然護岸) | |
| 441, 礫原 | |
| 442, コンクリート護岸 | |
| 443, 空隙のある護岸 | |
| 501, 高中木植栽地 | |
| 502, 灌木植栽地 | |
| 503, 芝生植栽 | |
| 504, 花壇等 | |
| 505, 裸地 | |
| 506, 強管理草地 | |
| 507, 路傍雑草地 | |

図 朝霞市グリーンインフラマップ

2. ヒートアイランド現象の緩和パフォーマンス

1) ランドサット9号の画像から推測する地表面温度の分布

ランドサット9号の熱赤外線バンド(Band10)をもとに本市における夏季の地表面温度図を作成しました。地表面温度は、2023年と2024年の夏季からランドサット衛星の通過のタイミングと天候条件から3時期の画像を選定し、必要な変換を施した輝度温度の平均温度としました。

使用した ランドサット画像の 撮影日時	2023年7月27日 am10:15頃 2023年8月4日 am10:15頃 2024年7月5日 am10:15頃
---------------------------	---

ランドサット画像より作成した地表面温度図において、最高温度は36.5℃、最低温度は25.7℃となっています。地表面温度図を見ると、駅周辺や住宅地などの都市的な土地利用が分布するエリアで温度が高く、荒川や新河岸川、基地跡地などのまとまりのあるみどりが分布するエリアで温度が低いことがわかります。黒目川や小規模なみどりにおいても周囲より温度が低いクールスポットが形成されていることがわかります。また、まとまったみどりに接する住宅地などでは、温度の低い領域がにじみだしていること(にじみだし現象)も確認できます。

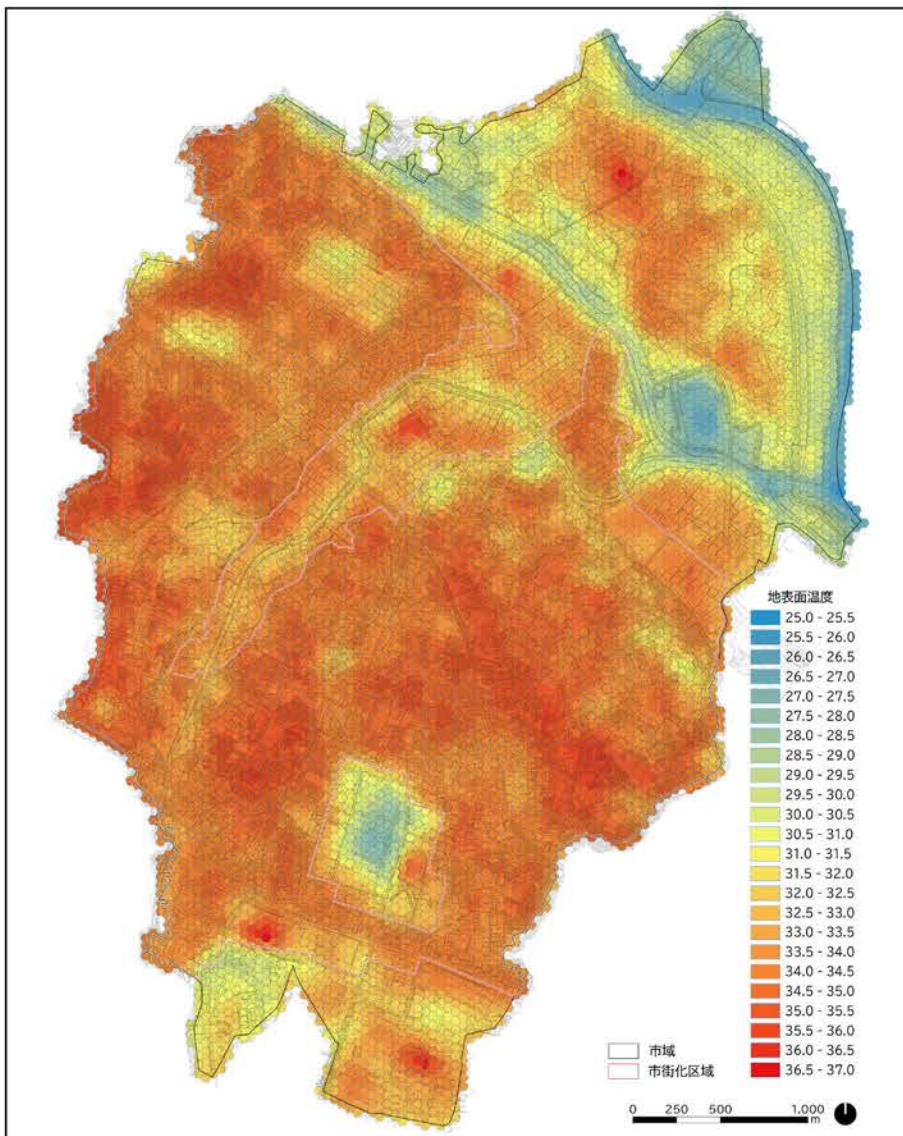


図 ランドサット衛星画像による地表面温度分布図

2) みどりによるヒートアイランド現象の緩和能力の試算

ランドサット画像による輝度温度を目的変数とし、グループ化したGIタイプの各面積を説明変数として重回帰分析を行うと、以下のような回帰式を求めることができます。

式 GIタイプの分布から地表面温度を推測する回帰式

$$\begin{aligned} \text{推測地表面温度(℃)} = & 31.6 + (-0.40 \times \text{草地系 GI タイプ面積(ha)}) \\ & + (-1.93 \times \text{樹林地系 GI タイプ面積(ha)}) \\ & + (-4.28 \times \text{水系 GI タイプ面積(ha)}) \\ & + (1.87 \times \text{都市系 GI タイプ面積(ha)}) \\ & + (0.98 \times \text{建物面積(ha)}) \end{aligned}$$

補正 R²=0.773

補足：にじみだし現象を考慮し、目的変数は対象メッシュの地表面温度、説明変数は対象メッシュと隣接する6つのメッシュを合わせたGIタイプの面積としました。1メッシュの面積は約2150㎡。

GIタイプの分布状況から、回帰式をもとに市域の地表面温度を推測すると以下の図を作成することができます。

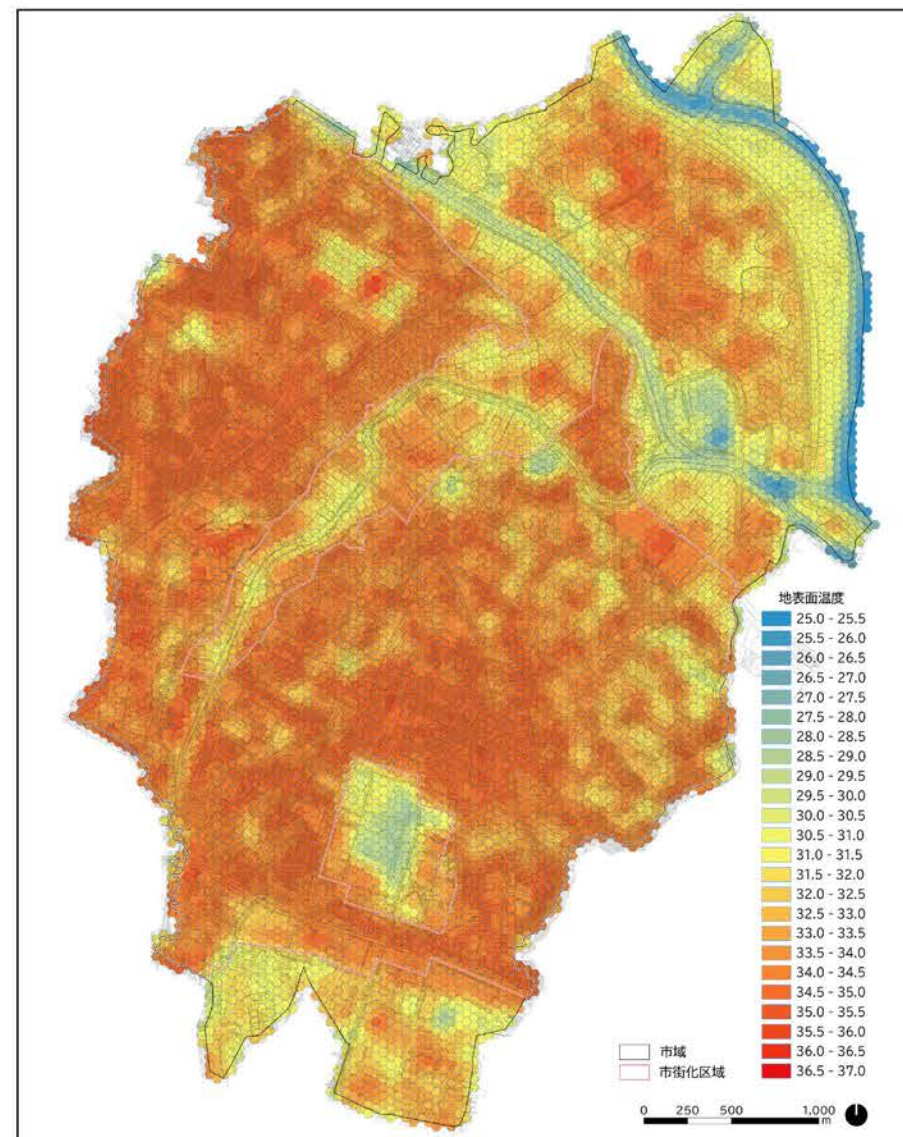


図 回帰式による推測地表面温度分布図

回帰式を見ると、ヒートアイランド現象の緩和能力が最も大きいものは水系GIタイプで、次いで樹林地系GIタイプ、草地系GIタイプとなります。

また、回帰式を用いると、例えば樹林地が駐車場に置き換わった場合の地表面温度の変化を予測することも可能になります。仮に、0.25haの樹林地系GIタイプが都市系GIタイプに置き換わると、約1.5haの範囲の平均地表面温度が約1℃上昇する計算結果となります。

3) ヒートアイランド現象の緩和の視点による評価単位の得点化

現実の観測データに基づき作成したランドサット衛星画像による地表面温度分布においては、ランドサット画像の解像度やその他の要因から、同様の環境条件においても地表面温度にムラが生じることがあります。特に小規模なみどりの地表面温度の推測が難しいと考えられます。

そこで本市におけるヒートアイランド現象の緩和の視点による評価は、再現性の高い「回帰式による推測地表面温度分布図」をもとに評価しました。

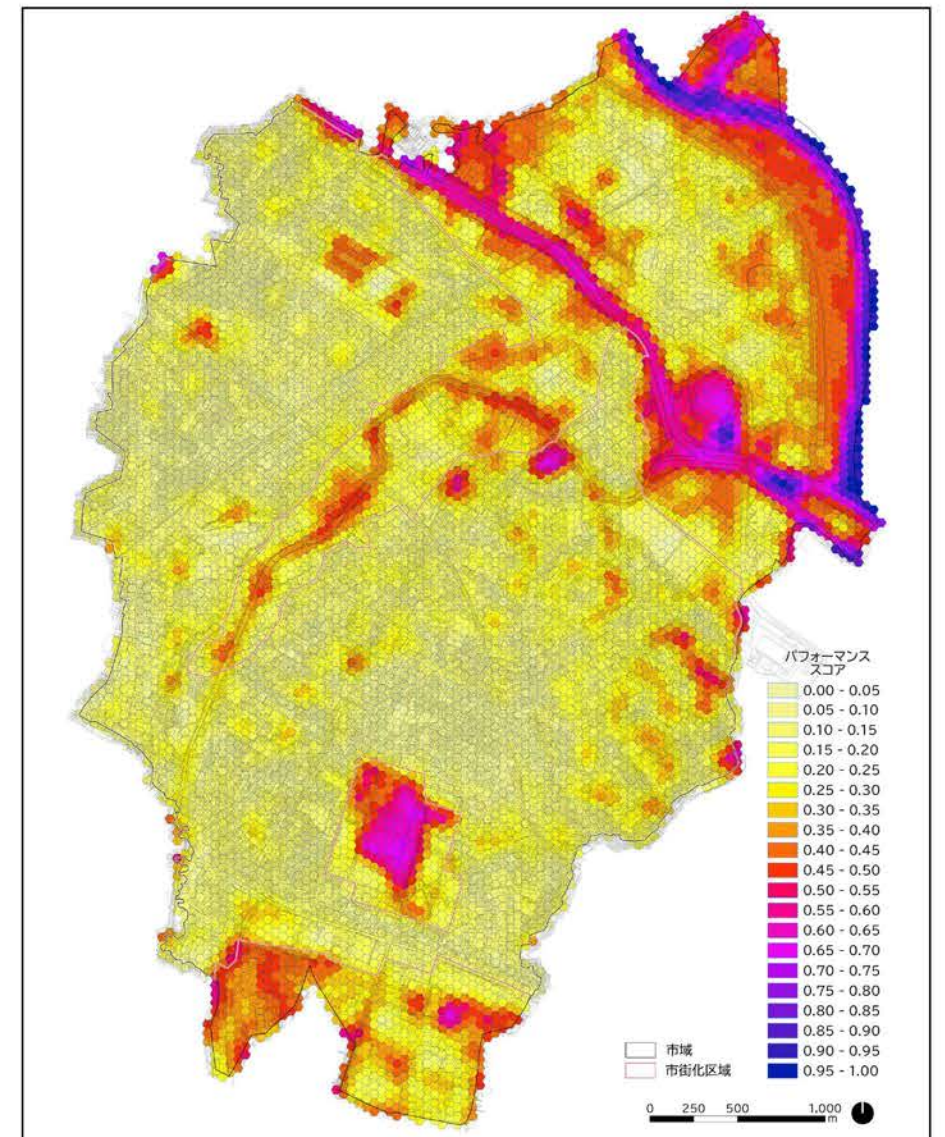


図 ヒートアイランド現象の緩和パフォーマンス

1) 炭素固定量算定の手順

緑色植物において、光合成により生産された有機物の総量を総生産量といいます。また、植物は自ら生産したものの一部を呼吸により消費しながら生育しているため、総生産量のうち呼吸消費量を差し引いた残りが植物体として固定され、これを純生産量といいます。

炭素固定量の推定は、使用できるデータ等を踏まえ、既往研究において蓄積のある森林や草地などにおける単位面積当たりの純生産量に関する数値を活用し算出します。GI タイプの分布面積から評価単位メッシュにおける純生産量を算出し、さらに炭素量に換算して炭素固定量を算定します。

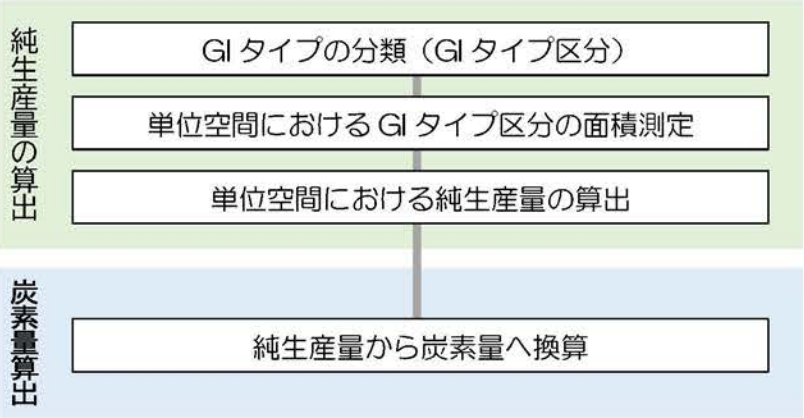


図 大気浄化量の算定手順

表 GI タイプ区分の純生産量・炭素固定量

GI タイプ区分	純生産量 (t/ha・y)	炭素固定量※1 (t/ha・y)
常緑広葉樹林	18	8.0
落葉広葉樹林	12	5.3
常落混交広葉樹林※2	15	6.7
常緑針葉樹林	18	8.0
草地（竹林含む）	12	5.3
農耕地（果樹園等含む）	10	4.4
その他緑地（公園等を含む）※3	6	2.7

参考：大気浄化植樹マニュアル 2014 年度改訂版（2015），独立行政法人環境再生保全機構

※1：植物体の乾物重の大部分を占める多糖類（ $C_6H_{10}O_5$ で代表される）と、この中の炭素量の重量比から炭素固定量を設定しています。多糖類と含有炭素の重量比は、 $[6C]/[C_6H_{10}O_5]=6*[12g/mol]/[162g/mol] \div 44.4\%$ です。

※2：常落混交広葉樹林の純生産量、炭素固定量は、常緑広葉樹林と落葉広葉樹林の値の平均としました。

※3：グリーンインフラマップにおける高中木植栽地、灌木植栽地は、「その他緑地」として計算した。

2) 炭素固定量の算定

純生産量及び炭素固定量を算出した結果、市全域では年間約 3,018t/y の炭素固定能力があると算定されました。

表 朝霞市内のみどりによる年間純生産量・炭素固定量

総生産量 (t/y)	炭素固定量 (t/y)
6,790.47	3,017.98

また、評価単位メッシュ(約 2,150 m²)における炭素固定量の最小値は 0t/y、最大値は約 1.566t/y と算定されました。最大値を 1m²に換算すると約 0.73kg/m²・y となります。

炭素固定量の比較的高いまとまりあるエリアは、みどりの分布状況と同じであり、荒川河川敷、朝霞調整池、新河岸川沿い、基地跡地、陸上自衛隊朝霞駐屯地においてまとまって分布しているほか、黒目川沿いや内間木、根岸台、岡、宮戸付近では、点在する農地や屋敷林等によるエリアが確認できます。

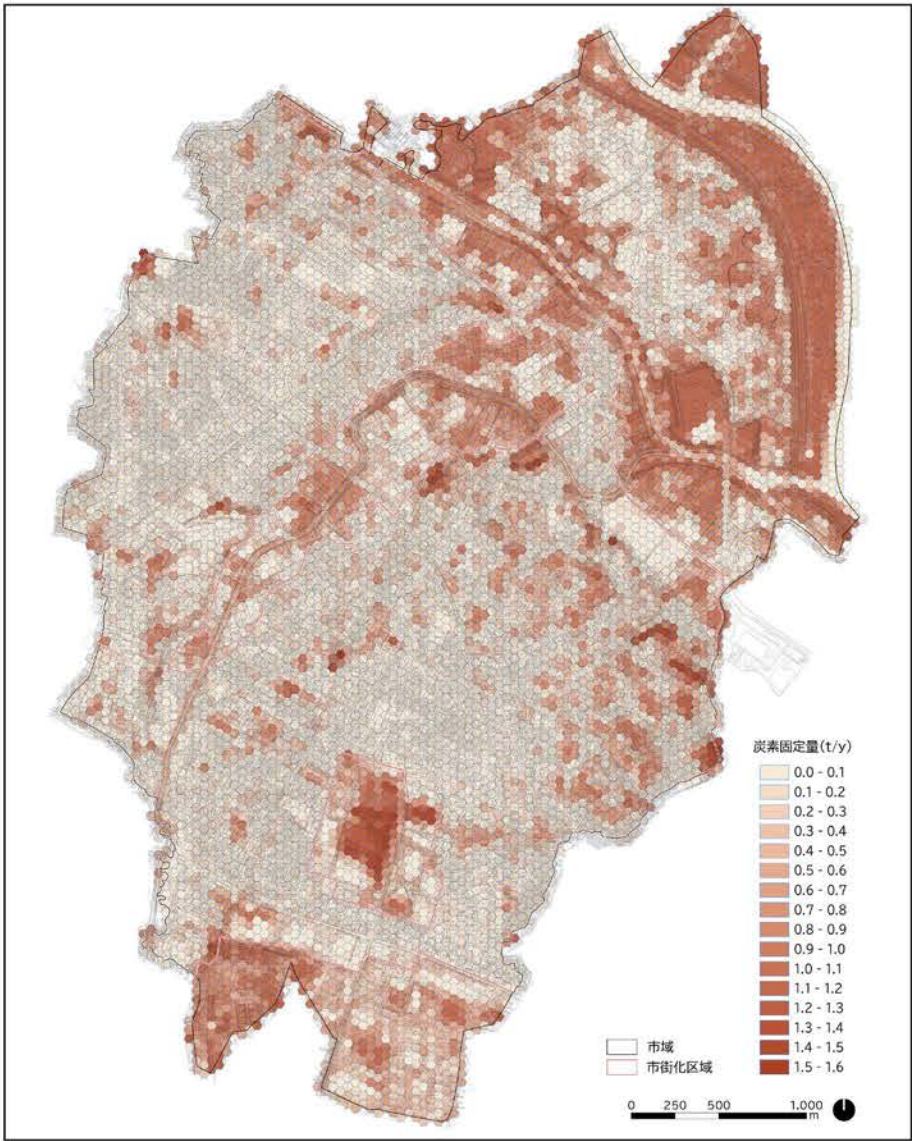


図 炭素固定量

また、炭素固定量が特に高いエリアは、常緑広葉樹を含む斜面林や基地跡地などで確認できます。次いで河川沿いの草原系 GI タイプや農地系 GI タイプの評価が高い傾向があります。

本算定では、GI タイプ区分の面積に単位面積当たりの変数を乗じて算出する簡易な手法を採用しています。植物群落の樹高や密度などを踏まえた高精度な算定はデータの整備手法を含め、今後の課題とします。

3) 炭素固定の視点による単位空間の得点化

評価単位メッシュにおける炭素固定量の最大値を 1.0 となるように変換し、炭素固定パフォーマンス図を作成しました。

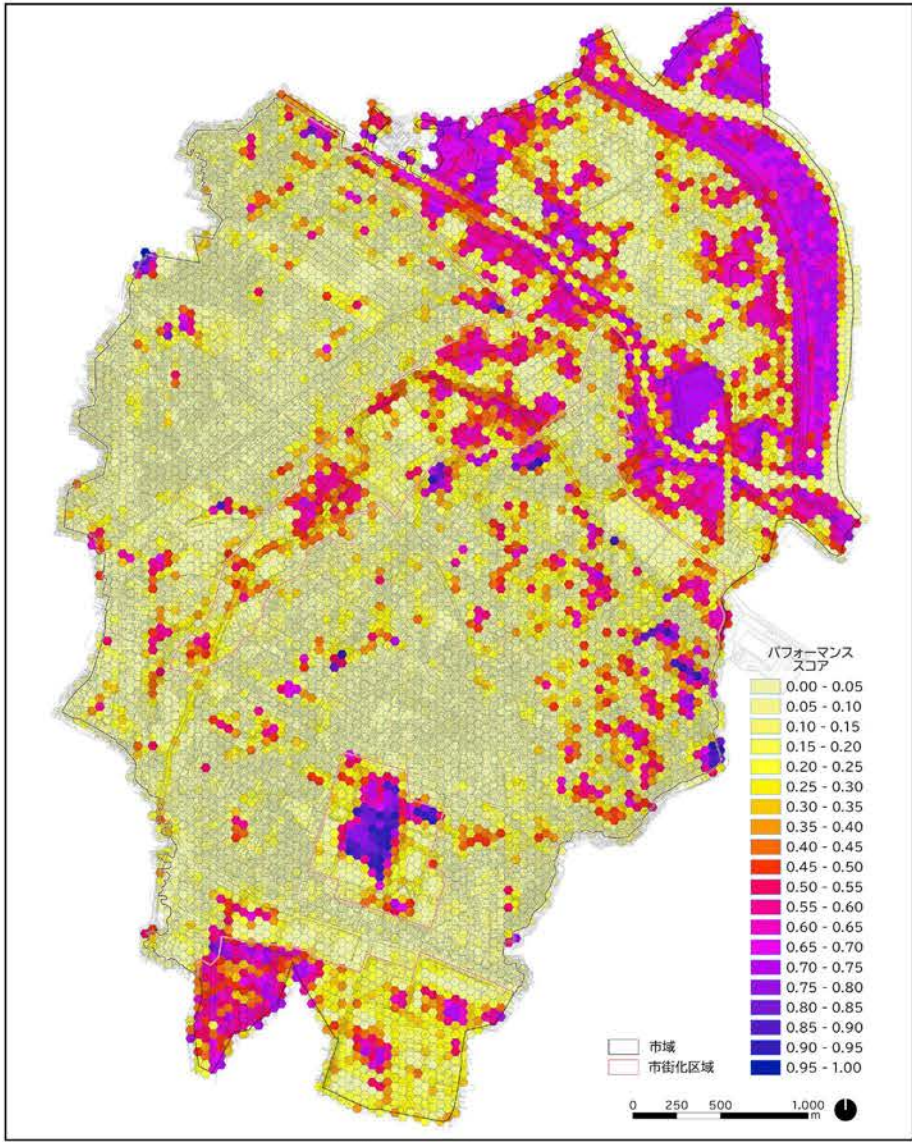


図 炭素固定パフォーマンス

3-b. 大気浄化パフォーマンス

1) 大気浄化量算定の手順

植物は、葉の表面にある気孔を通じて、空気中の CO_2 を取り込むと同時に空気中に含まれている大気汚染物質を吸収します。

大気浄化量の推定は、まず植物の光合成によって生産される総生産量※1を推定します。総生産量は、森林や草地などにおける単位面積当たりの総生産量に関するデータを活用して推定します。次に GI タイプの分布面積から評価単位メッシュにおける総生産量を算出し、地域の大気汚染濃度等を用いて、モデル式により汚染ガス吸収量を推計します。

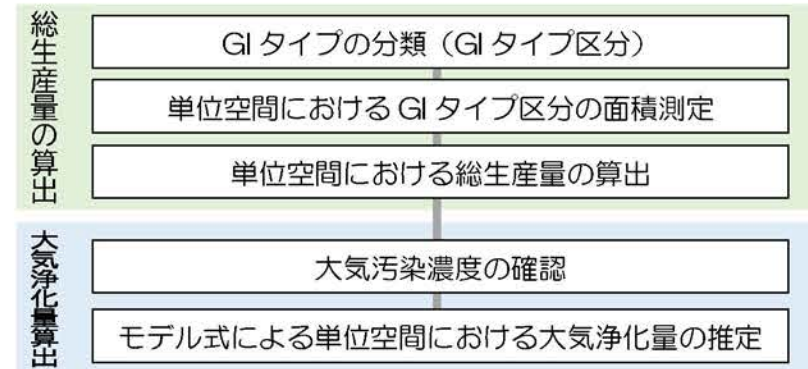


図 大気浄化量の算定手順

式 大気浄化量のモデル式

$$\begin{aligned} \text{SO}_2 \text{ の吸収速度 (t/y)} &= 18.6 \times \text{大気中の SO}_2 \text{ 濃度 } (\mu\text{g}/\text{cm}^3) \times \text{総生産量 (乾重量 t/ha} \cdot \text{y)} \\ \text{NO}_2 \text{ の吸収速度 (t/y)} &= 13.9 \times \text{大気中の NO}_2 \text{ 濃度 } (\mu\text{g}/\text{cm}^3) \times \text{総生産量 (乾重量 t/ha} \cdot \text{y)} \end{aligned}$$

出典：大気浄化植樹マニュアル 2014 年度改訂版（2015）、（独）環境再生保全機構

表 GI タイプ区分の総生産量・汚染大気吸収速度

植生区分	総生産量 (t/ha・y)	SO ₂ 吸収速度 (t/ha・y)	NO ₂ 吸収速度 (t/ha・y)
常緑広葉樹林	51	0.00247	0.03736
落葉広葉樹林	22	0.00106	0.01612
常落混交広葉樹林※2	36.5	0.00177	0.02674
常緑針葉樹林	51	0.00247	0.03736
草地（竹林含む）	22	0.00106	0.01612
農耕地（果樹園等含む）	18	0.00087	0.01319
その他緑地（公園等含む）	13	0.00063	0.00952

参考：大気浄化植樹マニュアル 2014 年度改訂版（2015）、（独）環境再生保全機構

表 大気汚染濃度

二酸化硫黄	0.001ppm※3	0.0000026 $\mu\text{g}/\text{cm}^3$ ※4
二酸化窒素	0.028ppm※3	0.0000527 $\mu\text{g}/\text{cm}^3$ ※4

※1：植物の光合成によって生産される有機物量を総生産量といいます。この一部は植物の呼吸によって大気中に戻され、その残りが葉や幹などの新たな植物組織（純生産量）となります。

※2：常落混交広葉樹林の総生産量は、常緑広葉樹林と落葉広葉樹林の総生産量の平均値としています。

※3：「令和5年度大気汚染物質の常時監視測定結果（2024）、埼玉県環境部」に記載の新座観測局における日平均値の2%除外値を引用

※4：標準気圧 1013.25hPa、気温 25℃として換算

2) 大気浄化量の算定

大気浄化量を算出した結果、年間で二酸化硫黄（ SO_2 ）は約 0.63t/y、二酸化窒素（ NO_2 ）は 9.44t/y の浄化能力があると算定されました。

大気浄化量の比較的高いまとまりあるエリアは、みどりの分布状況と同じであり、荒川河川敷、朝霞調整池、新河岸川沿い、基地跡地、陸上自衛隊朝霞駐屯地においてまとまって分布しているほか、黒目川沿いや内間木、根岸台、岡、宮戸付近では、点在する農地や屋敷林等によるエリアが確認できます。

また、大気浄化量が特に高いエリアは、常緑広葉樹を含む斜面林や基地跡地などで確認できます。次いで河川沿いの草原系 GI タイプや農地系 GI タイプの評価が高い傾向があります。

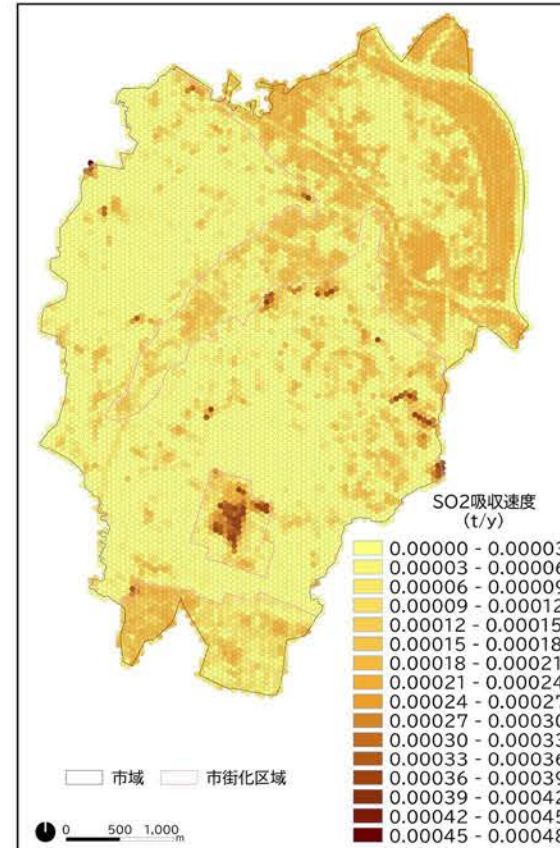


図 大気浄化量(SO₂吸収速度)

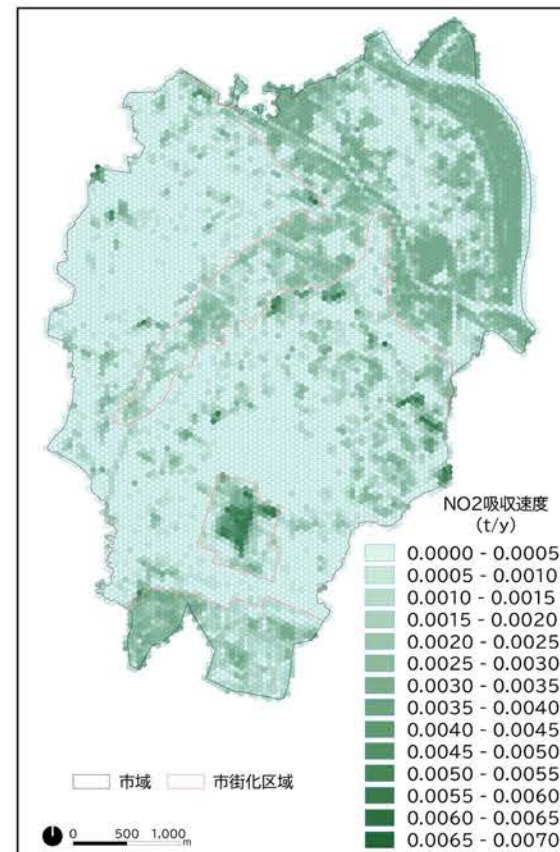


図 大気浄化量(NO₂吸収速度)

3) 大気浄化の視点による単位空間の得点化

他のみどりの効用別パフォーマンス図と合わせ、評価単位メッシュにおける大気浄化量の最大値を 1.0 となるように変換し、大気浄化パフォーマンス図を作成しました。

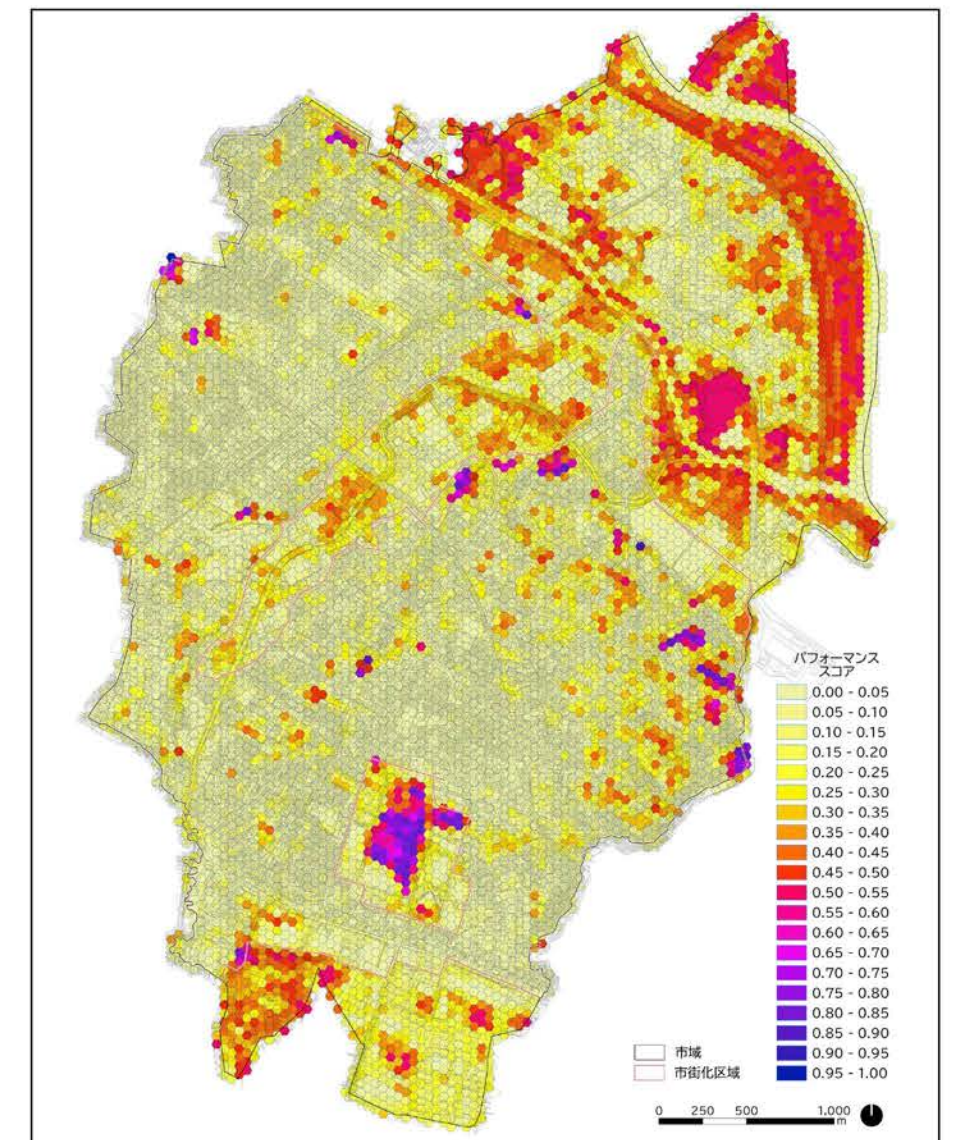


図 大気浄化パフォーマンス

1) 湧水涵養シミュレーションの目的

本市では湧水代官水をはじめとしていくつかの湧水を見ることができます。これは武蔵野台地の端に位置する本市の地形的特色と言えます。

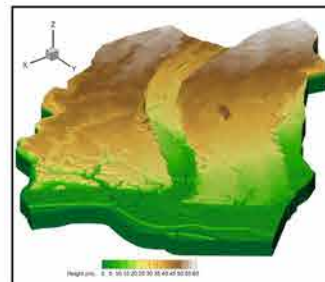
この評価では、本市の地下水の動きを再現することを通じ、湧水や河床から湧き出る地下水がどこに浸透域に由来するのか明らかにし、湧水や河川の平常時流量の保全において重要なエリアを抽出します。

2) 三次元数値シミュレーションのモデル構築

モデル構築は、「1.大気・海洋のモデル化」、「2.地形のモデル化」、「3.陸面のモデル化」、「4.地下地質構造のモデル化」、「5.水利用のモデル化」を経て、「三次元格子モデル構築」、「パラメータ・外力条件等の割り当て」の順に進められます。

【モデル化方針】

- 段丘面に広がるローム層は比較的水透性が高く、地表から地下に浸透した水は下位の砂礫層中の帯水層に流入する。
- 段丘砂礫層中の地下水は、その基底面の傾斜の沿って流れ、台地の末端や段丘崖に湧出している。すなわち、これ等の湧水の起源は、段丘面上で涵養された降雨とみなせる。
- 一方、関東平野南西部の深部の地下水は、長年の揚水のため著しく低下している。このため、砂礫層中の地下水の一部は、下位の地層（多少は水を通す）に向かって浸透している。
- 従って、地表から涵養された地下水は、台地の縁辺に湧出するものと、地下深部に浸透して行くものに振り分けられ、その配分を適切に評価することが、解析の着目点となる。



- 水平解像度：10m(朝霞市内)、10～400m(朝霞市外)
- 標高-100m までをモデル化
- 総格子数：8,347,066

図 朝霞市水循環モデル

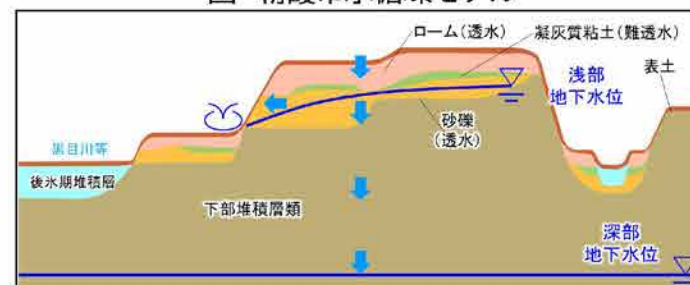
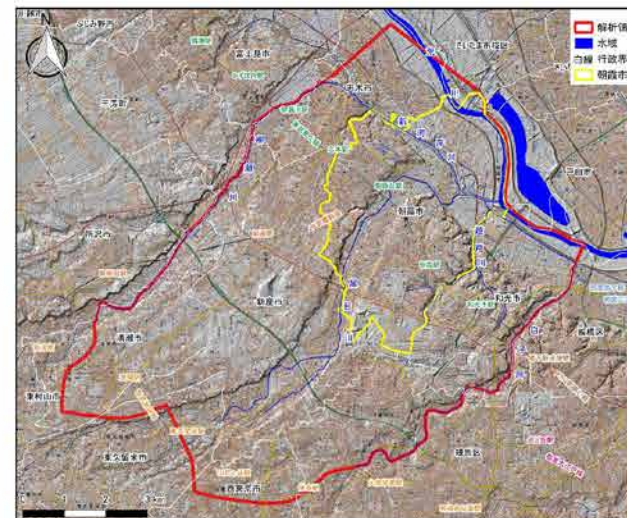


図 武蔵野台地の地下水位について



- 朝霞市の北西側・南西側の境界は柳瀬川及び白子川で閉境界とした。
- 台地部ではボーリングデータから推定した地下水位の高まりを閉境界とした。これにより上流側の地下水は解析領域に流入しない設定となる。
- 黒目川の上流(谷地)の境界は朝霞市から十分離れた位置に設定し、既存ボーリングデータから推定した固定水位境界を設けた。
- 荒川沿いの低地は、荒川の上流側及び下流側に境界を設定し、推定地下水位に基づいて固定水位境界を設けた。
- 解析領域の底面は-100mとした。

図 解析領域の設定

3) 再現シミュレーション

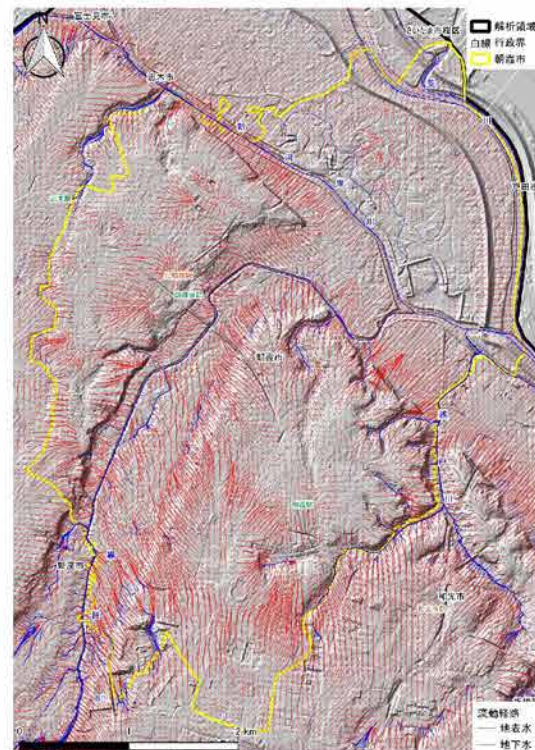


図 流動経路

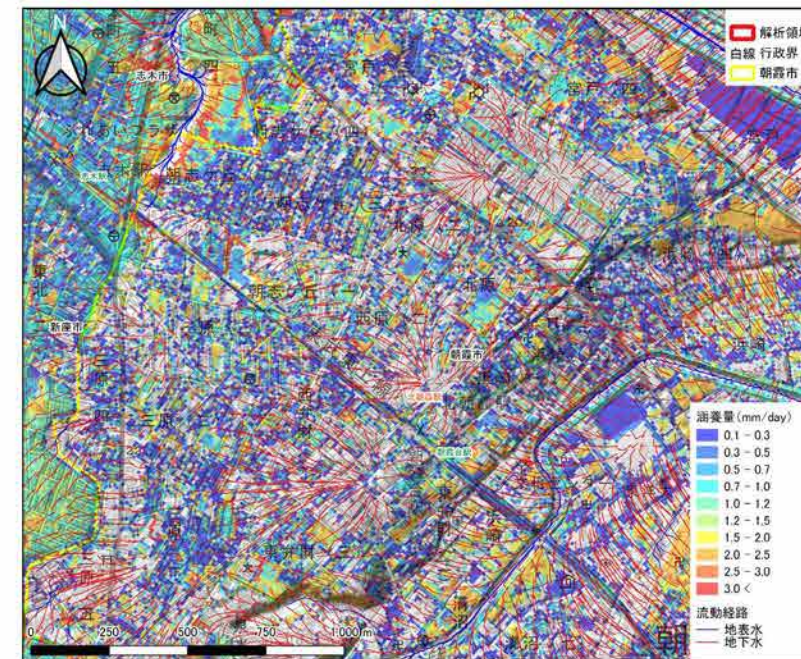


図 浸透量と流動経路

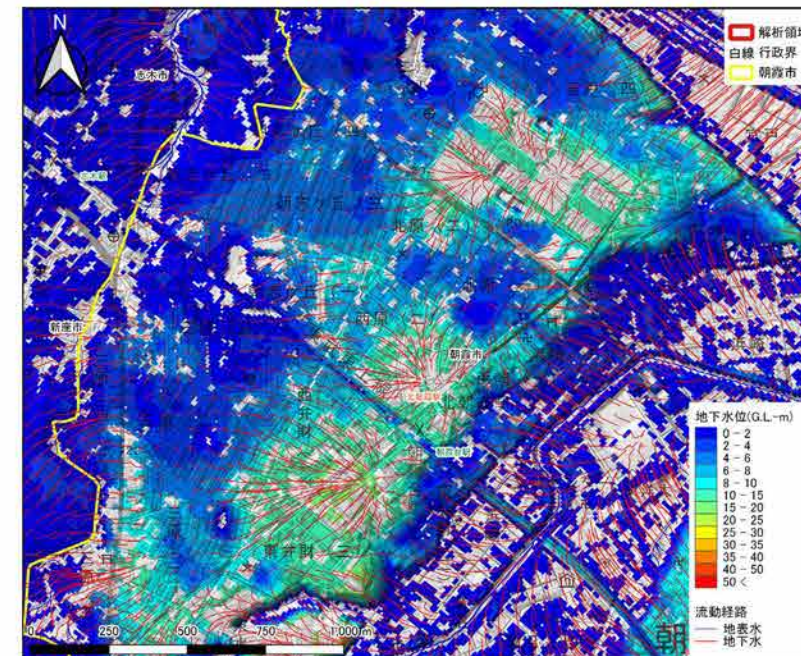


図 自由地下水位と流動経路

流動経路は、概ね台地面から低地に向かって流れています。
また人工的被覆面がまとまっているエリアでは、涵養量が低下したことにより、当該エリアの自由地下水位が低下し、自由地下水位が低下したエリアに向かって周囲から地下水が流れています。

4) 湧水の浸透起源の予測

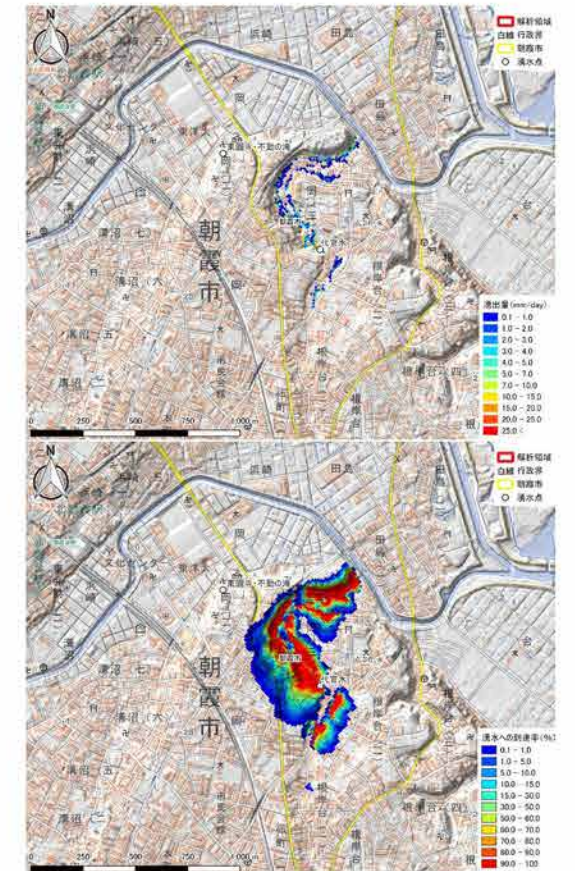


図 湧出/上段・浸透起源/下段(代官水)

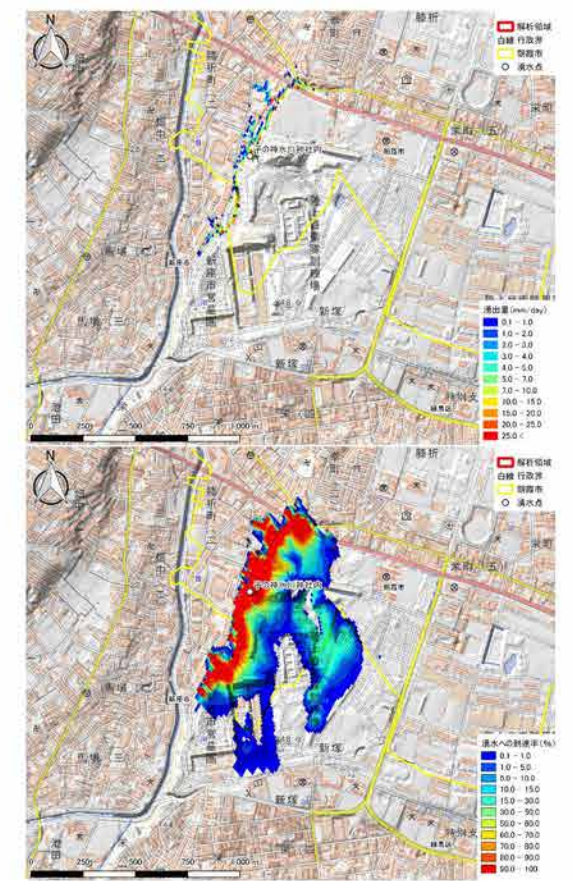


図 湧出/上段・浸透起源/下段(子の神水川神社)

4. 地域生態系の保全パフォーマンス

1) 地域生態系の評価の考え方

生き物がある場所に棲むためには、エサがとれ、巣作りや産卵などができる環境が必要です。生き物の種によって必要な環境や生活の仕方は様々です。本評価では、この生き物に必要な環境や生活の仕方により動植物をある程度グループ化し、それぞれのグループごとの利用状況を抽出し、生き物の視点による環境の多様性を評価することとしました。以後、このグループを指標と呼びます。

評価は、過去の実施された生き物調査により確認された生物種リストとグリーンインフラマップを用いて行います。

まず、過去に調査で確認された生き物について、各々の生物の生活史において利用する環境(GI タイプ)を設定します。

合わせて、過去に調査で確認された生き物について、レッドリスト種、注目種、同じような生態を持っているなどの理由によって設定された指標に分類します。

次に GI タイプごとの指標数(指標の多様度)を求めます。

最後に、評価メッシュ毎の GI タイプの面積に応じて、評価メッシュ毎の指標の多様度を求めます。

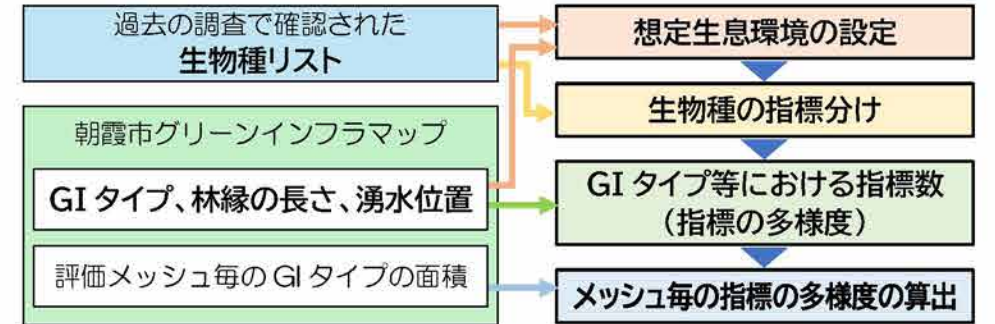


図 地域生態系の多様性評価の流れ

2) 生き物の想定生息域の設定

過去の調査で確認された生き物について、各々の生物の生活史において利用する環境を設定しました。(補足資料1)

3) 生き物の指標分け

過去の調査で確認された生き物について、レッドリスト種、注目種、同じような生態を持っているなどの理由によって設定された指標に分類しました。(補足資料2)

4) 林縁の長さ、湧水の位置

林縁の長さは、グリーンインフラマップの樹林の外周長を測定しました。

湧水の位置は、平成22年の湧水調査において湧水が認められた箇所をプロットしました。

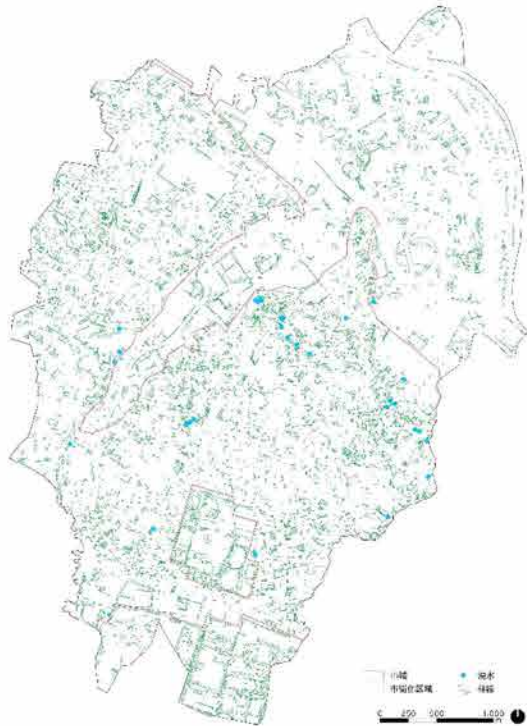


図 林縁および湧水の位置

5) GI タイプにおける指標の多様度

GI タイプ毎の指標数を抽出し、総指標数 34 により除した割合を指標の多様度とした。

表 GI タイプにおける指標の多様度 (拡大版:補足資料3)

GI ID	指標	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	指標の数 (34指標中)	指標の多様度 (指標の数/34)	
		動物・レッドリスト・鳥類	動物・レッドリスト・昆虫類	動物・レッドリスト・その他	動物・哺乳・モグラ類	動物・哺乳・外來種	動物・哺乳・モグラ類以外	動物・鳥・渡鳥(夏)	動物・鳥・渡鳥(冬)	動物・鳥・留鳥	動物・鳥・ツツキ	動物・鳥・昆虫食	動物・鳥・種子食	動物・鳥・水鳥	動物・哺乳・在來種	動物・哺乳・在來種(卵・幼)	動物・同・在來種(成体)	動物・同・在來種(卵・幼)	動物・昆虫・チョウ(樹林性)	動物・昆虫・チョウ(草原性)	動物・昆虫・チョウ(樹林性)	動物・昆虫・チョウ(草原性)	動物・昆虫・指標(樹林性)	動物・昆虫・指標(草原性)	動物・昆虫・トノボ(流水性)	動物・昆虫・トノボ(止水性)	動物・水・魚(淡水性)	動物・水・魚(止水性)	動物・水・魚(回遊性)	動物・水・魚(肉食性)	動物・水・魚(草食性)	動物・水・エビカニ類	動物・水・貝類	動物・水・昆虫	植物・レッドリスト			植物・注目種
GI タイプ																																						
101	畑田	10	2	7	0	0	0	4	9	13	0	21	13	10	5	2	2	0	1	4	0	0	11	1	6	1	4	0	4	5	2	1	1	3	0	25	0.74	
102	休耕畑田	10	5	7	0	0	0	4	9	13	0	21	13	10	5	2	2	0	2	4	1	5	21	1	6	1	4	0	4	5	2	0	1	8	0	26	0.76	
103	湿性立地の管理放棄型の草原	12	6	3	0	0	0	4	9	13	0	20	14	10	5	2	2	1	7	12	1	7	24	1	5	0	0	0	0	1	0	0	8	0	22	0.65		
104	中性立地の冠水型草原	12	6	3	0	0	0	5	9	13	0	21	14	10	6	2	2	1	7	12	1	7	24	1	5	0	0	0	0	0	1	0	0	8	0	22	0.65	
105	灌池	9	0	0	0	0	0	3	13	11	0	22	16	19	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	11	0.32		
201	雑草畑	5	4	1	1	0	1	3	5	9	0	13	9	1	2	0	0	1	7	14	2	6	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0.53		
202	果樹園・樹木畑	5	2	2	1	0	2	3	5	12	0	16	12	1	4	0	0	2	7	11	9	7	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0.53		
203	休耕地	8	6	2	1	0	2	4	5	16	0	20	14	1	4	0	0	1	8	20	2	10	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	19	0.56	
204	耕作放棄地	9	6	2	1	0	2	4	17	0	20	14	1	4	0	0	1	8	20	2	10	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	19	0.56	
304	河川の落葉樹自然林	6	3	1	0	0	2	3	2	14	1	15	12	1	2	0	0	3	8	4	12	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0.53		
309	低山地の常緑樹二次林	13	2	2	1	0	2	6	3	23	3	27	19	1	3	0	0	4	8	3	17	11	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	20	0.59		
310	段丘部の常緑広葉樹二次林	18	3	2	1	0	2	7	5	31	3	36	28	1	3	2	2	5	11	4	22	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	3	23	0.68		
311	中～乾性立地の落葉樹二次林	17	3	2	1	0	2	7	5	28	3	34	26	1	3	0	0	5	10	4	22	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	3	21	0.62		
312	中～乾性立地の伐採跡地二次林	16	3	2	1	0	2	7	6	25	1	31	24	1	4	0	0	5	13	6	23	13	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	3	21	0.62		
314	中～乾性立地の針葉樹二次林	12	0	2	0	0	2	5	3	26	2	28	21	1	3	0	0	1	3	2	7	8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	18	0.53		
318	その他の落葉樹二次林	16	3	2	1	0	2	7	5	26	1	32	24	1	3	0	0	5	10	4	22	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	3	21	0.62		
319	タケ類二次林	14	0	2	0	0	2	5	5	20	0	25	19	2	3	0	0	1	4	2	5	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	17	0.5		
321	中～乾性立地の管理放棄型の草原	11	8	2	1	0	2	3	8	20	0	24	19	3	4	0	0	1	9	21	2	9	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	19	0.56		
322	中～乾性立地の粗放管理型の草原	11	8	2	1	0	2	3	8	20	0	24	19	3	4	0	0	1	9	21	2	9	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	19	0.56		
323	湿性立地の冠水型草原	18	7	4	0	0	3	5	16	21	0	32	23	20	6	2	2	2	6	9	0	4	18	4	11	0	0	0	0	0	1	0	1	10	0	23	0.68	
324	中性立地の冠水型草原	18	7	4	0	0	3	5	16	20	0	32	23	19	5	2	2	2	6	9	0	4	18	4	11	0	0	0	0	0	1	0	1	11	0	23	0.68	
401	ため池	9	1	11	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	4	2	2	0	0	0	0	0	0	4	11	6	5	0	9	11	6	1	5	2	0	23	0.68	
402	生態復元池	9	1	10	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	4	2	2	0	0	0	0	0	0	4	11	6	2	0	8	8	6	1	5	2	0	23	0.68	
403	自然的護岸の池	9	1	10	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	4	2	2	0	0	0	0	0	0	4	11	6	2	0	8	8	6	1	5	2	0	23	0.68	
406	遊水池・調整池	9	1	12	0	0	2	4	11	12	0	21	14	22	3	2	2	0	0	0	0	0	0	4	11	12	9	1	17	20	6	1	5	1	0	24	0.7	
407	プール他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.03	
412	人工護岸の中小河川	10	0	16	0	0	1	4	11	14	0	22	15	20	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	20	13	7	23	32	6	2	3	0	0	20	0.59	
413	自然的護岸の中小河川	10	0	16	0	0	1	4	11	14	0	22	15	20	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	20	13	7	23	32	6	2	3	0	0	20	0.59	
421	農地の小水路	4	0	9	0	0	1	2	3	9	0	11	8	9	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	10	9	1	15	18	2	1	3	0	0	21	0.62	
422	市街地の小水路	3	0	2	0	0	1	2	8	0	9	8	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	0	0	1	0	0	13	0.38	
424	公園等のせせらぎ(護岸不透水)	3	0	1	0	0	1	2	7	0	8	7	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	12	0.35	
425	公園等のせせらぎ(自然護岸)	3	0	2	0	0	1	2	7	0	8	7	6	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	14	0.41	
441	裸地	4	0	0	0	0	0	3	9	0	10	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	8	0.24		
442	コンクリート護岸	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.06		
443	空閑のある護岸	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0.09		
501	低木植栽地	7	1	2	1	0	0	1	5	20	1	24	24	0	4	0	0	5	11	5	21	7	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0.5		
502	灌木植栽地	5	1	2	1	0	0	1	5	16	0	20	21	0	4	0	0	3	9	4	11	8	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0.47		
503	芝生植栽地	5	5	2	1	0	0	3	6	13	0	18	15	1	4	0	0	1	7	19	2	4	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	18	0.53		
504	花壇等	4	5	2	1	0	0	3	5	13	0	18	14	1	4	0	0	1	7	20	2	8	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	18	0.53	
505	裸地	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.09			
506	強管理草地	5	5	2	1	0	0	3	5	14	0	18	15	1	4	0	0	1	7	19	2	7	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	18	0.53		
507	路傍地	5	8	2	1	0	0	3	4	11	0	14	12	1	4	0	0	1	8	20	2	10	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	18	0.53		
518	草地	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.06			
521	建築物	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0.15		
522	特殊緑化(草地)	1	3	2	0	0	0	0	2	2	0	4	3	0	4	0	0	1	4	14	1	6	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0.41		
523	特殊緑化(樹木)	7	1	2	0	0	1	5	16	0	21	19	0	4	0	0	3	7	4	10	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0.44			
528	コンクリート構造物																																					

5. 景観資源パフォーマンス

1) 景観資源の評価の考え方

本市の自然的景観は、河川、斜面林、田園、並木などのまちの骨格となる景観要素、身近な水とみどりによるまちの基調となる景観要素、湧水地や湿地などの貴重な自然景観や地域の歴史を伝える歴史文化景観などによって構成されます。

これらの景観要素は、市民生活において様々なかたちで関わり、寄り添って存在し、まちのイメージの形成や市民の地元意識の醸成など、大切な役割を担っています。

この景観資源の評価では、市民が「豊かである」「魅力的である」と感じる景観要素を市民アンケート調査により抽出し、その回答頻度をもとに評価を行うこととしました。

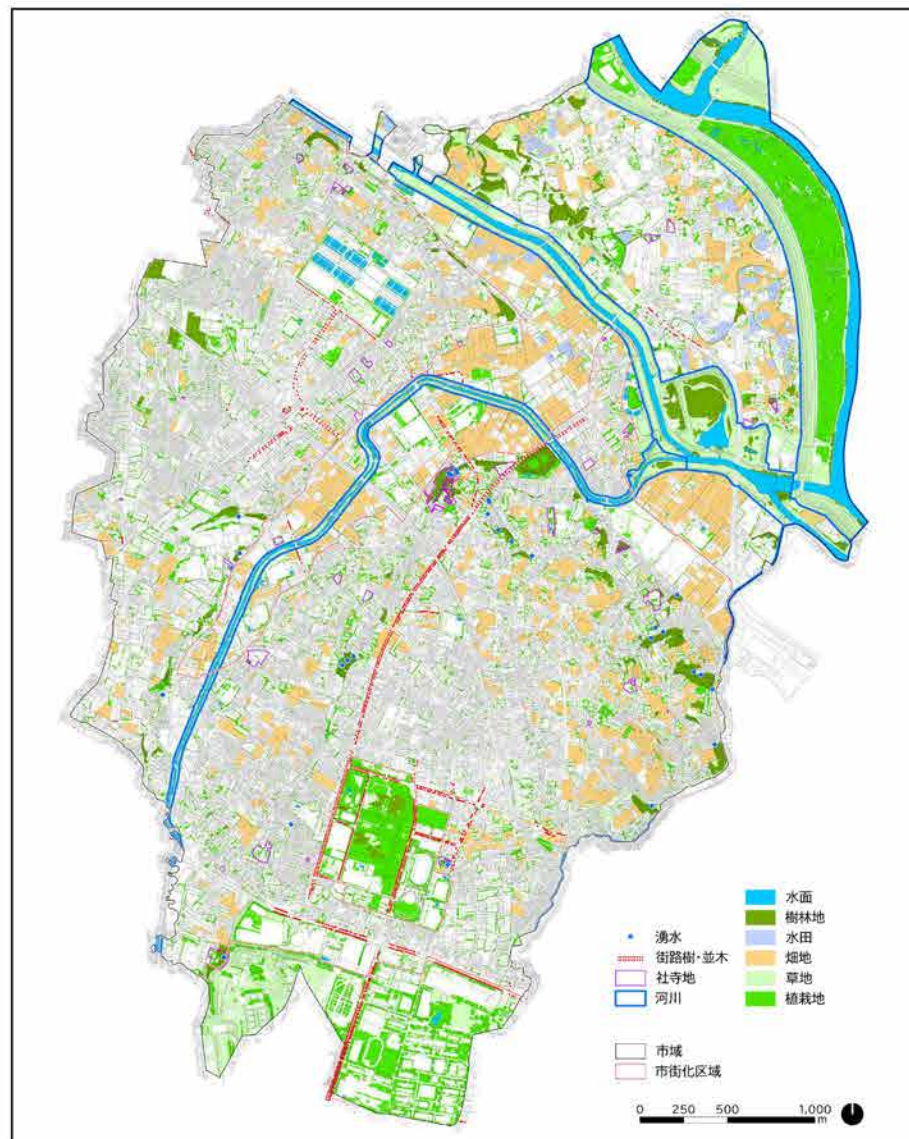


図 景観要素の分布

2) 豊か・魅力的と感じるみどり

市民アンケート調査(令和6年9月～10月実施)において、豊か・魅力的と感じるみどりについて問いました。

- 最も多くみどり・自然が豊か、魅力的であると感じているのは、黒目川(331 回答)でした。
- 次に、シンボルロード(165 回答)・青葉台公園(118 回答)・朝霞の森(110 回答)・城山公園(67 回答)・朝霞中央公園(45 回答)が上位に挙げられています。
- その他、身近な都市公園や緑地、河川や雑木林、農地などが挙げられています。

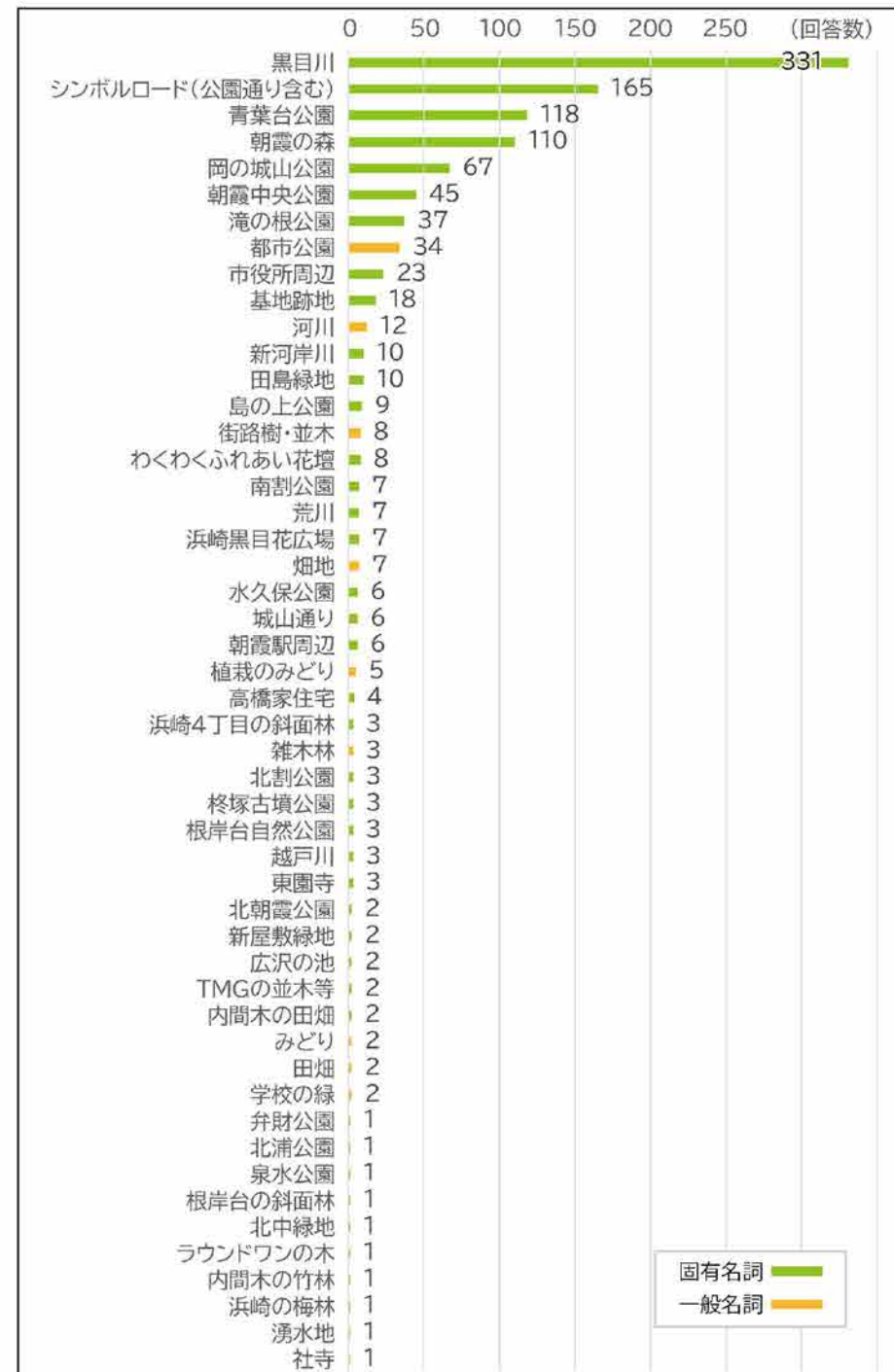


図 豊か・魅力的と感じるみどり

3) 市民意識調査による景観資源評価

市民アンケート調査において抽出された「豊か・魅力的と感じるみどり」の対象及び回答数をもとに、各々の景観資源における回答頻度に置き換え評価を行いました。

単位メッシュの評価を見ると、黒目川の評価が最も高く、青葉台公園や朝霞の森、シンボルロード、朝霞中央公園などの基地跡地周辺エリアも高い評価となりました。その他、新河岸川や荒川、越戸川の河川景観や崖線の斜面林、都市公園や田畑、社寺境内地など、身近なみどりが続く結果となりました。

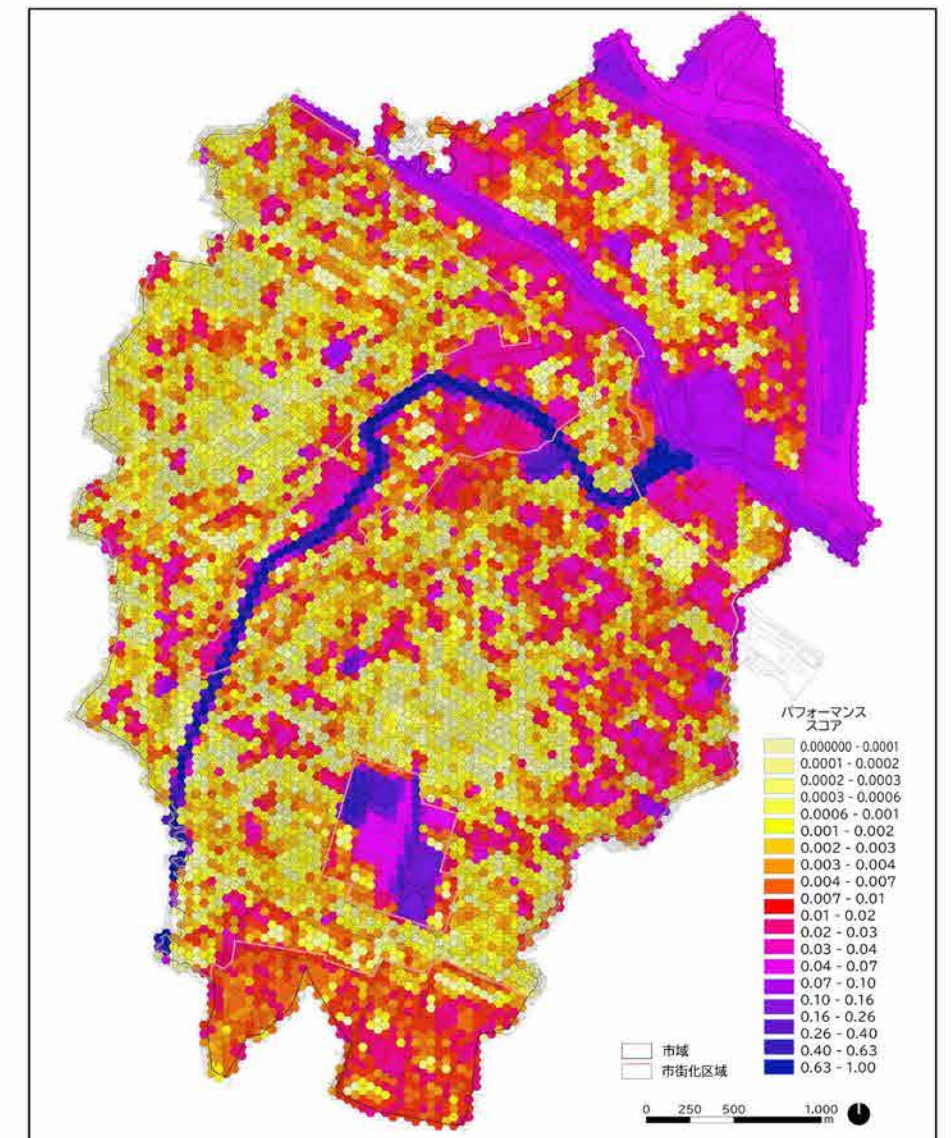


図 景観資源パフォーマンス

6. 農業活動空間パフォーマンス

1) 本市の農地の現状

農地は、食料供給の場として重要な役割を持つほか、良好な景観の形成や雨水の貯留・流出抑制等の防災機能といった多面的な機能を担っており、市民生活にとって重要な役割を果たしています。

一方、朝霞市の農地面積は、都市化の進展に伴い減少傾向にあります。経営耕地面積を見ると、平成 12(2000)年の 21,683a から、令和 2(2020)年の 13,598a へと、約 8,000a 減少しており、畑の減少が顕著です。これは、住宅地等への転用が進んでいることや、農業従事者の高齢化や後継者不足も影響していると考えられます。

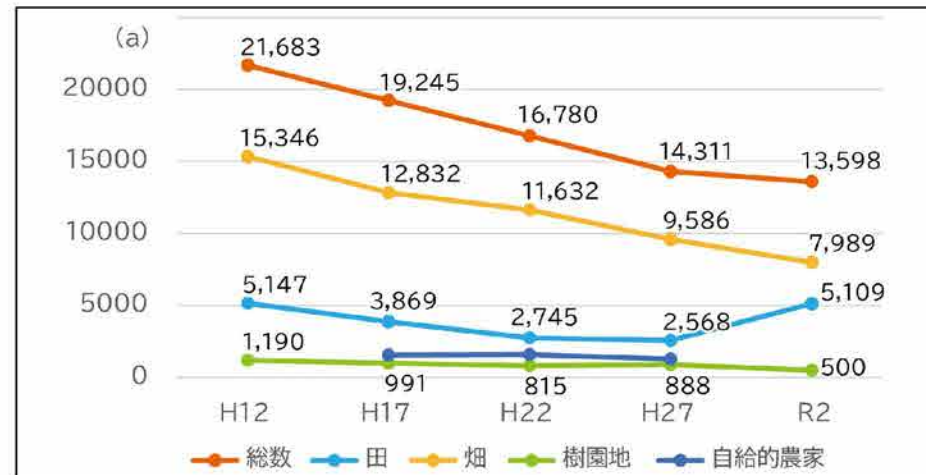


図 経営耕地面積の推移
(農林水産省「農林業センサス」のデータよりグラフを作成)

平成 29 年 9 月に実施された「産業実態に係るアンケート調査」において、未耕作農地の有無について聞いたところ、「ある」が 50.7%、「ない」が 47.8%と概ね半々の割合となりました。

未耕作の理由では、「農業者の高齢化」(55.9%)が最も多く、次いで「労働力が足りないから」(26.5%)、「農地の栽培条件が悪いから」(20.6%)となっており、上位 2 項目が担い手に係る問題でした。また、未耕作農地の今後では、「現状のまま」(58.8%)が最も多く、次いで「農地を貸したい」「農地を売却したい」(各 20.6%)となりました。

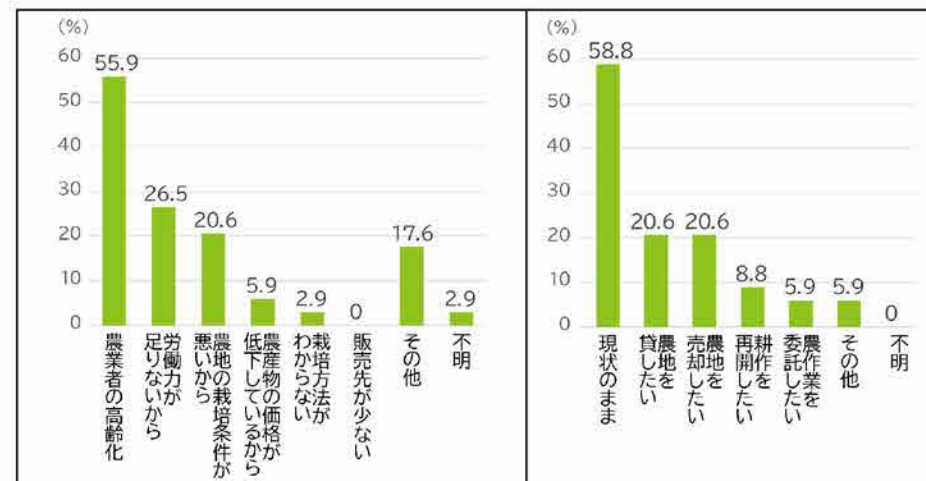


図 未耕作の理由

図 未耕作農地の今後

また、同アンケートにおいて、農業経営上の課題について聞いたところ、主に人材に関する課題が多い結果となりました。

表 農業経営の課題

	合計	農業者の高齢化	後継者の確保・育成	労働力（担い手）の確保・育成	農産物の出荷価格の低下	取引量・売上高の減少	困ったときの相談相手不足／方法不明	技術や市場動向に関する情報不足	多様な顧客ニーズがつかめない	運転資金の確保	その他特にない	不明
全 体	67	56.7	26.9	25.4	17.9	9.0	7.5	4.5	3.0	0.0	14.9	13.4
専業・第1種兼業	14	92.9	50.0	35.7	28.6	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
第2種兼業	12	83.3	33.3	50.0	41.7	16.7	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0
販売していない	28	35.7	10.7	10.7	0.0	0.0	10.7	0.0	3.6	0.0	32.1	21.4

※「産業実態に係るアンケート調査(平成 29 年 9 月)」より作成

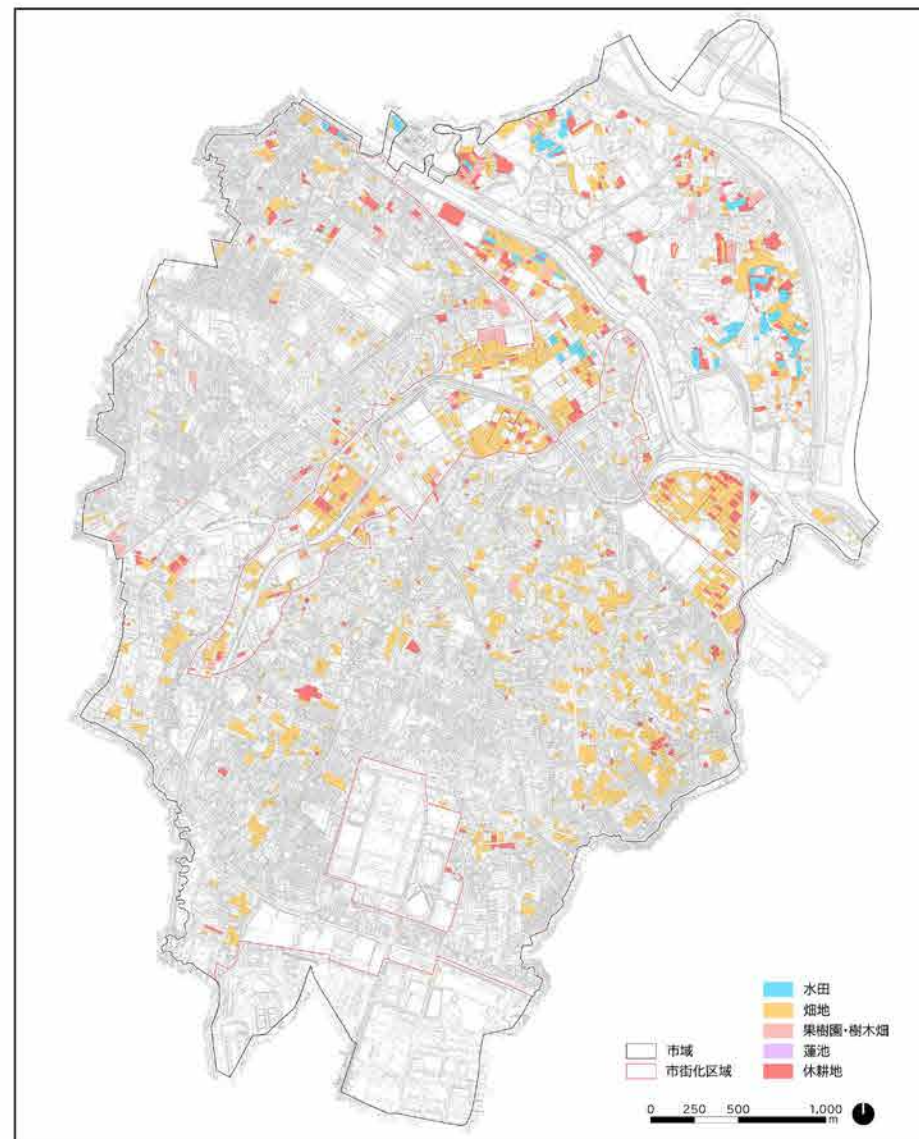


図 耕作農地・休耕農地の分布

※耕作農地や休耕農地の分布は空中写真より判読したため、地目と一致しない場所がある。

2) 農業活動空間の視点による単位空間の得点化

農業活動空間の評価では、近年の農地の減少傾向を踏まえ、現在耕作している農地を保全することを主眼として評価しました。

具体的には、現在耕作している水田、蔬菜畑、果樹園・樹木畑、蓮池に加え、耕作地への復帰が比較的容易と考えられる休耕田や休耕畑の面積を用いて、以下の式により算出しました。

$$\text{評価値} = (\text{耕作地面積} + 0.5 \times \text{休耕地面積}) / \text{評価単位面積}$$

農業活動空間は、市街化調整区域の溝沼、浜崎、岡、田島、根岸、下内間木などに比較的多く分布しており、市街化区域では、根岸台や岡、膝折町、宮戸などに点在して分布しています。

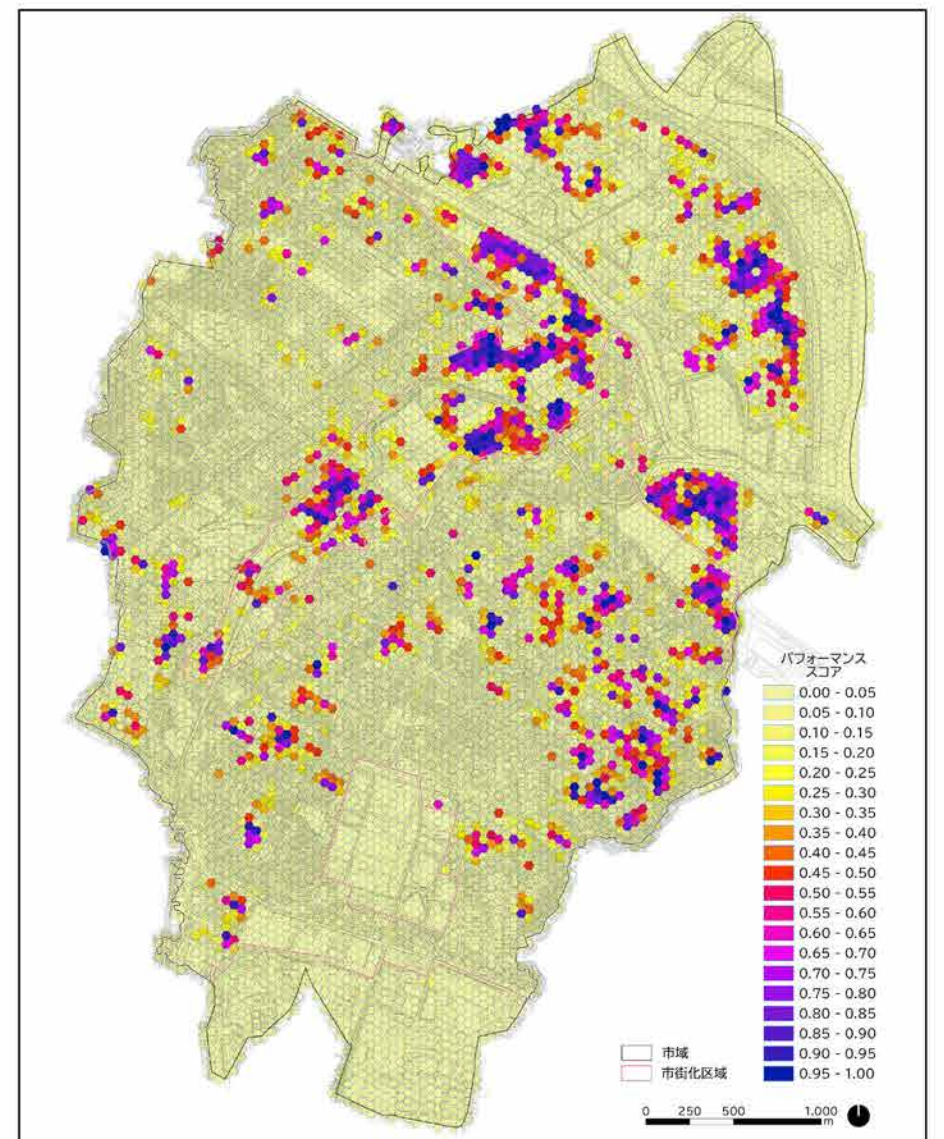
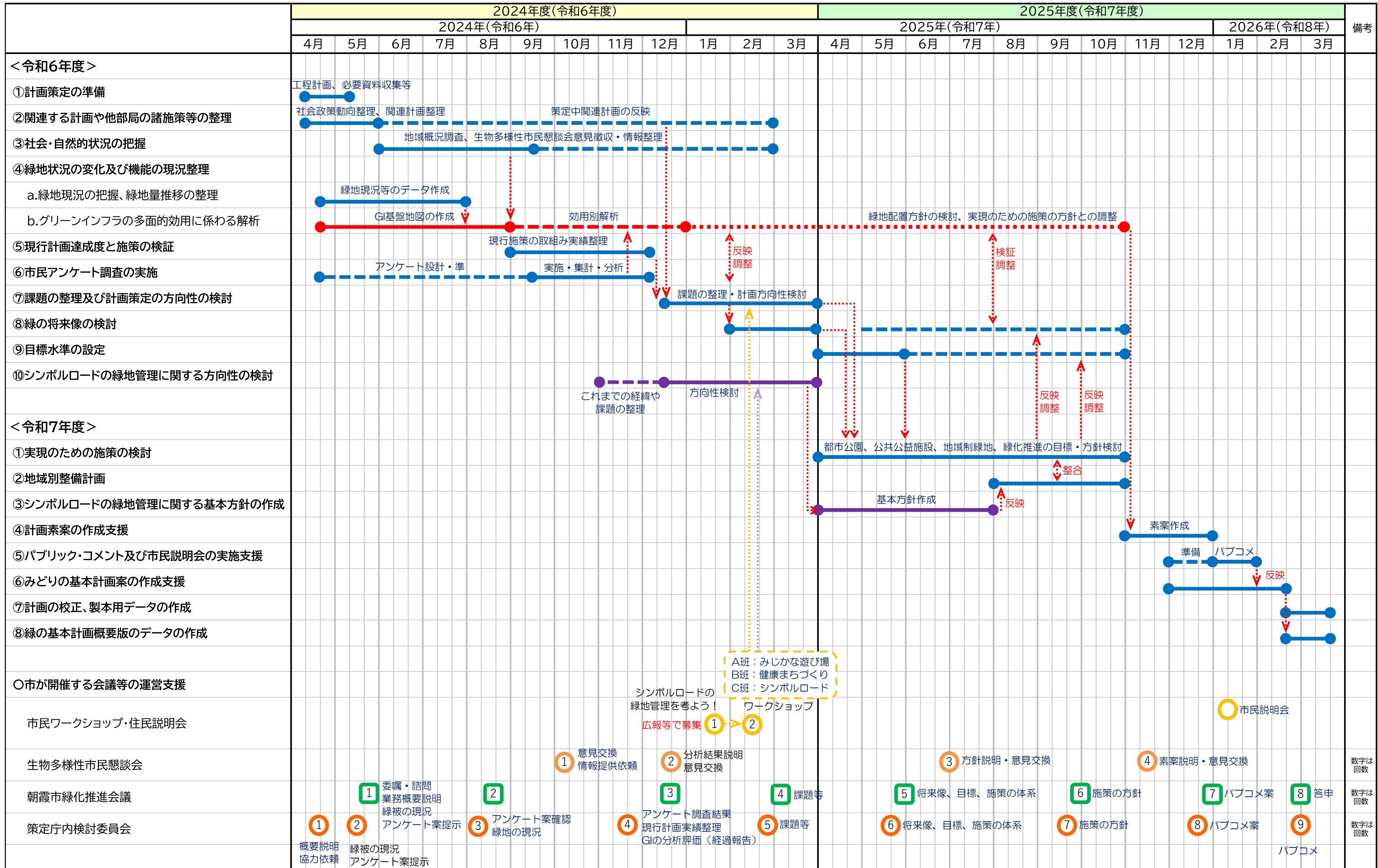


図 農業活動空間パフォーマンス(耕作地率)



第2回朝霞市緑化推進会議の主な意見と対応方針

第2回朝霞市緑化推進会議（令和6年8月20日開催）の審議において意見をいただいた。意見とその対応方針を一覧として整理した。

- （1）市民アンケートの実施について（資料1）
- （2）みどりと緑地の現況（資料2）
- （3）朝霞市グリーンインフラマップ作成経過報告（参考資料2）

	意 見	対応方針等
1	資料1 市民アンケートについて	「みどり」を理解するため、冒頭に説明が欲しい。
2		→アンケート補足資料をアンケートに同封する予定である。
3		アンケート案内文は、中学生でも読みやすくしてほしい。
4		→読みやすい内容であるか再度検討する。
5		お仕事で、「学生」を「生徒・学生」とした方がよい。
6		→修正する。
7		個人情報に気にする人もいるので、注釈で「子育て世代のご意見を把握したいため」等を付けた方がよいのではないかと。
8		→注釈を加える。
9		町丁目を選択する部分で大字〇〇の一部、という表現がわかりにくい。
10		→地図と合わせて見ていただくことで理解できると考えている。
11	資料2 みどりと緑地の現況	問1、問2で魅力に関する設問になっているが、改善についての意見も聞く設問になると良いと思う。
12		→最後の自由意見の欄にご意見として記載してもらえたらと思う。
13		公園の名称は、わからない場合はどうするか。また、具体的な名称の記載がない場合、どのように施策に落とし込むか。
14		→通称や空欄も可とする。町丁目別のクロス集計も成果ととらえている。
15		問5のf 「繁茂」という言葉は難しい。
16		→「生い茂っている」に修正する。
17		問7の全ての項目で、参加という言葉で良いのか。
18		→「参加経験や取り組んでいる活動」に修正する。
19		問8 見学や出演以外も参加になるのか。
20		→「参加したり、足を運んだり」に修正する。
21		P11 の表と文章の年度や数値が異なる。統一した方がよい。
22		→修正する。
23		P12 「現行計画における都市公園等の目標面積と現況値」のみどりの目標値は何
24		→現行のみどりの基本計画は、平成28年度3月から令和7年度末まで

		年計画か。また、現実的か。	の計画期間である。後 1 年で目標値を達成することは難しいと考えている。
13		行政が管理しているみどりは達成、民間のみどりが未達成という理解でよいか。	→「みどり」の中に「緑地」と「その他」があり、永続性が担保されている「緑地」は、みどりを維持しているが、法がかからない「その他」で、みどりが減少している。
14		「その他」のみどりを増やせば良いと思う。	→民有地に関する市の取り組みについては、議論が必要と考える。農業の担い手などの問題に対応することも重要である。
15		P12「現行計画における都市公園等の目標面積と現況値」の数値には、繁茂している雑草や樹木、植樹された樹木も含まれているか。	→空中写真により樹木や草地として判読されたものは、今回の緑被率に含まれている。植樹かどうかという点は把握していない。
16		緑地の現況に関して、基地跡地の方向性の影響が今後大きいと思う。	→今後主な部分は都市公園となる計画であるが、1/3 の負担で買い取る必要がある。市議会での議論等を踏まえ、必要な情報提供をし、今後皆さんと議論していきたい。
17	参考資料 2 朝霞市グリーンインフラマップ作成経過報告	のデータは、最終的にデジタルでデータは保存されて、解析ができるようになるのか。	→地理情報システム (GIS) のデータとして作成する。
18		みどりの質の確保ということで、とても良いと思う。この地図は、高低差も見ることが可能か。	→高低差も格納できる。
19		みどりの今の評価と 10 年後の評価が違おうと思う。経年変化があることを踏まえてどのように評価するか。 また、民間の建物や個人の庭が緑地化したらどうなるか、という評価には使うことが可能か。	→まずは現時点の評価を行う。次段階として施策事業や民間の開発事業によるシナリオのもと評価を行うことが考えられる。
20		朝霞市 G I マップは、朝霞市が先進的に取り組んでいることなのか。もっと広域で分析した方がよいのではないか。	→グリーンインフラの視点による客観的な分析を行いたいと考えている。分析の内容により市域外まで含めて分析する必要があるが、どこまで領域を広げるか、予算や計算能力、領域の考え方など総合的に考えて検討している。
21		黒目川に関して重点地区との記載があるので、もう少し管理して頂きたい。	→河川を管理している埼玉県と連携しながら対応したいと考えている。
22		河川については、生物多様性という視点では舗装しない方がよい。人にとって心	→今後の整備における参考としたい。

		地よいみどりと生物にとって心地よいみどりにズレがあることを認識した上で、みどりについて議論したい。草刈りについては、頻度を上げれば生物も多様になる。	
23		現在、埼玉県では、みどりのトラスト運動を行っているが、朝霞市の緑化推進と関連するものはあるのか。	→市もみどりの保全のために土地を取得する際に、国の補助制度を必要に応じて活用することもある。みどりの基本計画の中ですぐに検討できるかどうかは、未定であるが、しっかりと議論していきたい。

第2回 朝霞市緑化推進会議 議事録 要点記録

日 時：令和6年8月20日（火） 14時00分～16時00分

場 所：朝霞市役所 別館5階 大会議室

出席者：高堀委員、増田委員、古賀会長、堂本副会長、鈴木（勝浩）委員、鈴木（香織）委員、大橋委員、
渡辺委員、藤井委員、森委員、柴野委員、山本委員、田島委員、大貫委員

欠席：本多委員、高橋委員

1 開 会

事務局 （開会の言葉、連絡事項）

- ・参加者は、16名中14名であり、朝霞市緑化推進施行規則第12条に定める開催定足数に満たしている。

2 挨 拶

古賀会長 （挨拶）

- ・暑さに負けない、熱い議論をお願いしたい。
- ・次第に従い、会議を進行していく。

古賀会長 ・この会議は原則公開の立場を取っているため、傍聴希望者がいる場合は、傍聴可能としている。事務局の方、傍聴者の確認をお願いする。

事務局 ・本日の傍聴希望者は0人である。

古賀会長 ・途中で傍聴希望者が現れた場合は、委員の了承なく傍聴していただく。

古賀会長 ・事務局より資料の確認をお願いする。

事務局 （事務局より、資料の確認）

3 議 題

- 古賀会長
- ・次第に従い会議を進める。
 - ・本日の議題は、(1) 市民アンケートの実施について、(2) みどりと緑地の現況について、である。
 - ・みどりの基本計画の策定に向けて、市民ニーズの把握や課題の整理など、朝霞市

のみどりの緑政を把握するための大切な議論となるので、活発な議論をお願いしたい。

- ・(1)市民アンケートの実施については、継続審議になっている。本日は、アンケートの実施案について固めていきたい。
- ・まずは、事務局より「資料1 アンケートの実施について」の説明をお願いしたい。「参考資料3 第1回緑化推進会議及び質問票の主な意見と対応方針」については、適宜説明をお願いする。

事務局

(事務局より[資料1 市民アンケート調査の実施について]を説明)

- ・前回に開催した緑化審議会での審議内容や後日提出していただいた質問票を整理し、内容を修正したものを8月6日に開催した庁内検討会議へ提出し、審議を経て、本日も審議いただくものである。また、前回の審議内容および質問票の対応方針をまとめた資料についても合わせて説明する。

事務局

- ・修正部分について説明する。
- ・目的については、簡潔にわかりやすく修正している。
- ・2 調査方法については、アンケート対象を13歳以上に変更した。参考資料 No14 を踏まえて変更した。
- ・P2 (3)設問構成と分析目的、前回資料案からの修正内容を記載している。
- ・P3 ご記入にあたっての中に、中学生も対象としたことから、「回答が難しい場合は、ご家族に相談しながらご記入をお願いいたします。」を追加した。
- ・P4 (4)として子育て世代を把握するための設問を新たに設置し、性別の設問は省くことにした。参考資料 No22, 23, 25 にもあるように緑化推進会議や庁内会議での意見を踏まえて対応した。
- ・P4 (2)のお仕事についての設問は、細分化した。
- ・P5 お住まいの地域については、番号制の選択に変更している。
- ・P6 問1と問2については質問内容を修正し、現在のP6にある新たな問1「朝霞市の「みどり」に対するあなたの満足度についてお答えください」に修正した。朝霞市のみどりの満足度を評価軸とした質問に修正している。参考資料 No29 が関連している。前回、問9の質問については、回答が難しいという意見があったため、廃止とした。
- ・P7 前回の問3を問2に修正している。目的は、朝霞市のみどり資源を抽出するために設問を設定した。
- ・P7 問3は、前回の緑化推進会議のご意見を踏まえて追加している。参考資料 No43 が関連している。目的は、市民が残していきたいみどりを抽出し、保全する場所を抽出するための設問を設定した。
- ・P7 前回の問5を問4に修正している。目的は、都市公園の魅力向上のため、設問を設定した。
- ・P8 前回の問6を問5に修正している。目的は、都市公園の魅力向上のため、設問を設定した。
- ・P9 前回の問4から問6に変更している。選択項目は、前回の緑化推進会議における意見や近年の施策内容を踏まえて、見直しをしている。参考資料 No30～36 が

関連している。目的は、今後の都市緑化施策や、施策の優先度を把握するために設定している。

- ・ P10 設問を問 7-1 と 7-2 と新たに設定した。7-1 の目的は、市民による緑化活動や緑地保全活動の参加経験と今後の参加意思の有無を把握するため設定した。7-2 の目的は、参加をしない理由を把握するために設定した。
- ・ P11 問 8 は、修正はない。目的は、イベントへの参加状況を把握するために設定している。参考資料 No37-39 が関連している。
- ・ P11 問 9 は、設問番号のみ修正している。選択項目 10 を追加している。目的は、グリーンインフラの機能の認知度を把握するため、また、グリーンインフラの普及を目的としている。参考資料 No40 が関連している。
- ・ P12 問 10 は、設問番号のみ修正している。また、総額を 100 円から 1000 円に変更している。設問 9 で追加した「賑わいや交流の場を演出する機能」を追加している。目的はみどりの効用別解析評価の総合評価にかかわるため、設定している。参考資料 No41 が関連している。
- ・「最後に朝霞市のみどりづくりについて、アイデアやご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。」という設問は、緑化推進会議でのご意見を踏まえて文言の修正をしている。参考資料 No42 が関連している。
- ・本日のアンケート実施案についてご承認いただければ、作業を進めていきたいと考えている。

古賀会長

- ・前回の緑化推進会議にアンケートのたたき台として提出され、委員の皆様からご意見や質問等をいただき、事務局において内容を修正後、庁内検討委員会での議論を経て、本日実施(案)として改めて提出いただいたものである。
- ・アンケートの内容の確認や修正等、何かご意見、ご質問はあるか。

大貫委員

- ・全体的に公園に関わる設問が多い。市民の方が、「みどり」を理解しないまま、アンケートに答えることになってしまうのではないか。冒頭で「みどり」の説明があった方がよい。

事務局

- ・前回、庁内委員会においても、「みどり」に関する質問が出たので、アンケートの補足資料をアンケートと一緒に同封する予定にしている。中学生でも理解できる内容としている。これを見ていただいて、アンケートに答えていただければと考えている。

田島委員

- ・まずは、会議に関しての質問が 2 点ある。1 点目は、傍聴について、本日の傍聴の方いないということこと、これまで傍聴が可能ということを知らなかったもので、傍聴に関して、どのような広報をしているのか知りたい。2 点目は、既に庁内委員会で検討されたということだが、本日の意見を踏まえての修正は可能か知りたい。
- ・次にアンケートに関しての質問は多数ある。
- ・13 歳以上とあるが、アンケートの案内分の文章が固いのではないか。
- ・(4) 4 番 個人情報と気にする人もいるので、注釈で「子育て世代のご意見を把握したいため」等を付けた方がよいのではないか。
- ・P5 (5)町丁目を選択する部分で大字〇〇の一部、という表現がわかりにくい。住んでいる方はわかるのか。

- ・P7 問 4 回答を縦に並べた方が回答しやすいのではないか。
- ・P8 問 5 近くに公園はあるが、名称がわからない。皆わかるのか。地名等を記載するようにする等検討した方がよいのではないか。
- ・P8 問 5 の f 雑草が繁茂するため、という言葉は難しい。
- ・P10 問 7 の a や i の項目は、参加という言葉で良いのか。また、注釈が一番下にあるが、7-1 のすぐ下にある方がわかりやすいのではないか。
- ・P11 問 8 見学したことも参加になるのか。出演しないと参加にならないのか。答えにくいのではないか。

事務局

- ・傍聴に関しては、市の HP の市の審議会等会議の公開というページで、会議一覧を掲載している他、市役所別館の 4 F に開催案内を掲載している。ご興味のある方は、そこを確認して傍聴している。
- ・庁内委員会を既に実施しているが、本日の意見を踏まえて、修正をすることは可能である。事務局としては実施案としてまとめて行きたいので、方向性の大きな変更は難しい。
- ・和暦と西暦については、反映する。
- ・P4 については、個人情報には当たらないと考えているが、一度事務局で検討する。
- ・P5 については、実際にエリアが跨っている地域があるが、住んでいる方は理解しているため、色分けする形で分かりやすい形となっていると考えている。
- ・P7 問 4 については、縦表記に修正する。
- ・P8 問 5 の公園の表記については、公園名がわからない方については、通称で記載していただいても、空欄にしていいただいても良いと考えている。
- ・P8 問 5 の f については、雑草が生い茂っているというようなわかりやすい表記に修正する。
- ・P10 問 5 の参加という言葉については、内容を精査する。
- ・P10 問 7 の注釈は、7-1 の下に修正する。
- ・P11 問 8 の参加の定義については、食べ物を買うだけでも見学でも参加と考えている。わかりやすく注釈をつけることを検討する。

鈴木(勝浩)委員

- (4) 4 の子どもの年齢については、どのような考え方で、定義しているのかを知りたい。遊具という点で考えると、乳児、幼児、小学生、中学生以上と遊び方が異なるので、そのようなことを踏まえて、今後の教育等を考えていく場合、年齢層を変えてもいいのではないかと思います。
- ・問 9、問 10 の選択肢について、アンケート結果は、最終的にアンケート補足資料のイメージ図にあるような項目に、施策として落とし込まれると思うので、どのような施策に反映されるか、ということを考えた上で、問 9、問 10 の項目の文言等を見直しても良いと思う。
- ・問 5 公園名称についてだが、個々の公園の状況を把握して、施策に落とし込まれると思うが、具体的な名称でなくても良いという場合、どのように施策に落とし込む予定なのか知りたい。また、場合により、何丁目にある公園か、という質

問でもよいのではと思う。

- 事務局
- ・P4 子育て世代のニーズを把握する目的で設定しているが、ご意見としては、もう少し細かく子どもの年齢を分けた方が良いということか。
- 鈴木（勝浩）委員
- ・遊具の対象年齢というものがあるので、幼稚園に上がる前までの年齢層を追加する等、対象年齢に合わせて年齢層を分けた方が良いのではないか。他の公園アンケートの事例を見ていただくと参考になる。
- 事務局
- ・趣旨としては同じであるが、もう少し小さい年齢層を追加した方が良いという話だと思うので、対象の遊具などを考えた上で、検討したいと思う。
 - ・問 9、問 10 についてもご指摘の通りであると思う。これからの緑地公園行政は、市民の考えも踏まえながら、予算計上にあたってはしっかりと優先順位を考えていかなければと考えている。項目の内容については、精査する。
 - ・問 5 については、近くの公園という言葉の捉え方が、近所の公園をイメージする方と広域の公園をイメージする方と様々だと思う。地域ごとの一覧表を付けることも可能ではあるが、捉え方の差がアンケート結果に出てくるともアンケートの成果と考えている。今一度検討する。
- 増田委員
- ・問 1 で魅力についての設問、問 2 で、どんなところが魅力かという設問になっているが、魅力と思わない意見もあると思う。駅前のムクドリの被害、毛虫の被害、畑の土埃の被害、自然豊かで良いと思われるところにも被害がある。豪雨の後、公園の近くで、公園から土が流れでるという被害も最近あった。改善の余地があるような意見も聞けるような設問になると良いと思う。
- 事務局
- ・豪雨の話も出たが、公園は土が流れたりする一方で、みどりには保水機能もある。悪い面も良い面がある。全てに対応することは難しい。例の一つに課題となるものも入れることは可能だが、最後の自由意見の欄にご意見として記載してもらえたらと思う。
- 渡辺委員
- ・P4 のお仕事のところで、前回より職業を細分化したと思うが、前は生徒・学生であったところが、学生となっているので、生徒・学生とした方が良いと思う。
- 事務局
- ・修正する。
- 古賀会長
- ・資料 1 の市民アンケートについては、事務局で内容を修正していただき、修正内容の確認については、会長の古賀が行う。確認後、委員の皆様にも事務局から資料を送付し、アンケート実施案として決定させていただく。それで良いか。
- 一同
- (合意)
- 古賀会長
- ・議題 2 「みどりと緑地の現況について」を審議する。資料 2 について事務局から説明をお願いします。参考資料 1 についても適宜説明をお願いします。
- 事務局
- (事務局より[資料 2 みどりと緑地の現況について]を説明)
- ・これまでの説明と重複するが、わかりにくい部分であるので、再度説明する。
 - ・朝霞市のみどりは何か、緑とみどりの違いはなにか、現在の朝霞市のみどりの現況はどのようなになっているか、これらを再度認識していただく資料となっている。また、最後には、現行の目標達成状況が掲載されている。
 - ・P1 本計画における「みどり」は、「緑地」と「その他」を含めた総量となっている

る。

- ・P2 平成 30 年から令和 5 年まで 1.3%減少している。それは、人口の増加や都市化が進んだことも大きな要因と考えている。
- ・P3 農地が最も面積が大きい、緑被面積の減少率も大きいのも農地である。また、緑被面積が一部増加しているが、それは樹木が成長して繁茂していることから、上からの投影面積が増えていることが要因と考えている。
- ・P4 緑被地の分布の図を見てもらうと、みどりが残っている部分もあるが、減っている部分もあることが把握できると思う。
- ・P5 現在、市が管理している都市公園の一覧であり、公園は 44 箇所ある。今後、宮戸 2 丁目公園の整備が完成する予定であり、一覧に追加される。内間木公園についても拡張整備の位置づけがあるので、今後面積が増える予定である。
- ・P6 児童遊園地の整備状況の一覧であり、83 か所管理している。一部、地主さんへの返還が想定されているため、返還された場合は、適宜削除する。
- ・P7 市民農園については、現時点では J Aが行っているものはない。市が借り上げている農地も 6 つの中に含まれている。
- ・P7、P8 「街路樹、公的レクリエーション施設及び公共的施設の緑被地」、「民間施設緑地の緑地地」については、令和 5 年度の緑被率経年変化調査の結果を用いている。

古賀会長

- ・資料 2 について事務局から説明があったが、このみどりと緑地の現況については、みどりの基本計画を策定していく上で、今後の課題抽出や施策の検討にあたり、基礎資料となるものである。資料の内容等について、不明点や修正点、ご意見、ご質問はあるか。

大橋委員

- ・最後のみどりの目標値について、何年計画なのか。また、現実的なものなのか知りたい。

事務局

- ・現行のみどりの基本計画で定めているものであり、平成 28 年度 3 月から令和 7 年度末までの目標値である。平成 37 年度というのは、現時点での面積であり、後 1 年で目標値を達成することは難しいと思う。今後の目標値について、皆さんとの議論を踏まえて検討したい。

田島委員

- ・P12 の現行計画目標値の表において、平成 37 年度とあるが、平成 37 年度という表記は、前に作られたということで、このような表記なのか。

事務局

- ・現行のみどりの基本計画において平成 37 年度と記載されているので、同じ表記にしているが、令和 7 年度の方がわかりやすいのであれば、修正する。

田島委員

- ・令和の表記の方がわかりやすい。

事務局

- ・承知した。

田島委員

- ・市街化区域と市街化調整区域はどういうところか説明いただきたい。

事務局

- ・朝霞市でいうと、市街化区域は、何丁目という地域であり、上内間木地区や下内間木地区や大字の地域等が、市街化調整区域である。市街化区域と市街化調整区域を合わせたものが市域である。

- 奥田みどり公園課長 ・市街化調整区域は、建物を建てるのを抑制している場所であり、あまり建物は建
てないでください、とお願いしている地域である。一方、開発しても良い場所と
しているのが市街化区域である。そして、その二つを足すと市域となる。
- 田島委員 ・P8 の市街化区域と市街化調整区域の人口について、疑問であった。
- 事務局 ・P8 の表を見ていただくと、市域の人口と市街化区域の人口の差が市街化調整区
域の人口となる。
- 大貫委員 ・現行計画に対する達成度については、行政が管理しているみどりは、主に達成で
きているが、民間のみどりの達成ができていないという理解でよいのか。
- 事務局 ・「みどり」の中に「緑地」と「その他」とわかれていると思うが、永続性が担保さ
れている「緑地」については、みどりを維持することができているが、法がかか
らない「その他」の部分で、みどりが減少しているのではという認識である。
- 藤井委員 ・P12「現行計画における都市公園等の目標面積と現況値」の表で、公共施設緑地
の 1 人当たりの面積（㎡/人）や面積(ha)の値が目標を達成する値となっている
が、雑草が茂っているところや樹木が繁茂して計測された面積も含まれるのか。
また、植樹しているということも把握しているのか。
- 事務局 ・雑草も含めて計測しているか、という点は、撮影の際に繁茂していて、赤外線カ
メラで投影されたものは、今回の緑被率に含まれている。植樹しているかどうか、
樹木が繁茂しているかどうか、という点は把握していない。
- 藤井委員 ・P4 の図「緑被地の分布」の色がわかりにくい。公共的施設以外の樹林樹木と公
的施設の草地の色の区別がつかない。
- 事務局 ・冊子の方ではもう少し見やすいが、カラー印刷の関係で見えにくい。今後検討す
る。
- 鈴木(勝浩)委員 ・P11 の表の年度が令和 6 年度であるが、文章中では、令和 5 年度となっており、
混在しているので統一した方がよい。また、数値も異なる。
- 事務局 ・P11 については、修正できるものは、表記を統一する等の修正を行う。
- 堂本副会長 ・緑地の現況についてであるが、朝霞の基地の跡地の方向性の影響が今後大きいと
思うので、この話の資料がないと、踏み込んだ議論ができないのではないかと思
う。
- 事務局 ・実際はまだ国の土地であるが、市の大切な財産といっても良い場所である。シン
ボルロードの 30m については、2020 年に道路として供用を開始し、国から無償
で移管されている。今後、主な部分は、都市公園となる計画である。しかし、1/3
を買い取らないといけないことになっており、100 億円を超えることもあり、今
はその計画が止まっているというのが実状である。市議会での議論等も踏まえ
て、必要な情報提供をし、今後皆さんと議論していきたい。
- 柴野委員 ・この委員会が、みどりを増やそうという話であれば、「その他」の部分のみどりを
増やして行こうということで答えが出ているように思う。今後、緑地に含まれな
い「みどり」に絞って話を進めていけばよいのではないのか。
- ・朝霞市の農地についてだが、水耕栽培は、ビニールハウスの中で行うと思うが、
それもみどりとして算出されるのか。

- 事務局
- ・大きな質問をいただいた。大事な課題である。国の 30by30 は、30%のみどりの担保を目指しているが、それは市が管理する土地だけでは到底担保できない。民有地に関しては、今度のみどりの基本計画でも市がどういう取り組みを行っていくのか、という議論をしっかりとしないといけない。例えば、開発する際には、今より広い面積でみどりを担保してもらおう等、検討しないといけないと考えている。市が管理している「緑地」に関しては、児童遊園地で市民から借りている土地は、借地の返却により減る可能性もあるが、それ以外は、あまり減少しない。しかし、農地の減少に関しては、開発需要のほかに、担い手不足の関係で農地を適切に維持することが困難となり手放す人も多い。担い手などの問題に対応することが重要である。
 - ・また、工場の中での水耕栽培については、土地に工場等の建築物を建てる場合は、農地ではなくなり、農地台帳から削除され、農地扱いにはならず宅地扱いということになる。農地には、農業に必要な建築物や農業用のビニールハウスを建てることは可能である。しかし、宅地等、農地以外の土地を農地にする場合は、農地として耕さないと農地台帳に載らないので、宅地等の農地以外の土地に農業用のビニールハウスを建てる場合は、原則宅地扱いとなる。
- 古賀会長
- ・みどりと緑地の現況については、本日の審議会での議論を踏まえ、必要に応じて、資料等の修正を事務局にお願いする。
 - ・続いて、参考資料 2 グリーンインフラマップ作成経過報告について、説明をお願いします。
- 事務局
- (事務局より[参考資料 2 朝霞市グリーンインフラマップ作成経過報告]を説明)
- ・今年度朝霞市のみどりの評価を行うにあたり、地図を作成している。理由は、ネイチャーポジティブ等の社会潮流から、緑地保全・都市緑地政策の着実な推進が求められている、ということがある。これまでは定性的評価にとどまっていたが、今後はより緑地政策検討における根拠を強化する必要があるということから、本業務において、分析のための基盤地図として、グリーンインフラマップを作成している。
 - ・緑地の図との違いは、みどり以外も情報が入っているということである。例えば、道路や住宅の庭も分類し表示している。朝霞市全域を対象としている。
 - ・凡例 101 湿田は田んぼ。
 - ・凡例 311 中～乾性立地の落葉樹二次林は、武蔵野の雑木林（コナラやクヌギ）
 - ・凡例 316 崩落地の落葉樹林は、崖地で崩れやすいところに立地し、主にムクノキ
 - ・凡例 321 中～乾性立地の管理放棄地型の草原は、管理をしなくなると、この地域では、アズマネザサが繁茂してくる。
 - ・このように樹林や草原を分類することで、生物多様性の解析が可能となる。
 - ・都市部についても、凡例 511 アスファルト舗装や凡例 512 浸透性舗装等を分類していることから、地面に浸透するスピードを解析することができ、湧水の解析も可能となる。
 - ・次回は、グリーンインフラマップの解析の結果を報告する予定である。
- 古賀会長
- ・説明があったように、グリーンインフラの多面的効用に係る解析を現在進めている。次回の緑化推進会議には、グリーンインフラマップとして、まと

めていただき提出いただけるとのことである。

- ・今の時点で、ご不明点やお聞きしたいこと等、何か質問等はあるか。

大貫委員

- ・このデータは、最終的にデジタルでデータは保存されて、解析ができるようになるのか。

事務局

- ・デジタル化され地理情報システム（GIS）のデータとして作成する。

増田委員

- ・みどりの質の確保ということで、とても良いと思う。この地図は、高低差も見ることが可能か。

事務局

- ・高低差も格納できる。勾配（高さ）急斜面かどうかもある。尾根か谷か、斜面かという情報は、地形が成す環境（乾燥の有無等）の把握ができ、生物の立地条件として大事なので、情報として格納する予定である。

古賀会長

- ・凡例 524 特殊緑化（人口芝）、凡例 525 特殊緑化（ダスト舗装）という表記が気になる。

事務局

- ・朝霞市に存在したため、特殊緑化という項目を作成した。人工地盤上に作成するものは、特殊緑化という分類としている。

堂本副会長

- ・地図から、朝霞の場合は、水系が重要であると読み取れる。現状、樹林地が少ないが、10年20年たつと、樹林化が進む可能性がある。今の評価と10年後の評価が違おうと思うが、そのような経年変化があることを踏まえて、今はどのように評価するか。

事務局

- ・今、考えているのは、現時点の評価を行う。生物の生息環境については、時間軸も大事であると考えている。生物生息環境については、管理か放置か等の取りくみの違いによっても、影響がある。今後、次の段階で、時間軸を取り入れられたらよいと思う。

堂本副会長

- ・民間のみどりの取り組みが重要という話が出ているが、民間の建物や個人の庭が緑地化したらどうなるか、という評価には使うことが可能か。

事務局

- ・使いたいと考えている。ヒートアイランド現象の緩和にも活用したいと考えている。どのみどりがどれくらい覆っているかという情報と、地表面温度の情報を統計で結びつけることができる。その結果、みどりの分布状況から、地表面温度を算出することが可能となる。どれくらい緑地を増やすことでどれくらい温度が下がるかなど、シミュレーションできる。未来予測、シナリオ評価をしたいと考えている。

古賀会長

- ・その他、質疑はないようなので、次第の3、その他について事務局から何か連絡事項はあるか。

その他 連絡事項について

事務局

- ・次回の緑化推進会議については、12月19日木曜日 午後からを予定している。第2回緑化推進会議に関する質問票を配っているので、何かお気付きの点や資料修正等のご意見やご質問があれば、質問票に記載して、期日までに送付をお願いしたい。

田島委員

- ・朝霞市G I マップは、朝霞市が先進的に取り組んでいることなのか。もっと広域で分析した方がよいのではないかと思うがどうか。他の市町村で取り組んでいる事例はあるか。
- ・「第1回緑化推進会議及び質問票の主な意見と対応方針」のP8の対応方針等に、「黒目川は朝霞市を代表する景観資源であり、黒目川沿川の中心地区を景観づくりの重点地区に指定し、水とみどりの景観を守り、次世代に継承するとおもに人々が散策や川遊びなどを通して水とみどりに身近に親しむ景観づくりを推進しております」と記載しているが、草刈りの頻度が減り、草が生い茂っている。もう少し管理していただきたい。
- ・現在、埼玉県では、みどりのトラスト運動を行っているが、朝霞市の緑化推進と関連するものはあるのか。

事務局

- ・G I マップの地下水流動は、広域的に分析した方が良いのかという話であるが、朝霞市だけで分析しても意味がないのではないかと、というご指摘は、大事なところである。地下水は、地下で繋がっており、朝霞市で切れているものではない。朝霞市の外側の領域まで、正確に分析しないといけないと考えている。どこまで領域を広げるか、予算や計算能力、領域の考え方など総合的に考えて検討している。
- ・埼玉県のシミュレーションと朝霞市のシミュレーションの分析では、精度が異なるので、朝霞市でシミュレーションを行う意義はあると考えている。
- ・黒目川に関しては、朝霞市の代表する資源という認識はしているが、砂利や舗装の問題があることも把握している。河川を管理している埼玉県と連携しながら、使いやすさ等も考え、除草等を進めていきたいと考えている。もし、気になる時は、市にご連絡いただければ、県に伝える等対応する。
- ・トラストは、民間の企業や個人がみどりを保全するために活用しているものであるが、市もみどりの保全のために土地を取得する際に、国交省の制度を必要に応じて利用することもある。埼玉県でこのような活動をしているということを広報することもある。みどりの基本計画の中ですぐに検討できるかどうかは、未定であるが、まずは、こちらをしっかりと議論していきたいと思う。

堂本副委員長

- ・先ほどの河川の舗装の話であるが、色んな考え方があるということを知ってほしい。人は舗装して欲しいと考えるが、生物多様性という視点では、舗装しない方がよい。人にとって心地よいみどりと生物にとって心地よいみどりにズレがあることを認識した上で、みどりについて、このような場で議論したい。
- ・草刈りに関しては、河川沿いの草は外来種が多いので、除草してもらおうと在来の野草はうまく生育するので、予算があれば、もっと頻度高く草刈りをしてほしい。そこに昆虫や生物の種類がかわってくる。トラストという話が出てきたが、そういうことを市民の方がどう理解するか、市民がどれだけお金を出すことができるのか、ということも大事である。アンケートの間10の結果が興味深い。みどりと生き物は、ギクシャクする部分があることを知った上で真摯な議論ができればよいと考えている。

鈴木（勝浩）委員

- ・目黒川は、管理しているのは県の事務所であるが、県内の河川の草刈りは年2回としている中、黒目川は年3回行っている。子どもたちが水遊びしている、利用がされている川ということで、他の河川より1回多く草刈りはしているので、ご理解いただきたい。
- ・歩きやすさを求める声もあるが、色々な視点から考えて、舗装の判断をしている。

堤防強化という点では、堤防を強化するため、柳瀬川では舗装をしているが、黒目川は掘り込み式なので、そこまで強化する必要がなく、舗装部分は少ない。今後ご意見をいただければと思う。

- 大貫委員
- ・埼玉県は、市民ともっと向き合っていただきたい。事務所に草刈りのお願いをしても実施していただけない。河川の歩道の草は人が通れない程になっている。草刈りの要望に対して、草刈りがすぐにできない理由や実施予定などの返事をお願いしたい。まずは安心安全を第一に考えていただきたい。
- 藤井委員
- ・川沿いの舗装については、砂利道は歩きにくい、生物にとってはアスファルトではない方がよいという話もある。治水という点でも、アスファルトが増えると、豪雨の際に水が溢れてしまうところが増えていくので、砂利道等、水が浸透していく場所を残した方がよいと思う。しかし、川沿いは埼玉県の管理なので、県の方とも一緒に考えていく必要があると思う。
- 田島委員
- ・砂利道は、自転車や小さい子どもが怪我をするという問題もあるので、水を吸い込む素材を検討してもらえればと思う。黒目川の草刈りは年 3 回ということだが、以前はもっと多かった。今は草が繁茂していてすれ違うのも大変である。予算もかかるので、ボランティアを募る等、方法を考えてもらいたい。
- 古賀会長
- ・次回はグリーンインフラマップが出てくると思うが、本日の議題であった市民アンケートの方針やみどりの現況と密接に関係してくると思う。これらは、基礎資料として、今後朝霞市にとって大事な資料となるので、次回の会議もご協力をお願いしたい。

5 閉 会

- 事務局
- ・以上を持って、令和 6 年度第 2 回朝霞市緑化推進会議を閉会する。
- (閉会)

第1回 生物多様性市民懇談会 議事録 要点記録

日 時：令和6年10月7日（火） 14時00分～16時00分

場 所：リサイクルプラザ 大会議室

出席者：堂本座長、朝霞環境市民会議 松永様、朝霞基地跡の自然を守る会 大野様、朝霞湿性植物保護の会 田ノ岡様、黒目川に親しむ会 藤井様、埼玉県生態系保護協会朝霞支部 富永様、わくわく新河岸川みどりの会 山本様、奥田課長

欠席：秋ヶ瀬野鳥クラブ 田中様

【資料1 概要の説明】

（アンケートについて）

- ・どのようなアンケートか。回収率はどれくらいか。（委員）
→ WEB での回答も取り入れているので、3 割以上は回収したい。（事務局）

（緑被率や緑化面積について）

- ・農地が減少しているが、法律の問題で農地を維持できない人もいる。法律を変えるのは難しいが、行政で支援してほしい。生物多様性にも大事である。（委員）
→ 緑化推進会議でも重要なテーマとなっている。地権者の方も「農地の担い手がない」、「営農が厳しい」と話している。（事務局）
- ・生き物のねぐらを創ることと人のねぐらを創ることはどちらも大事であるが、理解してもらえない。（委員）
→ 緑化推進会議では、農業に関する話が、生き物より意見が多い。（事務局）
→ 農地は生き物とも関係がある。（委員）
→ 農地＝自然と言われても、効率性、生産性を考えると難しい。みどりの基本計画の検討の中で、農業の方との合意形成が課題である。新しい担い手が必要であり、新しい担い手が生まれるような仕組みが必要である。（会長）
- ・学校の屋上緑地は含んでいるのか。（委員）
→ 航空写真を元に緑被率を算出しているので、投影されていれば緑地に含まれている。（事務局）

（基地跡地について）

- ・国有地である朝霞の森は入っているか。（委員）
→ 入っている。P16 緑被区分の「公共的施設の樹林樹木」や「公共的施設の草地」に含まれている。みどりの基本計画を作成するにあたり、基地跡地は重要な部分と認識している。（事務局）
- ・P9 の計画スケジュールにて、今年の10月から基地跡地、シンボルロードについても1年かけて検討していくことになる。第2期整備工事が2025年には完成予定だったが、財務省との調整で止まっている。市民利用の検討はどのように考えているか。（委員）
→ シンボルロードの管理の方向性、利活用と管理は、市民と会話しながら進めている。昨年から市と包括連携協定を結んでいる公益財団法人都市緑化機構の先生方と協力し、樹木の管理についても検討している。朝霞の森は、無償で市が管理委託している。基地跡地も同じような提案をしているが、1/3 は市に買って欲しいと言われている。将来的に都市公園として計画しているが、市の全体としての資金の計画(10年)を明確に提示しないと、基地の利用(一部を借りる、管理委託する)を認めてもらうことは難しい状況である。昔、基地跡地の見学会を実施していたので、その可能性も検討していきたいと考えている。（事務局）
- 基地跡地は、桜の園といわれていて、1000本くらいある。山桜が多いが、枯れてきている。（原因は調査しないとわからない）再び調査して落葉の森を守っていききたい。市と市民と一緒に調査して対策を考えていくことが必要だと考えている。（委員）
→ みどりの基本計画の策定に併せて基地跡地への立ち入りについて検討したい。（事務局）

- ・基地跡地は、市の真ん中にある重要な土地である。「みどりの基本計画」の中で、基地の自然をどうするか、資金計画をどうするかをはっきりと打ち出せば良いのではないか。(座長)
 - 買収金額は、160 億円くらいである。分割払いも可能と聞いている。基金もある。(事務局)
 - 環境税やクラウドファンディング、ふるさと納税はどうか。(委員)
 - 様々な方策について検討する必要があるものと考えている。(事務局)
- ・市民は、使用できればよい。市が買うことを市民は望んでいない。(委員)
 - もちろん朝霞市として何か努力をしていくことは必要である。(事務局)
- ・例えば国営公園にするとか、都市緑化機構の方でアイデアを出してもらうのはどうか。(座長)
 - 次回の緑化推進会議や庁内会議で皆さんのご意見を伝えたいと思う。みどり公園課だけの話でないため、他の部署と共有する。(事務局)
- ・前に基地跡地の生態系の調査を行ったが、生態系も変化している。生態系の変化を調べる必要がある。そのために市民が調査できるようにしてほしい。(委員)
 - 生態系の調査にしてもお金がかかる。市に財政負担をかけず、調査をすることも考えてほしい。(事務局)
 - 朝霞の鳥や虫の専門家等に協力をお願いしてはどうか。(委員)
 - 良いと思う。(事務局)
- ・都市公園の中に都市林という種別がある。都市林という名前を残して欲しい。(委員)
 - 今、環境省が自然共生サイトを募集している。朝霞として、基地を自然共生サイトにしたいと言え、審査のために調査が必要となる。国が進めている自然共生サイトのための調査であれば、国の協力を得られるのではないか。申請には、具体的に調査や管理の検討は必要だが、申請はできる。(座長)
 - 本日いただいたご意見について、まずは庁内で共有するとともに、みどりの基本計画の検討には、基地跡地の生態系やみどりの現状評価の観点は重要なため基地跡地に立ち入りできるよう調整してみたい。(事務局)

【資料 2 朝霞市におけるグリーンインフラマップの解析】

- ・朝霞の森の水涵養と市役所の涵養の役割や影響はどう違うか。黒目川は水量が多いが、越戸川の水量は少ない、それはなぜか。具体的に理由がわかると有意義である。生物調査は難しい。生き物マップも作成しているが、朝霞は県内でも多様な環境があるが規模が極端に小さい。どう評価するのか。どれくらい生物情報を提供できるのかわからない中で、どれくらいのボリュームをイメージされているのか聞きたい。(委員)
 - 大きなメッシュでの位置情報では解析できないため、正確な位置情報を用いたい。皆さんの調査データで、使える情報があるかお聞きしたい。また、このような評価方法が適切かどうか、堂本先生にもお聞きしたい。(事務局)
 - 朝霞は市民団体がデータを持っているが、全てではない。限りがあり抜けがある。日常的に活動しているところは、活動する中で動植物の記録はあるが、日常的に活動していないところのデータは、抜けていく。どう補填するか。一回場所を決めて調査して、同じような斜面林には同じ生物がいる、ということにするといいと思う。(座長)
 - 同じようなアプローチを行った解析はある(鎌倉市の事例)。主要な緑地のみ調査を行い、市全体のビオトープマップを作成した。回帰式を用いて、生物の多様度を算出した。このようなアプローチも考えられる。(事務局)
- ・基地跡地は、10 年近く入っていない。かつてのデータと現状を比較しないと評価できない。現状の調査が必要である。その際に自然環境団体の人にご協力いただく。水域、湿地環境あれば、朝霞湿性植物保護の会が関わっている調整池があるが、朝霞市の中でベストな状態である。同じような環境がどこにあるのか、それが見えてくればよい。(座長)
 - 朝霞調節地と河川沿いがベストである。どう活かしていくかが大事である。アンケートから漏れている場所に自然が豊富な場所があり、環境的に重要な場所と考える。(委員)

- ・朝霞の場合、大学の教育機関で行っている調査はないか。(座長)
 - 昨年、東洋大学の学生達が、黒目川の流れや人の集まりを分析して発表していた。(委員)
 - 黒目川は、議論になったので、基礎的なデータはあるかもしれない。(座長)
 - 学会で発表していると検索しやすいが、卒論だと調べるのが難しい。(事務局)
- ・この調査に協力をする場合、どのようなことをしたら良いか。(委員)
 - 朝霞の指標種を決めるのが最初である。生き物情報は、今年集まったデータで一度分析してみる。今持っている知見やノウハウで可能な範囲で実施する。紙の地図に丸を付けて、できるだけピンポイントで書き込んで欲しい。(事務局)
 - それぞれができる範囲で一人一人が調査をし、10年間続けると、変化もわかる。(委員)
 - 指標の分類に番号をつけて、それを地図に落としていけばよいと思う。(委員)
- ・それぞれ指標の箱に具体的な種を入れるということを考えている。具体的な種を地図にプロットしていく。朝霞の環境での貴重種を教えていただきたい。過去の調査データがあれば、それを活用させていただく。(事務局)
 - 魚は入っていないが、みどりの基本計画には入れないのか。朝霞にとって黒目川は重要なので、魚も重要だと思う。(委員)
 - 魚も入れる。(事務局)
- ・朝霞の森の3haの広場では、観察会を行っている。300人くらい子どもたちが参加し、毎年40~50種類のデータが蓄積され、5~6年続けている。そのデータは提供できる。(委員)
 - GISで解析するので、できるだけ精緻な位置データがあると良いと考えている。(事務局)
- ・解析の考え方や評価の仕方は皆理解できる。しかし、実際に市民団体の方が、どれくらい協力できるかをしっかり考えていただきたい。どれくらいのものを提供できるか、すぐに答えを出すことは難しいと思う。(座長)
 - 難しいことをお願いしている。生き物台帳はいただいているが、同じ斜面林でも上と下でも異なるので、細かく位置情報が欲しいと考えている。(事務局)
- ・城山公園など緑地単位くらいの話しかできないと思う。(委員)
- ・黒目川も川岸に鳥がたくさん見られるが、上流と下流で種類が違う。(委員)
- ・もし生き物データの積み上げが難しい場合は、植生図ベースの評価を行うことは可能である。日本は植生図が発展している。精緻な植生図に微地形を格納し、その多様性から多様度を算出する、という方法である。(事務局)
- ・記録を残し、鳥の減少の原因等を把握したい。簡単であれば、協力したい。(委員)
 - 次回は時間的余裕を見て、資料を送付させていただく。(事務局)

【その他】

- ・第2回生物多様性市民懇談会は、12月中に開催したい。資料は事前に送付する。その前に何かご意見があれば、ご連絡いただきたい。(事務局)
- ・これまでの10年間のみどりの基本計画の検証についても、その過程やどう評価するのかを知りたい。また、それについて意見を言う場が欲しい。(委員)
 - 今まで基本計画の検証は行い、緑化推進会議や庁内委員会で報告する予定である。ホームページでの公表も予定している。今後ワークショップを開くことも検討しているが、事務局にご意見を言っていただくことはいつでも可能である。(事務局)
- ・みどりの維持管理は大変であるので、このような会議に企業の方に来ていただき、協力していただいた方がよいのではないかと。そのような仕掛けが必要ではないか。(座長)
 - みどりのまちづくり基金はあるが、市が土地を購入することは難しい。企業に協力してもらわないと保全は難しい。先進的な取組をしている企業を教えたい。(事務局)
 - 市民団体の考え方等も理解した上で、企業にも協力をお願いしたい。みどりの基本計画に参加した企業ということで、資金を出してもらおうというような仕組みが欲しい。(座長)

→アドバイザー等の立場で関わってもらうことは可能かもしれない。企業の方とも話をしてみる。(事務局)

第2回 生物多様性市民懇談会 議事録 要点記録

日 時：令和6年12月18日（水） 14時00分～16時00分

場 所：朝霞市役所5階大会議室

出席者：埼玉県生態系保護協会 堂本座長、あさか環境市民会議 松永様、朝霞基地跡の自然を守る会 大野様、朝霞湿性植物保護の会 田之岡様、黒目川に親しむ会 小林様、埼玉県生態系保護協会朝霞支部 冨永様、わくわく新河岸川みどりの会 山本様、秋ヶ瀬野鳥クラブ 田中様

傍聴者：3名

【資料「グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価(経過報告)について」】

- ・土地が駐車場になった時の効果の話があったが、駐車場の舗装の有無（アスファルトか裸地かなど）や建物の種類（コンクリートか木造か等）により違う結果が出るのか。（委員）
→ランドサット画像は解像度が30mであるため、素材や構造との関係を把握することは難しい。サーモカメラによる熱画像と素材の関係に関しては既往研究にあるが本業務では実施できない。（事務局）
- ・炭素固定について、樹木が出す二酸化炭素と固定する二酸化炭素の差はどのくらいか。（委員）
→樹木は若いうちは炭素の吸収が活発で老木になると吸収スピードは落ち、最終的には均衡状態になると考えられている。国でも炭素吸収源の報告があるが、都市公園は30年まで、大規模公園では50年を上限と定めている。本日の資料では、二酸化炭素量の排出については計算していない。（事務局）
- ・代官水は、「だいかんみず」と読む。（委員）
→承知した。（事務局）
- ・これまでのみどりの基本計画は、あまり読まれていない。朝霞らしいみどりの基本計画を策定する時に、水涵養や生き物の話を全面に出して、誰でも理解できるようなものになると楽しいと思う。本屋で、皆に買われるようなみどりの基本計画であるとよいと思う。（委員）
→子どもが読んで興味を持ち、みどりを学ぶきっかけとなると良いのではと考えている。まずは分析により、朝霞のみどりの実態を明らかにすることを進めている。（事務局）
- ・生物多様性評価において植物のデータの割合が少ない印象であった。増やしてはどうか。（委員）
→今回の分析では、動物を中心に指標を設定している。植物に関してはレッドリストや注目種（ラン類）を取り入れた。特定の環境の説明性の高い種があれば注目種に入れてもよいと考えている。皆様のご意見を合わせて完成形にしたいため、入れた方がよい種があれば、ご意見いただきたい。（事務局）
- ・緑地による二酸化炭素削減の効果がどのくらいあるのか、水涵養の量であればプール何個分など市民にわかりやすい説明をしていただきたい。（委員）
→今後市民等への分かりやすい説明の仕方などは事務局で検討され则认为。（座長）
- ・お金に換算すると問題になるが、意識することは大事だと思う。（委員）
- ・本日、4つの切り口の分析の説明があった。更に他の評価も重ね合わせた時にどういう判断をするかという話になるが、個別の分析において客観的なデータがあることは良い。（座長）
- ・資料3のG Iタイプの多様度をどう活用するのか。みどりの基本計画を策定する時に単に多様度だけではなく、外来種など具体的な種についての評価も大事だと思う。（傍聴者）
- ・補足資料3「G Iタイプにおける指標の多様度」は、生物生息情報のある緑地だけでなく、他の緑地や農地、一般市街地面を含めて評価するために作成したものである。この表により市全体の評価ができる。しかし、細かい範囲の分析はある種がどこに生息しているかなど分析をする時には、この表は使えないと考える。（事務局）
- ・流動経路について根拠を教えてください。（委員）
→表土層直下に50m間隔で点を打っている。流動経路のモデルは、その点がどのように動いているのかを算出している。地下水の流れるルールに基づいて算出している。（事務局）

- ・1998年に朝霞駅から東円寺までの2km、朝霞駅から東に1km区間に50か所の井戸を確認して、地下水の流れる方向を導きだした。その時の結果と比べると、流動経路が合わない。もし実測でなく、予測のデータであれば、明記していただきたい。（委員）
→実測ではなく予測によるモデルということを明記する。（事務局）
- ・市から地下水に関するデータをいただいているが、今のお話は初めて聞いたので、ぜひそのデータをいただきたい。実際に井戸の深さ等も可能な限り集めている。（事務局）
→データをお渡しする。（委員）
- ・2005年に地表の温度の調査も実施している。その時のデータと今回のヒートアイランド現象の緩和パフォーマンスの値とリンクしているのか。（委員）
→モデリングなので現状と同じにはならない。市全域を漏れなく分析する場合、現場で実測値を取ることは難しく、リモートセンシングデータを利用した。過去に調べたデータがあれば、ぜひ参考にしたいため共有いただきたい。（事務局）
→データをお渡しする。（委員）
- ・内間木の地表の温度が低いと出ているが、昔と比べて内間木が変容している。畑が資材置き場になっている。昔は竹林が有名であり、遠くの学校から遊びに来ていたが、今は行っていない。湿性植物の会で活動している保護地の周りは林で覆われていたが、今はすかすかになっている。状況が昔と比べて、大きく変容しているということをお知らせしたい。（委員）
- ・みどりの基本計画を改定する際、朝霞特有の湧水などを全面に出してほしい。希少植物や動物が減っている。朝霞の森や国有地、朝霞水門、朝霞調節地の周りなど、特別な場所として載せて欲しい。ボランティア活動についても載せてほしい。ボランティア人材は、高齢化し、帰路に立っている。ボランティアへの募集についてもみどりの基本計画の中に明記し、ボランティア活動への後押しを市にお願いしたい。（委員）
→活動を市がもっと発信していくことが大事だと思っている。アンケートでも活動を知らない人が多い結果であったため、何か対応したい。（事務局）
- ・水資源という言葉は使わないでほしい。水循環法という法律には水資源という言葉が入っていない。石油は資源。水は循環するものであり資源でない。水の環境を大切にしたい、という方が明るい世界になる。水資源を確保するというと暗い世界になる。（委員）
→ご意見の内容については承知した。（事務局）
- ・ヒートアイランドという言葉とクールアイランドの言葉では印象が異なる。クールアイランドという言葉の基本とすることを検討していただきたい。（委員）
- ・炭素固定は、朝霞の森の樹木の数調べ、伐採した際の影響を算出することも検討してほしい。温度のモデリングは、みどりからの恩恵が見えるような形にしてほしい。（委員）
- ・水がどこからきているのかという質問は多い。朝霞市は湧水が多いので説明があるとよい。（委員）
→ご意見の内容については承知した。（事務局）

【その他について】

- ・ボランティア活動への参加動機を聞きたい（座長）
→興味を持った理由は、町内会のイベントで黒目川へ行き、魚や生物に触れたことである。また朝霞市の良いところは、小学校で黒目川や朝霞の森などに行き、自然に触れることができたことである。子どもの時に黒目川で遊んでいた人がボランティアに来ている。（傍聴者）
- ・若い方の参加において、大切なことはあるか。（座長）
→活動の中で役割を与えるとよいと考える。若者が役割を担って活動をすることで愛着が湧いてくると思う。（傍聴者）
→活動の中で楽しい場を用意してくれると若い人も集まると思う。少しずつ下の世代に繋がっていくと、幅広い世代の人達が活動できると思う。（傍聴者）
- ・埼玉県のイベントで、川の再生交流会を実施している。この講演会で生物多様性のことを語ってもらうことになっている。（委員）

- ・東久留米の11か所の樹林について、東京都が樹林の管理方針（A4サイズ1枚）を作成している。目標は現状保全という言葉のみであるが、管理基準を定めており、さらに、外来種の管理やボランティアの育成、そのための予算確保について記述されている。朝霞市にはないので作成をお願いしたい。

→ご意見の内容については承知した。（事務局）

- ・今日お配りしたちらし「シンボルロードの緑地管理を考える（1/26開催）」は、以前より継続して実施してきているシンボルロードを考える会議として開催するが、今回は、みどりの基本計画のワークショップの第1回目を兼ねている。また、市と朝霞基地跡地の自然を守る会との共催で実施するもの。皆さんにもぜひ参加していただきたい。（事務局）
- ・今年度中、2月ごろに第3回生物多様性市民懇談会を予定している。（事務局）

第12回シンボルロードの

管理運営を考える会議

シンボルロードの魅力と 課題から緑地管理を考える

共催：朝霞市
朝霞基地跡地の自然を守る会

1.26 SUN

時間 10:00 ~ 12:00

場所 朝霞市役所

5階 大会議室

シンボルロードは、令和2年のオープン以来、大径木が多く緑陰豊かな憩いの場として多くの市民に利用されています。

一方で土壌の条件や、樹木の老木化や密度等、緑の管理に関する課題も多く見受けられます。

今回の勉強会は、令和6年3月に開催された勉強会に引き続き、（公財）都市緑化機構様にご協力いただき、専門家の幅広い見地からシンボルロードの緑地管理のアイデアについてお話をさせていただきます。

プログラム

- 1 講演 「シンボルロードの魅力と
課題から緑地管理を考える」

講師

（公財）都市緑化機構
環境緑化技術共同研究会
サステナブルグリーン分科会
伊東 伴尾 氏

- 2 現地視察

講師

（公財）都市緑化機構
環境緑化技術共同研究会
伊東 伴尾 氏
豊田 幸夫 氏
直木 哲 氏
藤田 茂 氏

内容

講演・現地視察

注意事項

現地視察を行いますので、
動きやすい服装でお越しください。

申込み

事前申込不要

シンボルロードとは



こちらのQRからご確認ください

お問合せ

埼玉県朝霞市本町1丁目1番1号

朝霞市役所 都市建設部

みどり公園課

Tel. 048-463-0375

（平日 8:30 ~ 17:15）

「新しい公園の使い方を一緒に考えよう！」

～（仮称）宮戸二丁目公園～

このワークショップは、宮戸2丁目に整備される、（仮称）宮戸二丁目公園について、末永く「わたしたちの公園」として身近に感じ利用していただけるように、皆さんから公園の使い方などのアイデアを出していただき、開園後の使い方やかわり方を考えながら、みなさまと一緒に公園を育てていくことを目的に開催するものです。



ワークショップ形式：事前申込不要

- 日 時 ①令和7年1月18日（土）午前10時～12時
②令和7年2月 8日（土）午後 2時～4時
- 場 所 宮戸市民センター2階和室（朝霞市宮戸1丁目2番60号）
- テーマ ①（公園利用のカレンダー＆時間割を考える）
②（公園利用のルール、公園サポーターの役割を整理する）

詳しくはこちら



＜お問い合わせ＞

朝霞市本町1丁目1番1号

朝霞市都市建設部みどり公園課

TEL：048-463-0375 Mail:midori_koen@city.asaka.lg.jp



公園整備のワークショップを開催します。

問／みどり公園課 ☎463-0374

宮戸二丁目及び根岸台五丁目に整備される新しい公園について、
未永く「わたしたちの公園」として身近に感じ利用していただけるように、皆さまから公園の使い方などのアイデアを出していただくことを目的にワークショップを開催します。

市ではこの、ワークショップによる検討結果を踏まえつつ、開園後の利用ルールや管理方針などの具体的な事項を決めて、公園の維持管理運営に反映していきます。

事前申込みは不要です。直接会場へお越しください。

日時・場所

対象公園：(仮称) 宮戸二丁目公園

①令和7年1月18日(土) 午前10時から正午まで

開催場所：宮戸市民センター

②令和7年2月 8日(土) 午後2時から午後4時まで

開催場所：宮戸市民センター

対象公園：まぼりひがし・まぼりみなみ公園

①令和7年1月18日(土) 午後2時から午後4時まで

開催場所：東朝霞公民館

②令和7年2月 8日(土) 午前10時から正午まで

開催場所：東朝霞公民館